

次代を担う子どもの文化芸術体験事業
(巡回公演事業) 検証事業
報告書

平成 24 年 3 月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

【目次】

I. 検証事業の実施概要	1
1. 検証事業の趣旨	1
2. 対象事業の概要	1
3. 業務フロー	4
4. 実施結果の概要	4
II. 巡回公演事業の実施状況	8
1. 過年度の巡回公演事業の開催データ	8
2. 平成22年度の巡回公演事業の開催データ	10
III. 児童・生徒へのアンケート調査・分析結果	26
1. 調査方法	26
2. 回答者属性	26
3. 調査結果	38
IV. 教員へのアンケート調査・分析結果	63
1. 調査方法	63
2. 回答者属性	63
3. 調査結果	67
V. 団体へのアンケート調査・分析結果	85
1. 調査方法	85
2. 回答者属性	85
3. 調査結果	86

VI. 文化芸術に関する類似事例調査・分析結果	108
1. 調査概要・方針	108
2. 調査結果	108
3. 事業内容に関する分析	113
VII. まとめ：「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の 検証結果	115
1. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の評価	115
2. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の課題	123
3. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」自体に 関する提案	125
4. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の評価に 関する提案	132

《参考資料》

1. 児童・生徒へのアンケート調査票
2. 教員へのアンケート調査票
3. 団体へのアンケート調査票

1. 検証事業の実施概要

1. 検証事業の趣旨

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」に関しては、事業を実施した学校が事業完了後に「実施状況報告書」を提出しているものの、詳細な実状把握には至っていないのが現状である。もちろん、文化芸術が子どもたちに対してどのような効果・影響をもたらすのかという点については、短期的には把握は困難である。ただし、本事業について、これまで以上に内容を充実するとともに質の向上を図り、全国的な広がりを推進していくため、効果や課題についての検証は不可欠である。このため、当該事業の分析を行い、その結果をもとに今後の事業実施に役立てることを目的として、本検証事業を実施する。

2. 対象事業の概要

本検証事業の対象となる「巡回公演事業」の概要を以下に整理する。

(1) 事業の目的

小学校・中学校等において、一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、次代の文化の担い手となる子どもたちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業である。

(2) 事業の特徴

文化芸術団体の公演種目は、14の種目に分けられており（表1参照）、「①音楽」「②演劇」「③伝統芸能」「④舞踊」の4つに大別される。

文化芸術団体は、ワークショップと本公演の計2回、学校を訪問する。舞台鑑賞だけでなく、事前にワークショップを行い、公演当日に公演団体と子どもたちが共演することが、本事業の大きな特徴である。ワークショップでは、鑑賞指導や実技指導を行う。

鑑賞場所である学校の体育館は、公演団体により、普段授業などで使用している場所から、本格的な劇場へと変貌するため、児童・生徒たちは優れた舞台芸術を体感することができる。

また、公演団体と学校側の調整がつけば、座談会、質問コーナー、交流給食、舞台裏見学、会場準備のお手伝い等のプログラムも実施可能である。

なお、（本公演に関しての）参加者は、実施校の児童・生徒の全員参加を原則としている。また、児童・生徒、教職員に加えて、保護者等（地域住民等）の参加も認めている。

表 1 文化芸術団体の公演種目

大分類	小分類
音楽	合唱、オーケストラ、音楽劇
演劇	演劇、児童劇、ミュージカル
伝統芸能	歌舞伎、演芸、能楽、邦楽、邦舞、人形浄瑠璃
舞踊	バレエ、現代舞踊

(3) 事業実施までの流れ

事業実施までの流れは次の通りである（図 1 参照）。対象となる学校は全国の小学校・中学校（特別支援学校を含む）約 3 万校である。学校の所在地に応じて、A～J の 10 のブロックに振り分けられており（表 2 参照）、各ブロックに割り当てられた約 10 の文化芸術団体の中から学校等は希望する団体を選択し、教育委員会等を通じて、文化庁に申請する。団体側が提示する実施条件に合致した学校等の中から、募集定数内で採択校が選定され、事業実施に至る。

図 1 事業実施までの流れ

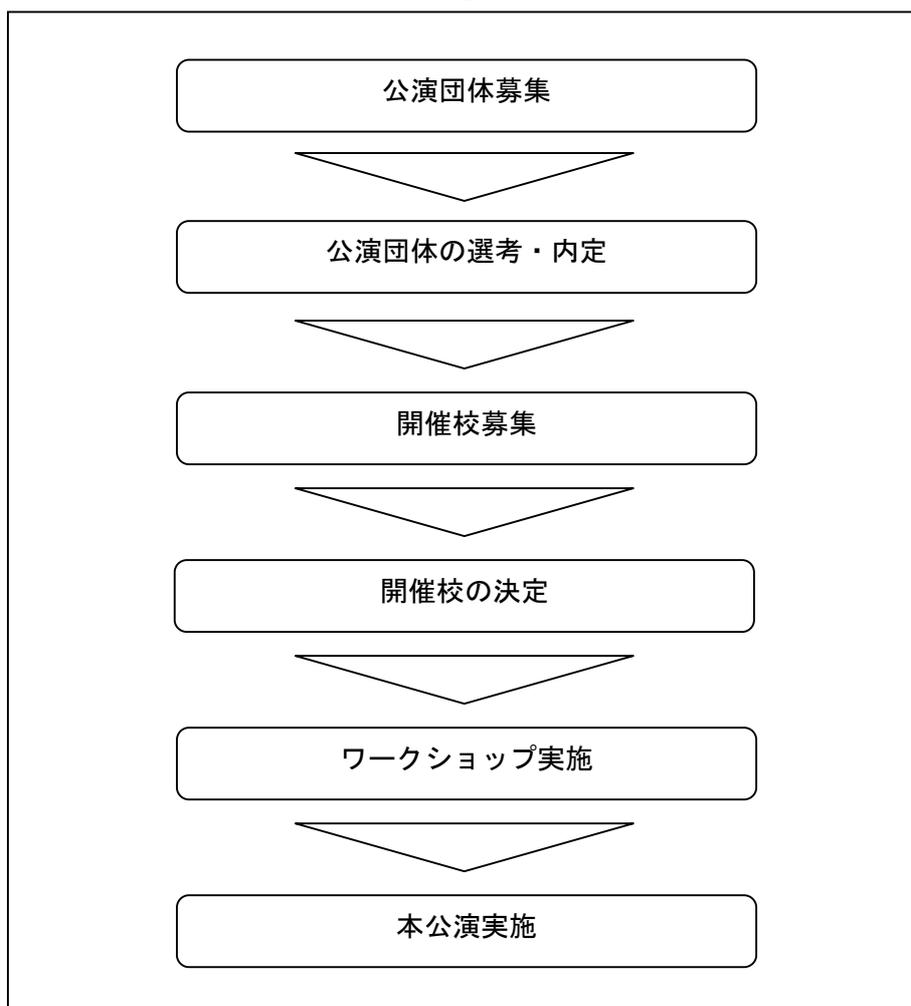


表 2 全国の小学校・中学校等の割り当てブロック

ブロック	所在地（都道府県及び政令指定都市）
A	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県 札幌市、仙台市
B	山形県、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県 さいたま市
C	茨城県、千葉県、東京都、山梨県 千葉市
D	神奈川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県 横浜市、川崎市、相模原市、静岡市、浜松市、名古屋市
E	新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府 新潟市、京都市
F	三重県、滋賀県、大阪府、奈良県、和歌山県 大阪市、堺市
G	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 広島市、岡山市
H	兵庫県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県 神戸市
I	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県 北九州市、福岡市
J	大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

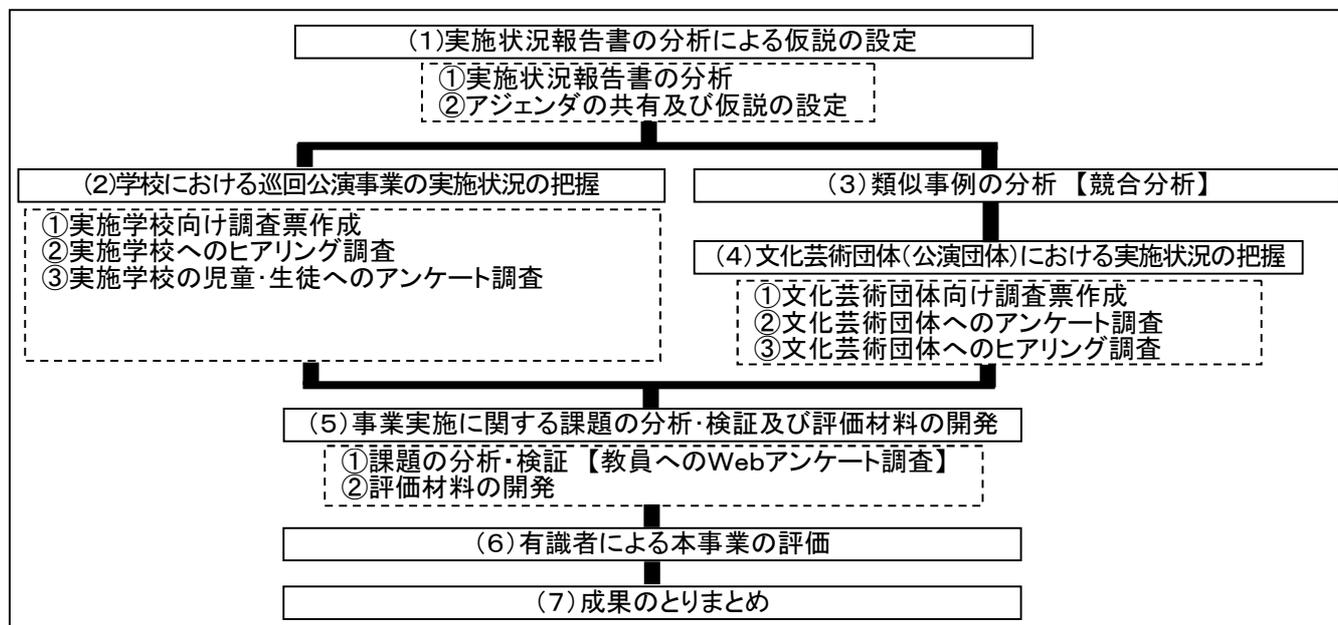
(4) 留意点など

- ・ より多くの児童・生徒が優れた舞台芸術に触れられるよう、複数校による合同開催についても実施を認めている。実施会場は、原則として小学校・中学校等の施設としているが、複数の学校が合同で実施する場合や全校児童・生徒を収容できる施設がない場合等には、文化施設等、適切な施設で実施することを認めている。
- ・ 公演開催にかかる経費については、次の4項目を除いて、文化庁がすべて負担する。「①学校の施設設備の使用にかかる経費」（光熱水料、灯油代、暖房機レンタルなど）、「②体育館の条件整備にかかる経費」（ピアノ移動・調律費、暗幕設置費、電気容量が不足する場合の電気工事等経費など）、「③文化施設を利用する場合の会場借上料」（付帯設備等を含む）、「④その他」（諸雑費）。
- ・ 本事業の公演団体のうち、3年間継続して同じブロックで公演を行う団体を「B区分団体」としている。平成23年度から導入し、初年度は12団体を選定した（平成24年度に1団体追加して現在は13団体）。約100ある団体の中から各分野（音楽・演劇・伝統芸能・舞踊）2、3団体を目安に選定した。継続して同ブロックで公演してもらうことで、団体にも本事業に関わる意義や効果を考えてもらいたいとの狙いがある。

3. 業務フロー

本事業の趣旨を踏まえ、次のような業務フローで巡回公演事業の検証を行った。

図 2 業務フロー



4. 実施結果の概要

各業務の実施結果の概要は次の通りである。

(1) 実施状況報告書の分析による仮説の設定

① 実施状況報告書の分析

文化庁より提供を受けた「平成 22 年度子どものための優れた舞台芸術体験事業」の巡回公演事業分（1,582 公演）の実施状況報告書をもとに、事業の実態、効果や課題等を整理・分析した。

② アジェンダの共有及び仮説の設定

上記の分析結果を踏まえ、文化庁担当者とのディスカッションを通じて、本事業の課題及び今後の方向性についての認識を共有し、本事業の効果及び課題について“仮説”を設定した。

(2) 学校における巡回公演事業の実施状況の把握

① 実施学校向け調査票作成

上記で設定した仮説に基づき、事業実施前後（ワークショップ・本公演、申請時含む）の実態、効果や課題等をシーン別に把握するための調査票を作成した。

② 実施学校へのヒアリング調査

「平成 22 年度子どものための優れた舞台芸術体験事業」の巡回公演事業分（1,582 公演）のうち、以下の条件による二段階の抽出を経た後、文化庁担当者と協議のうえ、調査対象を最終的に 46 校抽出した。

また、学校における巡回公演事業の実施状況を把握する際に、教育委員会等へのヒアリングも必要であるとの結論に至ったため、ご協力頂ける範囲で調査対象校を所管する市区町村教育委員会等にもヒアリングを実施した。なお、プレ・ヒアリング調査は、都内近郊の 3 校及び市区町村教育委員会を対象とした。

■第一次抽出（289 校を抽出）

- ・ 公演内容の素晴らしさ自体についてではなく、本事業のステークホルダー（児童・生徒、教師、保護者、地域住民、など）に対して、どのような効果・影響があったのかについて記述している学校。
- ・ ステレオタイプな感想（例：生、本物、プロ、感動、感性、情操、心豊か など）だけの学校は除外。

■第二次抽出（70 校を抽出）

- ・ 公演種目の 14 分野ごとに 5 校（ヒアリング対象 3～4 校＋予備 1～2 校）を目標に抽出。
- ・ 2012 年 3 月までに今年度追加公演を実施予定の学校（かつ 2010 年度実施校）を最優先。
- ・ 次いで、昨年度と今年度に連続して実施している学校を優先。
- ・ 同一自治体または近隣市町村で複数校が実施している場合も優先（一回の出張で複数のインタビューが可能となる期待があるため）。
- ・ その他、B 団体の実施校を優先。
- ・ なお、地域バランスについては特に配慮していない。
- ・ 特別支援学校または養護学校については、別枠で 2 校（ヒアリング対象 1 校＋予備 1 校）を抽出。

③ 実施学校の児童・生徒へのアンケート調査

プレ・ヒアリング調査実施校 3 校を除く、43 校及び市区町村教育委員会等に対して本ヒアリング調査を実施した。

また、調査対象校には、事前に児童・生徒を対象としたアンケート調査（無記名）も依頼したところ、実施困難であった特別支援学校 1 校を除く、45 校から協力を得られ、9,207 名の児童・生徒からの回答が得られた。

(3) 類似事例の分析 【競合分析】

文化庁より提供を受けた『各都道府県・政令指定都市における「学校での文化芸術体験・鑑賞事業」状況調べ』の調査結果及び Web 検索等により、都道府県及び政令指定都市、民間などが実施している子どもたちを対象とした文化芸術体験に関する類似事例（71 事例）を整理・分析した。抽出条件は以下の通りとした。

■抽出条件

- ・ 対象学年：小学校・中学校が中心。
- ・ 対象分野：「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」が扱う以下の種目が中心。
「音楽」（合唱、オーケストラ、音楽劇）
「演劇」（演劇、児童劇、ミュージカル）
「伝統芸能」（歌舞伎、演芸、能楽、邦楽、邦舞、人形浄瑠璃）
「舞踊」（バレエ、現代舞踊）
- ・ その他：単年度事業でなく継続して行われているもの。

(4) 文化芸術団体（公演団体）における実施状況の把握

① 文化芸術団体向け調査票作成

文化芸術団体には、学校側の実施状況報告書のような資料がなく、実施状況を把握する検討材料が少ないため、プレ・ヒアリング調査を実施し、実態や効果・課題等をいくつか把握した後に、調査票を作成した。

ヒアリング調査対象は、以下の条件により、最終的に 17 団体抽出した。なお、プレ・ヒアリング調査は、都内近郊の 4 団体を対象とした。

■抽出条件

- ・ 「平成 22 年度採択団体」かつ「平成 24 年度採択団体」（B 区分団体を含む）。
- ・ 実施 13 分野から各 1～2 団体を抽出。

② 文化芸術団体へのアンケート調査

「平成 22 年度採択団体」かつ「平成 24 年度採択団体」（B 区分団体を含む）に該当する 75 団体に対して、Web 回答フォームによるアンケート調査を実施した。対象とした 75 団体すべての回答が得られた。

③ 文化芸術団体へのヒアリング調査

プレ・ヒアリング調査実施団体 3 団体を除く、14 団体に対して本ヒアリング調査を実施した。

(5) 事業実施に関する課題の分析・検証及び評価材料の開発

① 課題の分析・検証 【教員へのWebアンケート調査】

民間 Web アンケート調査会社の全国の小中学校教員モニターを用いて、「本事業の実施経験はない」が、「芸術文化体験を所属学校の授業または行事に導入することに関心がある小中学校の教員」に対して Web アンケート調査を実施し、492名の回答が得られた。

② 評価材料の開発

本検証事業で得られた成果を、子どもたちの文化芸術体験について知見を有する有識者から評価を受ける際の評価材料として取りまとめた。

(6) 有識者による本事業の評価

以下に示す有識者に対して、評価資料を事前送付し、資料に目をあらかじめ通して頂いたうえで、ヒアリング調査を実施した。

■評価を依頼した有識者

- ・ 特定非営利活動法人芸術家と子どもたち 理事長 堤 康彦 氏
- ・ 社団法人企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー 若林 朋子 氏
- ・ 静岡文化芸術大学文化政策学部 教授 片山 泰輔 氏
- ・ 静岡舞台芸術センター (SPAC) 芸術監督 宮城 聡
- ・ 昭和音楽大学 教授 武濤 京子 氏

(7) 成果のとりまとめ

上記の調査結果を整理し、報告書を作成した後に、本事業のステークホルダーに応じた成果の取りまとめを行った。取りまとめのポイントとして、「本事業が単なる経費ではなく、未来への投資である」ことを明確化した。また、今後の同事業の PDCA サイクルと評価のための KPI (Key Performance Indicators : 重要業績評価指標) についても提案した。

II. 巡回公演事業の実施状況

1. 過年度の巡回公演事業の開催データ

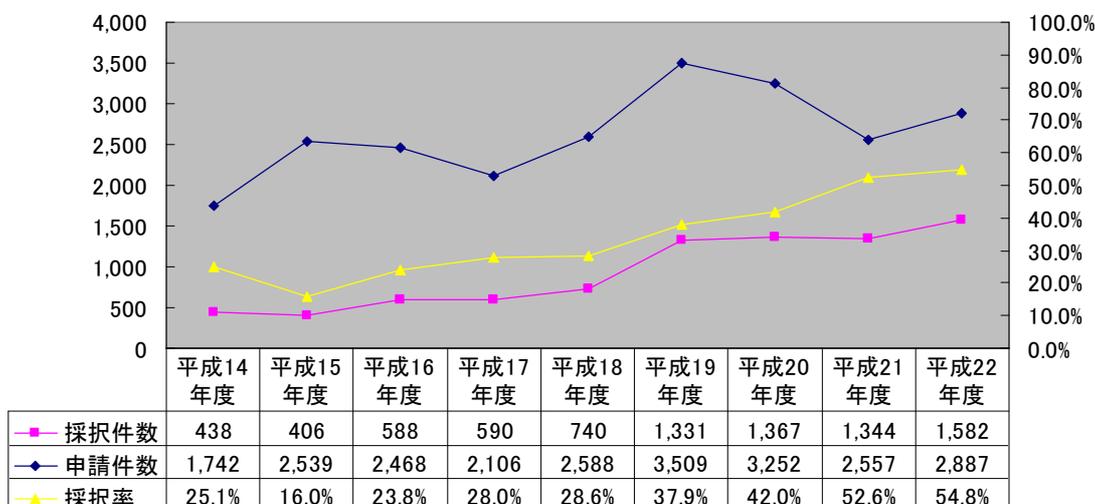
(1) 採択件数及び採択率（総数）

初年度の平成14年度においては、申請総数1,742件の中から、438件が採択されている（採択率25.1%）。2年目の平成15年度は申請件数が約1.5倍に増加したため、採択率が16.0%まで低下しているが、その後は事業費の拡充に伴い、採択件数が増加したため、採択率も増加している。

申請件数のピークは平成19年度であり、約3,500件となっている。その後は事業費の拡充に伴い、採択件数が増加傾向にあるにもかかわらず、申請件数が伸びていないため、採択率が増加し続け、平成21年度には採択率が50%を超えている。

直近の平成22年度においては、申請総数2,887件の中から、1,582件が採択されており、採択率は過去最大の54.8%となっている。

図3 採択件数及び採択率（総数）



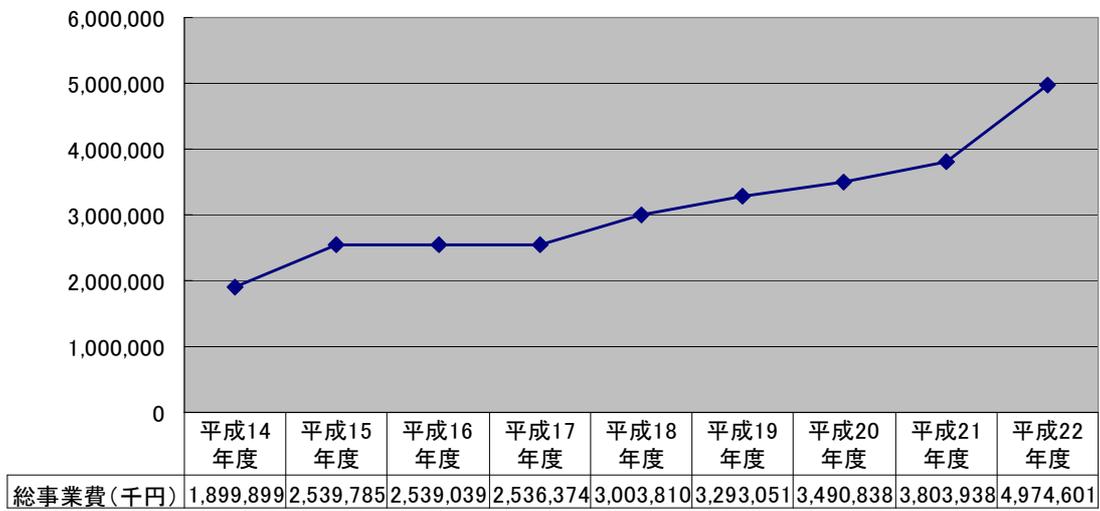
※平成14～21年度の事業名称は「本物の舞台芸術体験事業」

(2) 総事業費（予算額）

本事業は、ほぼ同じスキームのものとしては、平成14年度に「本物の舞台芸術体験事業」という名称で約19億円の事業費（予算額）で開始された。その後、事業費は拡大し、平成15～17年度は約25億円で推移した後、平成18年度には約30億円にのぼり、平成21年度の約38億円に至るまで増加し続けている。

平成22年度には現在の名称である「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」に事業名を改め、事業費も約50億円に急拡大している。

図4 巡回公演事業における過年度の総事業費（予算額）



※平成14～21年度の事業名称は「本物の舞台芸術体験事業」

2. 平成 22 年度の巡回公演事業の開催データ

(1) 採択件数及び採択率

① 採択件数及び採択率（総数）

平成 22 年度においては、申請総数 2,887 件の中から、1,582 件が採択され（採択率 54.8%）、巡回公演事業の実施に至っている。

また、実施件数 1,582 件のうち、ワークショップで 97 件、本公演で 292 件が近隣の学校と合同開催している。その結果、ワークショップでは計 1,768 校、本公演では計 2,237 校が本事業を体験したことになる。

なお、平成 22 年度に申請対象となっている全国の小学校・中学校（特別支援学校を含む）は 33,854 校（小学校：22,000 校、中学校：10,815 校、特別支援学校：1,039 校 文部科学省「学校基本調査」より）であり、全体の約 8.5%の学校が申請をし、約 4.7%の学校が採択され、実施に至っている。合同開催校を含んだ場合、ワークショップで約 5.2%、本公演で約 6.6%の学校が本事業を通じて文化芸術体験をしたことになる。

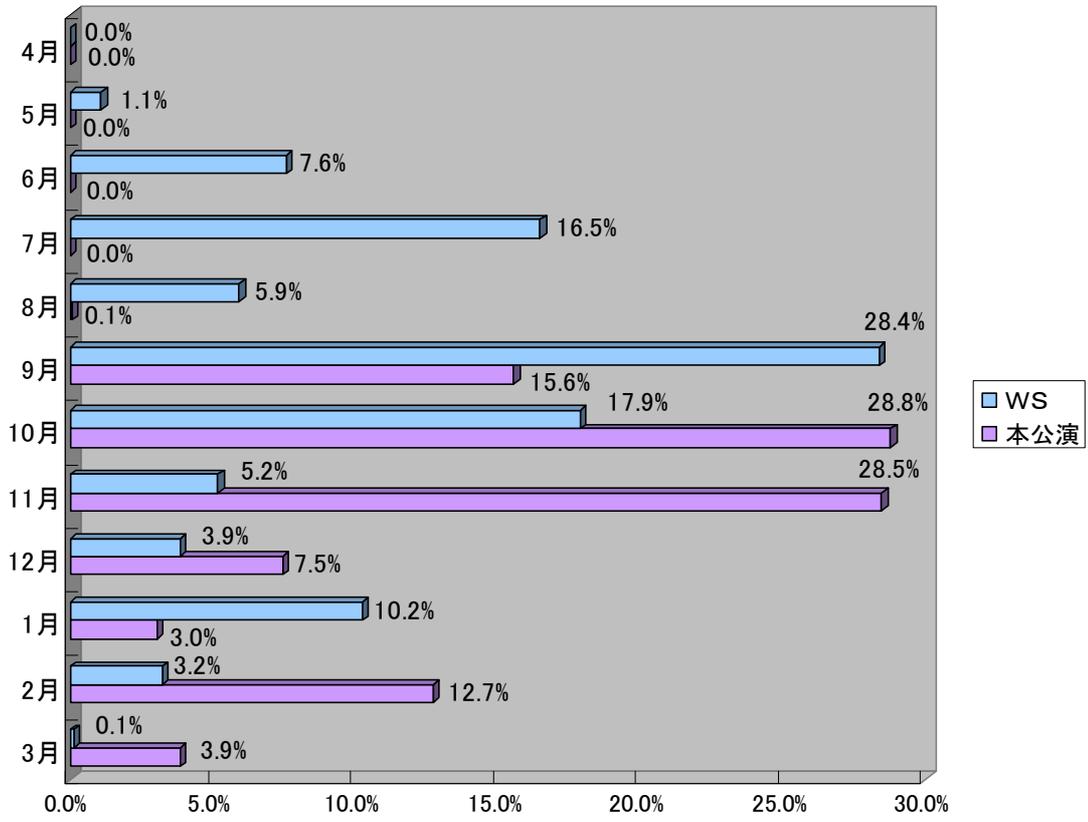
実施件数における主催者の種別の内訳は、「小学校」（75.6%）、「中学校」（19.6%）、「特別支援学校」（3.1%）、「教育委員会」（0.3%）、「その他」（1.5%）となっている。その他としては、財団法人や文化ホールなどが含まれている。

なお、開催月において、ワークショップでは、「9 月」（28.4%）が最も多く、次いで「10 月」（17.9%）、「7 月」（16.5%）が上位となっており、秋口に集中がみられる。本公演では、「10 月」（28.8%）が最も多く、次いで「11 月」（28.5%）、「9 月」（15.6%）が上位となっており、ワークショップ開催の集中が 1 ヶ月程度シフトしたところに本公演の集中がみられる。

表 3 採択件数（主催者の種別）

種別	採択件数	構成比
小学校	1,196	75.6%
中学校	310	19.6%
特別支援学校	49	3.1%
教育委員会	4	0.3%
その他	23	1.5%
合計	1,582	100.0%

図 5 ワークショップ及び本公演の開催月 (n=1,581)



② 採択件数及び採択率（種目別）

種目別の採択件数については、大分類では、「演劇」（38.9%）が最も多く、次いで「音楽」（33.8%）、「伝統芸能」（22.1%）、「舞踊」（5.2%）の順となっている。小分類では、「オーケストラ」（25.0%）が最も多く、次いで「児童劇」（18.4%）、「ミュージカル」（13.3%）が上位となっている。

一方、個別の種目では、「歌舞伎」（0.8%）、「現代舞踊」（0.8%）の2つの分野において実施件数が最も少なくなっている。

採択率については、大分類では、「舞踊」（85.6%）が最も高く、次いで「伝統芸能」（68.4%）、「演劇」（54.8%）、「音楽」（46.2%）の順となっている。小分類では、「現代舞踊」（120.0%）と「邦舞」（111.8%）が100%を超えている。一方、「オーケストラ」（42.5%）が最も低くなっている。

表 4 採択件数及び採択率（種目別）

種目	採択件数	構成比	申請件数	採択率
音楽	534	33.8%	1,156	46.2%
合唱	86	5.4%	145	59.3%
オーケストラ	396	25.0%	931	42.5%
音楽劇	52	3.3%	80	65.0%
演劇	616	38.9%	1,124	54.8%
演劇	114	7.2%	181	63.0%
児童劇	291	18.4%	516	56.4%
ミュージカル	211	13.3%	427	49.4%
伝統芸能	349	22.1%	510	68.4%
歌舞伎	13	0.8%	25	52.0%
演芸	99	6.3%	178	55.6%
能楽	122	7.7%	180	67.8%
邦楽	47	3.0%	54	87.0%
邦舞	19	1.2%	17	111.8%
人形浄瑠璃	49	3.1%	56	87.5%
舞踊	83	5.2%	97	85.6%
バレエ	71	4.5%	87	81.6%
現代舞踊	12	0.8%	10	120.0%
合計	1,582	100.0%	2,887	54.8%

※上記のうち、「申請件数」は第一希望のデータであり、「採択件数」は第二希望も含めた実際の採択分野のデータであるため、「採択率」が100%を超える場合もある。

③ 採択件数及び採択率（ブロック別）

ブロック別の採択件数については、最大で 178 件（Hブロック：兵庫県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・神戸市）、最小で 140 件（Fブロック：三重県・滋賀県・大阪府・奈良県・和歌山県・大阪市・堺市）が採択されている。

採択率については、最大で 65.6%（Iブロック：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・北九州市・福岡市）、最小で 48.6%（Gブロック：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・広島市・岡山市）となっている。

表 5 採択件数及び採択率（ブロック別）

ブロック	採択件数	構成比	申請件数	採択率
A	147	9.3%	283	51.9%
B	160	10.1%	296	54.1%
C	175	11.1%	300	58.3%
D	159	10.1%	324	49.1%
E	141	8.9%	229	61.6%
F	140	8.8%	260	53.8%
G	161	10.2%	331	48.6%
H	178	11.3%	338	52.7%
I	177	11.2%	270	65.6%
J	144	9.1%	256	56.3%
合計	1,582	100.0%	2,887	54.8%

(2) 参加者数

① 参加者数（総数）

全国の実施件数 1,581 件（※）における参加者総数は、ワークショップが約 24 万人（242,217 人）、本公演が約 57 万人（571,908 人）となっている。小学生・中学生（特別支援学校を含む）のみの参加者総数は、ワークショップが約 22 万人（220,806 人）、本公演が約 48 万人（475,658 人）となっている。

なお、平成 22 年度に参加対象となっている全国の小学生・中学生（特別支援学校を含む）は 10,673,357 人（小学校：6,993,376 人、中学校：3,558,166 人、特別支援学校：121,815 人 文部科学省「学校基本調査」より）であるので、全国の約 2.1%の小学生・中学生がワークショップに参加し、約 4.5%の小学生・中学生が本公演に参加していることになる。

（※）宮城県東松島市立大曲小学校が、東日本大震災の影響で実施状況報告書を提出できていないため、以降のデータは 1 件少ない 1,581 件分に該当する。

② 参加者数（学年等別）

学年等別のワークショップの参加者数については、大分類では、「小学生」（72.5%）が最も多く、次いで「中学生」（18.6%）、「教職員」（7.3%）、「保護者等」（0.8%）、「在校生その他」（0.7%）（※高等部等の対象外の併設校の生徒等）の順となっている。小分類では、「小学校 6 年生」（16.9%）が最も多く、次いで「小学校 5 年生」（13.8%）、「小学校 4 年生」（12.6%）と、小学校の高学年が上位となっている。

学年等別の本公演の参加者数については、大分類では、「小学生」（67.3%）が最も多く、次いで「中学生」（15.9%）、「保護者等」（8.7%）、「教職員」（6.9%）、「在校生その他」（1.3%）の順となっている。本公演には、保護者や地域住民等が多数招待されていることがわかる。小分類では、「小学校 6 年生」（12.4%）が最も多く、次いで「小学校 5 年生」（11.9%）、「小学校 4 年生」（11.5%）と、ワークショップと同様に小学校の高学年が上位となっている。

表 6 ワークショップ及び本公演参加者数（学年等別）

学年等	【WS】参加者数	構成比	【本公演】参加者数	構成比
小学生・中学生	220,806	91.2%	475,658	83.2%
小学生	175,634	72.5%	384,670	67.3%
小学校1年生	22,536	9.3%	58,801	10.3%
小学校2年生	21,700	9.0%	58,551	10.2%
小学校3年生	26,408	10.9%	62,208	10.9%
小学校4年生	30,633	12.6%	65,955	11.5%
小学校5年生	33,523	13.8%	68,326	11.9%
小学校6年生	40,834	16.9%	70,829	12.4%
中学生	45,172	18.6%	90,988	15.9%
中学校1年生	14,651	6.0%	31,915	5.6%
中学校2年生	14,935	6.2%	31,109	5.4%
中学校3年生	15,586	6.4%	27,964	4.9%
在校生その他	1,637	0.7%	7,189	1.3%
教職員	17,797	7.3%	39,335	6.9%
保護者等	1,977	0.8%	49,726	8.7%
合計	242,217	100.0%	571,908	100.0%

③ 参加者数（種目別）

種目別のワークショップの参加者数については、大分類では、「音楽」（50.1%）が最も多く、次いで「伝統芸能」（23.9%）、「演劇」（21.6%）、「舞踊」（4.4%）の順となっている。小分類では、「オーケストラ」（38.4%）が最も多く、次いで「ミュージカル」（10.7%）、が上位となっている。なお、「邦舞」（1.0%）が最も少なくなっている。

種目別の本公演の参加者数については、ワークショップと同様に、大分類では、「音楽」（37.1%）が最も多く、次いで「演劇」（36.8%）、「伝統芸能」（21.1%）、「舞踊」（5.0%）の順となっている。小分類では、「オーケストラ」（29.1%）が最も多く、次いで「児童劇」（16.0%）、「ミュージカル」（14.0%）が上位となっている。なお、「歌舞伎」（0.8%）が最も少なくなっている。

表 7 ワークショップ及び本公演参加者数（種目別）

種目	【WS】参加者数	構成比	【本公演】参加者数	構成比
音楽	121,333	50.1%	212,139	37.1%
合唱	19,490	8.0%	27,224	4.8%
オーケストラ	92,933	38.4%	166,308	29.1%
音楽劇	8,910	3.7%	18,607	3.3%
演劇	52,316	21.6%	210,464	36.8%
演劇	7,254	3.0%	38,728	6.8%
児童劇	19,255	7.9%	91,639	16.0%
ミュージカル	25,807	10.7%	80,097	14.0%
伝統芸能	58,001	23.9%	120,532	21.1%
歌舞伎	4,302	1.8%	4,505	0.8%
演芸	17,616	7.3%	35,597	6.2%
能楽	18,882	7.8%	40,213	7.0%
邦楽	7,465	3.1%	16,981	3.0%
邦舞	2,497	1.0%	6,755	1.2%
人形浄瑠璃	7,239	3.0%	16,481	2.9%
舞踊	10,567	4.4%	28,773	5.0%
バレエ	7,721	3.2%	23,804	4.2%
現代舞踊	2,846	1.2%	4,969	0.9%
合計	242,217	100.0%	571,908	100.0%

④ 参加者数（地域別）

地域別の参加者数については、ワークショップは最大で約 3.4 万人（Bブロック：山形県・福島県・栃木県・群馬県・埼玉県・さいたま市）、最小で約 1.2 万人（Jブロック：大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県）となっている。

本公演は最大で約 7.8 万人（Dブロック：神奈川県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・横浜市・川崎市・相模原市・静岡市・浜松市・名古屋市）、最小で約 4.3 万人（Jブロック：大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県）となっている。

表 8 ワークショップ及び本公演参加者数（地域別）

ブロック	【WS】参加者数	構成比	【本公演】参加者数	構成比
A	21,277	8.8%	45,750	8.0%
B	34,286	14.2%	57,180	10.0%
C	28,067	11.6%	66,899	11.7%
D	32,516	13.4%	78,646	13.8%
E	22,105	9.1%	49,020	8.6%
F	19,744	8.2%	52,318	9.1%
G	23,261	9.6%	54,801	9.6%
H	21,369	8.8%	65,341	11.4%
I	27,500	11.4%	58,647	10.3%
J	12,092	5.0%	43,306	7.6%
合計	242,217	100.0%	571,908	100.0%

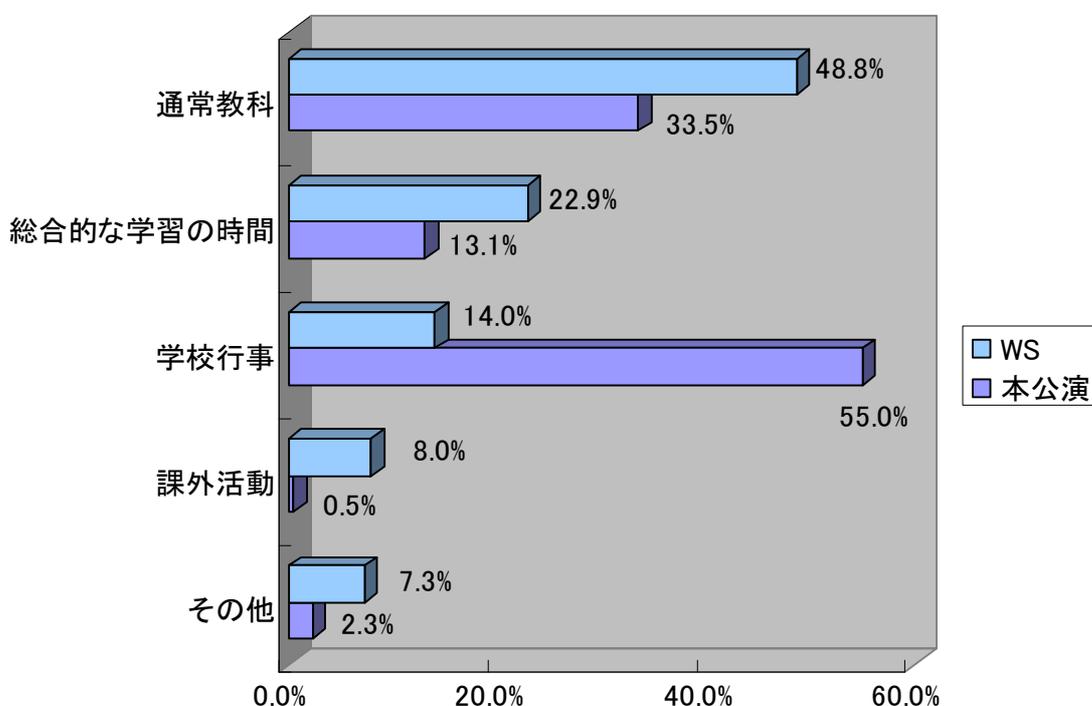
(3) 本事業の位置づけ

① 本事業の位置付け（総数）

本事業を実施する際の学校における位置づけについて、ワークショップでは、「通常教科」(48.8%) が最も多く、次いで「総合的な学習の時間」(22.9%)、「学校行事」(14.0%)、「課外活動」(8.0%)、「その他」(7.3%) の順となっている。

本公演では、「学校行事」(55.0%) が最も多く、次いで「通常教科」(33.5%)、「総合的な学習の時間」(13.1%)、「その他」(2.3%)、「課外活動」(0.5%) の順となっている。本公演では、全校生徒が参加することが多いため、学校行事の時間が活用されていることが想定される。

図 6 ワークショップ及び本公演の位置づけ (MA、n=1,581)



② 本事業の位置付け（主催者別）

本事業を実施する際の学校における位置付けについて、小学校では全体の傾向と同じく、ワークショップでは、「通常教科」が最も多く、次いで「総合的な学習の時間」となっており、本公演では、「学校行事」が最も多く、次いで「通常教科」となっている。

その他の主催者ではやや傾向が異なる。中学校では、ワークショップが「総合的な学習の時間」、「通常教科」の順で、本公演が「学校行事」、「総合的な学習の時間」。特別支援学校では、ワークショップが「通常教科」、「学校行事」の順で、本公演が「学校行事」、「通常教科」となっている。

また、教育委員会では、ワークショップが「総合的な学習の時間」、「通常教科」が共に最も多く、本公演が「学校行事」、「総合的な学習の時間」。その他（財団法人や文化ホール等）では、ワークショップが「課外活動」、「総合的な学習の時間」の順で、本公演が「総合的な学習の時間」、「学校行事」となっている。

表 9 ワークショップ及び本公演の活用時間（主催者別・MA）

主催者	ワークショップ					本公演					
	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他	
全体	48.8%	22.9%	14.0%	8.0%	7.3%	33.5%	13.1%	55.0%	0.5%	2.3%	(n=1581)
小学校	56.1%	20.4%	12.6%	6.2%	5.7%	38.5%	7.9%	56.4%	0.5%	1.4%	(n=1195)
中学校	23.5%	33.5%	17.4%	13.5%	12.6%	17.7%	31.0%	50.3%	0.3%	3.9%	(n=310)
特別支援学校	44.9%	12.2%	32.7%	0.0%	12.2%	22.4%	10.2%	55.1%	0.0%	12.2%	(n=49)
教育委員会	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	(n=4)
その他	17.4%	26.1%	4.3%	43.5%	13.0%	17.4%	47.8%	43.5%	4.3%	8.7%	(n=23)

③ 本事業の位置付け（種目別）

「音楽」については、学校の通常教科の中に含まれている種目のため、ワークショップにおいても、本公演においても通常教科の時間が多く活用されており、特に、「合唱」はそれぞれで最も多く活用されている。また、「邦楽」も同様の傾向にある。

表 10 ワークショップ及び本公演の活用時間（種目別・MA）

種目	ワークショップ					本公演						
	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他		
全体	48.8%	22.9%	14.0%	8.0%	7.3%	33.5%	13.1%	55.0%	0.5%	2.3%	(n=1581)	
音楽	合唱	77.6%	7.1%	15.3%	0.0%	2.4%	52.9%	10.6%	36.5%	0.0%	0.0%	(n=85)
	オーケストラ	74.9%	8.4%	11.4%	3.5%	2.5%	49.1%	6.8%	45.3%	0.0%	1.5%	(n=395)
	音楽劇	42.3%	11.5%	13.5%	19.2%	11.5%	38.5%	13.5%	48.1%	0.0%	3.8%	(n=52)
演劇	演劇	18.3%	40.4%	4.6%	22.9%	11.0%	15.6%	21.1%	63.3%	0.9%	3.7%	(n=109)
	児童劇	40.9%	36.1%	10.5%	5.7%	7.4%	21.6%	9.8%	69.6%	1.4%	2.4%	(n=296)
	ミュージカル	45.0%	22.3%	12.3%	11.4%	11.4%	30.8%	14.7%	59.7%	0.0%	3.8%	(n=211)
伝統芸能	歌舞伎	0.0%	7.7%	23.1%	23.1%	46.2%	7.7%	23.1%	69.2%	0.0%	7.7%	(n=13)
	演芸	24.2%	27.3%	29.3%	14.1%	10.1%	21.2%	16.2%	65.7%	0.0%	3.0%	(n=99)
	能楽	41.8%	27.0%	16.4%	6.6%	11.5%	32.8%	26.2%	41.0%	0.8%	3.3%	(n=122)
	邦楽	61.2%	16.3%	12.2%	2.0%	6.1%	49.0%	10.2%	46.9%	0.0%	0.0%	(n=49)
	邦舞	42.1%	36.8%	21.1%	0.0%	5.3%	31.6%	21.1%	47.4%	0.0%	5.3%	(n=19)
舞踊	人形浄瑠璃	18.4%	38.8%	32.7%	6.1%	4.1%	24.5%	12.2%	63.3%	2.0%	0.0%	(n=49)
	バレエ	37.1%	25.7%	20.0%	10.0%	5.7%	28.6%	18.6%	54.3%	1.4%	1.4%	(n=70)
	現代舞踊	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	75.0%	0.0%	0.0%	(n=12)

④ 本事業の位置づけ（地域別）

本事業を実施する際の学校における位置づけについて、各ブロック概ね全体の傾向と同じく、ワークショップでは、「通常教科」が最も多く、次いで「総合的な学習の時間」となっており、本公演では、「学校行事」が最も多く、次いで「通常教科」となっている。

表 11 ワークショップ及び本公演の活用時間（地域別・MA）

ブロック	ワークショップ					本公演					
	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他	通常教科	総合的な学習の時間	学校行事	課外活動	その他	
全体	48.8%	22.9%	14.0%	8.0%	7.3%	33.5%	13.1%	55.0%	0.5%	2.3%	(n=1581)
A	57.5%	20.5%	13.0%	4.8%	4.8%	43.2%	17.1%	41.1%	0.7%	1.4%	(n=146)
B	61.9%	20.0%	16.9%	2.5%	3.8%	43.8%	11.3%	46.9%	0.6%	2.5%	(n=160)
C	47.4%	18.3%	12.0%	10.9%	8.6%	33.7%	12.0%	55.4%	0.0%	0.6%	(n=175)
D	37.7%	26.4%	17.0%	10.1%	8.8%	36.5%	16.4%	48.4%	0.0%	3.1%	(n=159)
E	56.7%	14.9%	14.2%	8.5%	5.7%	32.6%	5.0%	61.0%	0.0%	0.7%	(n=141)
F	40.7%	40.7%	10.7%	5.7%	2.9%	16.4%	15.0%	70.7%	0.0%	1.4%	(n=140)
G	49.1%	21.1%	21.7%	6.8%	4.3%	23.0%	13.7%	66.5%	1.9%	1.9%	(n=161)
H	42.7%	29.2%	7.9%	12.9%	7.9%	31.5%	12.9%	57.9%	0.0%	1.7%	(n=178)
I	53.1%	22.6%	16.4%	2.8%	6.8%	33.9%	14.1%	54.8%	1.7%	2.3%	(n=177)
J	41.0%	15.3%	10.4%	14.6%	20.1%	40.3%	13.2%	47.9%	0.0%	8.3%	(n=144)

(4) 開催場所

① 開催場所（総数）

本事業を実施する開催場所については、ワークショップ、本公演ともに 9 割以上が学校での開催となっている。本公演については、合同開催により、近隣のホール等で開催されているケースがワークショップと比較して多い。

表 12 ワークショップ及び本公演の開催場所（総数）

開催場所	ワークショップ	構成比	本公演	構成比
学校	1,540	97.4%	1483	93.8%
学校以外のホール等	41	2.6%	98	6.2%
合計	1,581	100.0%	1581	100.0%

② 開催場所（主催者別）

小学校、中学校、特別支援学校では、概ね全体の傾向と同じく、ワークショップ、本公演ともにほぼ学校で開催されているが、その中でも中学校の本公演においては、1割程度、学校以外のホール等で開催されている。なお、その他（財団法人や文化ホール等）では、本公演が100%学校以外のホール等で開催されている。

表 13 ワークショップ及び本公演の開催場所（主催者別）

主催者	ワークショップ		本公演		
	学校	学校以外のホール等	学校	学校以外のホール等	
全体	97.4%	2.6%	93.8%	6.2%	(n=1581)
小学校	99.0%	1.0%	97.2%	2.8%	(n=1195)
中学校	94.8%	5.2%	88.4%	11.6%	(n=310)
特別支援学校	95.9%	4.1%	95.9%	4.1%	(n=49)
教育委員会	100.0%	0.0%	25.0%	75.0%	(n=4)
その他	52.2%	47.8%	0.0%	100.0%	(n=23)

③ 開催場所（種目別）

いずれの種目においても、ワークショップ、本公演ともにほぼ学校で開催されているが、ワークショップにおいては、「音楽劇」（9.6%）、「演劇」（7.3%）、本公演においては、「演劇」（13.8%）、「邦舞」（10.5%）「ミュージカル」（10.0%）、「音楽劇」（9.6%）がそれぞれ1割程度、学校以外のホール等で開催されている。

表 14 ワークショップ及び本公演の開催場所（種目別）

種目	ワークショップ		本公演			
	学校	学校以外のホール等	学校	学校以外のホール等		
全体	97.4%	2.6%	93.8%	6.2%	(n=1581)	
音楽	合唱	100.0%	0.0%	95.3%	4.7%	(n=85)
	オーケストラ	97.5%	2.5%	93.9%	6.1%	(n=395)
	音楽劇	90.4%	9.6%	90.4%	9.6%	(n=52)
演劇	演劇	92.7%	7.3%	86.2%	13.8%	(n=109)
	児童劇	97.6%	2.4%	96.6%	3.4%	(n=296)
	ミュージカル	97.2%	2.8%	90.0%	10.0%	(n=211)
伝統芸能	歌舞伎	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	(n=13)
	演芸	100.0%	0.0%	94.9%	5.1%	(n=99)
	能楽	98.4%	1.6%	95.9%	4.1%	(n=122)
	邦楽	100.0%	0.0%	98.0%	2.0%	(n=49)
	邦舞	100.0%	0.0%	89.5%	10.5%	(n=19)
舞踊	人形浄瑠璃	98.0%	2.0%	95.9%	4.1%	(n=49)
	バレエ	97.1%	2.9%	94.3%	5.7%	(n=70)
	現代舞踊	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	(n=12)

(5) 地元主催者負担額

① 地元主催者負担額（総数）

全国の実施件数 1,581 件のうち、約半数の 714 件（45.2%）で地元主催者の負担額が発生しており、発生した平均金額は約 1.7 万円（16,969 円）となっている。

② 地元主催者負担額（主催者別）

主催者別の地元主催者に負担額が発生した件数から発生率を算出すると、「教育委員会」（75.0%）が最も高く、次いで「その他」（73.9%）、「中学校」（53.2%）、小学校（42.7%）、「特別支援学校」（38.8%）の順となっている。

発生した平均金額については、「その他」の約 10 万円が最も高く、次いで「教育委員会」の約 1.9 万円、「小学校」・「中学校」の 1.5 万円、「特別支援学校」の 1.2 万円となっている。

なお、「その他」とは、地域の文化財団等であり、本公演の会場はすべて学校以外のホール等で開催されているため、会場使用料などで負担額が大きくなっている。

表 15 地元主催者に負担額が発生した件数（発生率）及び平均金額（主催者別）

主催者	実施件数	発生件数	発生率	平均金額
小学校	1,195	510	42.7%	15,034
中学校	310	165	53.2%	14,886
特別支援学校	49	19	38.8%	12,496
教育委員会	4	3	75.0%	19,383
その他	23	17	73.9%	99,785
合計	1,581	714	45.2%	16,969

③ 地元主催者負担額（種目別）

種目別の地元主催者に負担額が発生した件数から発生率を算出すると、大分類では、「音楽」（56.7%）が最も高く、次いで「舞踊」（53.7%）、「演劇」（38.3%）、「伝統芸能」（37.6%）の順となっている。小分類では、「歌舞伎」（84.6%）が最も高く、次いで「音楽劇」（61.5%）、「合唱」（60.5%）が上位となっている。なお、「現代舞踊」（25.0%）が最も低くなっている。

発生した平均金額については、大分類では、「演劇」の約 2.3 万円が最も高く、次いで「舞踊」の約 1.6 万円、「伝統芸能」・「音楽」は約 1.3 万円となっている。小分類では、「歌舞伎」の約 7.2 万円が最も高くなっている。これは本公演を開催するにあたって、学校の体育館の電圧が足りないため、電気工事や電源車の確保が必要となるケースが大半であり、他の種目と比べて費用負担が大きくなっている。次いで「ミュージカル」の 3.3 万円が上位となっている。

表 16 地元主催者に負担額が発生した件数（発生率）及び平均金額（種目別）

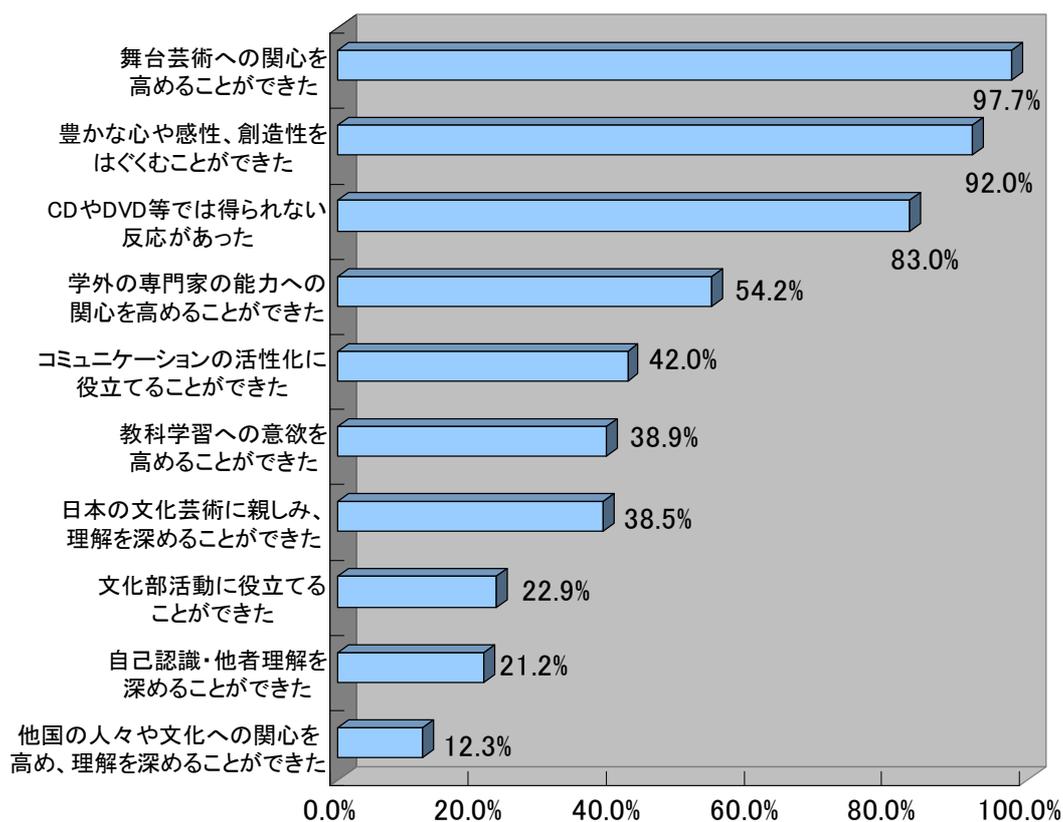
種目	実施件数	発生件数	発生率	平均金額
音楽	533	302	56.7%	13,266
合唱	86	52	60.5%	12,408
オーケストラ	395	218	55.2%	12,772
音楽劇	52	32	61.5%	18,027
演劇	616	236	38.3%	23,877
演劇	109	39	35.8%	17,169
児童劇	296	104	35.1%	18,029
ミュージカル	211	93	44.1%	33,231
伝統芸能	351	132	37.6%	13,349
歌舞伎	13	11	84.6%	72,259
演芸	99	29	29.3%	8,472
能楽	122	41	33.6%	6,943
邦楽	49	20	40.8%	7,077
邦舞	19	8	42.1%	4,906
人形浄瑠璃	49	23	46.9%	11,132
舞踊	82	44	53.7%	16,185
バレエ	70	41	58.6%	16,833
現代舞踊	12	3	25.0%	7,331
合計	1,581	714	45.2%	16,969

(6) 学校による評価

① 学校による評価（総数）

本事業を実施後の学校による評価では、「舞台芸術への関心を高めることができた」(97.7%)が最も多く、次いで「豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた」(92.0%)、「CDやDVD等では得られない反応があった」(83.0%)が上位となっている。

図 7 学校による評価 (MA、n=1,581)



② 学校による評価（主催者別）

「舞台芸術への関心を高めることができた」、「豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた」については、「教育委員会」および「その他」の回答者の 100%から評価されている。

また、「CDやDVD等では得られない反応があった」についても、「教育委員会」の回答者の 100%から評価されている。

その他、「学外の専門家の能力への関心を高めることができた」については、「その他」(73.9%) の回答者の 7 割以上が高く評価している。

表 17 事業実施後の主催者による評価（主催者別・MA）

	舞台芸術への関心を高めることができた	豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた	コミュニケーションの活性化に役立てることができた	自己認識・他者理解を深めることができた	教科学習への意欲を高めることができた	文化部活動に役立てることができた	学外の専門家の能力への関心を高めることができた	日本の文化芸術に親しみ、理解を深めることができた	他国の文化や文化への関心を高め、理解を深めることができた	CDやDVD等では得られない反応があった	
全体	97.8%	92.1%	42.1%	21.2%	39.0%	23.0%	54.3%	38.5%	12.3%	83.0%	(n=1581)
小学校	97.7%	92.6%	42.2%	20.4%	40.1%	20.8%	55.5%	38.0%	12.0%	82.2%	(n=1195)
中学校	98.4%	89.7%	39.7%	25.8%	36.1%	31.9%	51.6%	41.0%	14.2%	84.8%	(n=310)
特別支援学校	95.9%	91.8%	53.1%	6.1%	34.7%	8.2%	34.7%	36.7%	12.2%	91.8%	(n=49)
教育委員会	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%	(n=4)
その他	100.0%	100.0%	43.5%	26.1%	26.1%	43.5%	73.9%	39.1%	4.3%	82.6%	(n=23)

③ 学校による評価（種目別）

「舞台芸術への関心を高めることができた」については、「歌舞伎」、「邦楽」、「邦舞」、「バレエ」、「現代舞踊」の各分野が回答者の 100%から評価されている。

また、「豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた」については、「オーケストラ」(96.7%) の事業において最も評価されている。

その他、「コミュニケーションの活性化に役立てることができた」については、「ミュージカル」(63.0%) が最も評価されている。

表 18 事業実施後の主催者による評価（種目別・MA）

種目	舞台芸術への関心を高めることができた	豊かな心や感性、創造性をはぐくむことができた	コミュニケーションの活性化に役立てることができた	自己認識・他者理解を深めることができた	教科学習への意欲を高めることができた	文化部活動に役立てることができた	学外の専門家の能力への関心を高めることができた	日本の文化芸術に親しみ、理解を深めることができた	他国の文化や文化への関心を高め、理解を深めることができた	CDやDVD等では得られない反応があった		
全体	97.8%	92.1%	42.1%	21.2%	39.0%	23.0%	54.3%	38.5%	12.3%	83.0%	(n=1581)	
音楽	合唱	94.1%	96.5%	35.3%	14.1%	78.8%	25.9%	61.2%	35.3%	15.3%	91.8%	(n=85)
	オーケストラ	96.5%	96.7%	29.4%	11.9%	76.5%	35.4%	63.8%	19.0%	13.4%	96.2%	(n=395)
	音楽劇	98.1%	90.4%	23.1%	21.2%	48.1%	23.1%	63.5%	26.9%	38.5%	84.6%	(n=52)
演劇	演劇	99.1%	89.0%	46.8%	37.6%	11.0%	13.8%	43.1%	29.4%	4.6%	75.2%	(n=109)
	児童劇	98.0%	93.9%	54.4%	30.1%	13.9%	19.6%	43.9%	24.3%	9.5%	74.7%	(n=296)
	ミュージカル	99.5%	94.8%	63.0%	39.3%	19.0%	28.9%	53.6%	21.3%	8.5%	84.4%	(n=211)
伝統芸能	歌舞伎	100.0%	84.6%	38.5%	7.7%	30.8%	0.0%	61.5%	92.3%	0.0%	76.9%	(n=13)
	演芸	94.9%	85.9%	54.5%	13.1%	24.2%	11.1%	50.5%	83.8%	4.0%	71.7%	(n=99)
	能楽	99.2%	85.2%	28.7%	8.2%	35.2%	9.8%	50.8%	93.4%	1.6%	71.3%	(n=122)
	邦楽	100.0%	87.8%	28.6%	10.2%	55.1%	22.4%	44.9%	95.9%	10.2%	81.6%	(n=49)
	邦舞	100.0%	73.7%	26.3%	10.5%	26.3%	15.8%	52.6%	100.0%	0.0%	84.2%	(n=19)
人形浄瑠璃	98.0%	77.6%	24.5%	8.2%	24.5%	14.3%	51.0%	95.9%	10.2%	67.3%	(n=49)	
舞踊	バレエ	100.0%	91.4%	44.3%	22.9%	15.7%	14.3%	71.4%	27.1%	48.6%	91.4%	(n=70)
	現代舞踊	100.0%	91.7%	50.0%	8.3%	25.0%	8.3%	33.3%	0.0%	58.3%	75.0%	(n=12)

III. 児童・生徒へのアンケート調査・分析結果

1. 調査方法

「児童・生徒へのアンケート調査」は、「平成 22 年度子どもの優れた舞台芸術体験事業」の巡回公演事業を実施した実施学校のうち、ヒアリング調査を行った 46 校に対して、あわせてアンケート調査を実施した。アンケート調査概要は、以下の通りである。

調査対象：実施学校 46 校において巡回公演事業（平成 22 年度）を鑑賞した児童・生徒

調査形式：無記名式アンケート

実施時期：平成 24 年 2 月 2 日～3 月 23 日

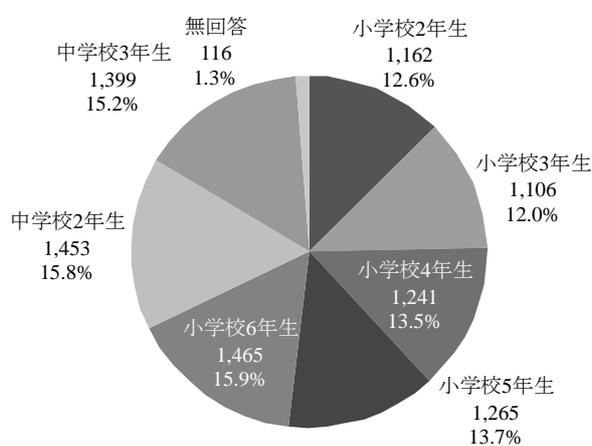
回答状況：有効回答数 9,207 人

2. 回答者属性

(1) 学年別分布

有効回答数のうち、学年別の分布は、以下の通りである。

図 8 学年分布 (SA)



(2) 地域特性分布

本調査の集計分析にあたっては、実施学校の芸術文化公演の享受できる環境によって、地域特性を以下のように定義した。

- ・ 首都圏：わが国で最も芸術文化施設、事業が集中しており、芸術文化公演を享受する環境に恵まれた圏域。東京都心部までの時間距離が1時間以内。
- ・ 大都市圏：首都圏に準じ、政令都市を中心とする都市圏域。各都心部までの時間距離が1時間以内。
- ・ 地方都市圏域：県庁所在地までの時間距離が1時間以内。
- ・ 不利地域：各都心部あるいは県庁所在地までの距離が1時間以上。

なお、新幹線および有料特急、空路は除いて路線検索を行い、各校の最寄駅からの最も早い手段での乗車時間のみを対象とし、乗り換え時間、待ち時間は除外した。

地域特性による回答者の分布は、以下の通りである。

図 9 地域特性分布

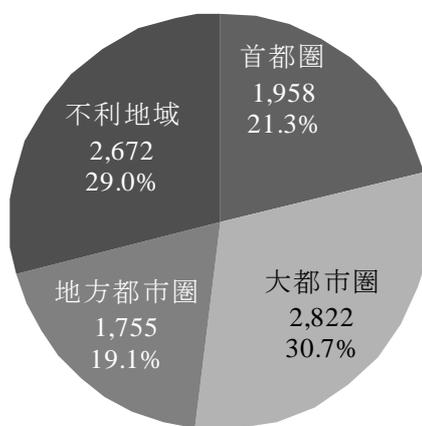


表 19 調査対象学校と地域特性分類

学校名	分類	最寄都市	
板橋区立板橋第六小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:06
市川市立平田小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:25
川崎市立下作延小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:26
横浜市立鴨志田第一小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:39
都立多摩桜の丘学園	首都圏	東京(山手線内)	0:42
町田市立町田第一小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:43
横浜市立あざみ野第一小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:43
取手市立寺原小学校	首都圏	東京(山手線内)	0:51
浜松市立南部中学校	大都市圏	浜松市	0:00
仙台市立八乙女中学校	大都市圏	仙台市	0:11
新潟市立小新中学校	大都市圏	新潟市	0:15
札幌市立上篠路中学校	大都市圏	札幌市	0:19
新潟市立新津第五中学校	大都市圏	新潟市	0:20
知立市立知立東小学校	大都市圏	名古屋市	0:28
呉市立阿賀中学校	大都市圏	広島市	0:44
北広島町立新庄小学校	大都市圏	広島市	0:53
嘉麻市立牛隈小学校	大都市圏	博多市	0:59
飯塚市立潤野小学校	大都市圏	博多市	0:59
加東市立社小学校	大都市圏	神戸市(三宮)	1:00
松山市立みどり小学校	地方都市圏	松山市	0:00
琉球大学教育学部附属中学校	地方都市圏	那覇市	0:04
松阪市立嬉野中学校	地方都市圏	津市	0:12
杵築市立向野小学校	地方都市圏	大分市	0:38
鉾田市立旭中学校	地方都市圏	水戸市	0:38
高崎市立吉井西小学校	地方都市圏	高崎市	0:39
倉吉市立久米中学校	地方都市圏	鳥取市	0:41
鹿島市立能古見小学校	地方都市圏	佐賀市	0:43
白河市立小野田小学校	地方都市圏	福島市	0:45
都城市立丸野小学校	地方都市圏	宮崎市	0:46
身延町立久那土中学校	地方都市圏	甲府市	0:49
上里町立上里東小学校	不利地域	さいたま市	1:08
三原市立中之町小学校	不利地域	広島市	1:15
加賀市立河南小学校	不利地域	金沢市	1:23
築上郡上毛町立唐原小学校	不利地域	大分市	1:38
綾部市立吉美小学校	不利地域	京都市	1:40
東みよし町立三庄小学校	不利地域	徳島市	1:41
大館市立釈迦内小学校	不利地域	秋田市	1:49
三戸町立三戸小学校	不利地域	青森市	1:52
三戸町立三戸中学校	不利地域	青森市	1:52
北秋田市立前田小学校	不利地域	秋田市	2:06
鹿屋市立高隈中学校	不利地域	鹿児島市	2:12
高浜町立高浜中学校	不利地域	福井市	2:32
名護市立屋部中学校	不利地域	那覇市	2:56
京丹後市立黒部小学校	不利地域	京都市	3:11
佐世保市立宇久中学校	不利地域	佐賀市	3:33
喜界町立第一中学校	不利地域	鹿児島市	11:00

(3) 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験

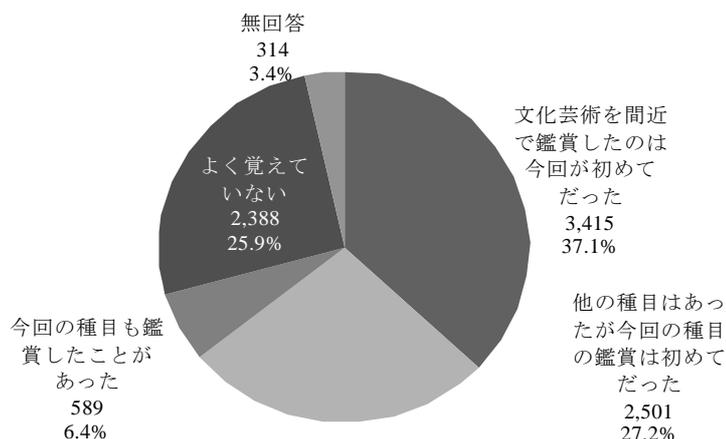
学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験については、「文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった」(37.1%)という回答が最も多く、本事業で初めて芸術文化公演を鑑賞したという児童・生徒が多いという効果が確認できた。

また、「他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった」(27.2%)という児童・生徒も多く、両方の回答を合計すると約3分の2(64.3%)の児童・生徒が本事業によって実施した分野の公演を初めて鑑賞したことになる。

一方、少数派ではあるが、「今回の種目も鑑賞したことがあった」(6.4%)という鑑賞経験者もいる。

このような調査結果から、本事業を芸術文化公演の鑑賞機会の拡大につなげていくためには、申し込み校に対する事前アンケートの実施等の方策も考えられる。

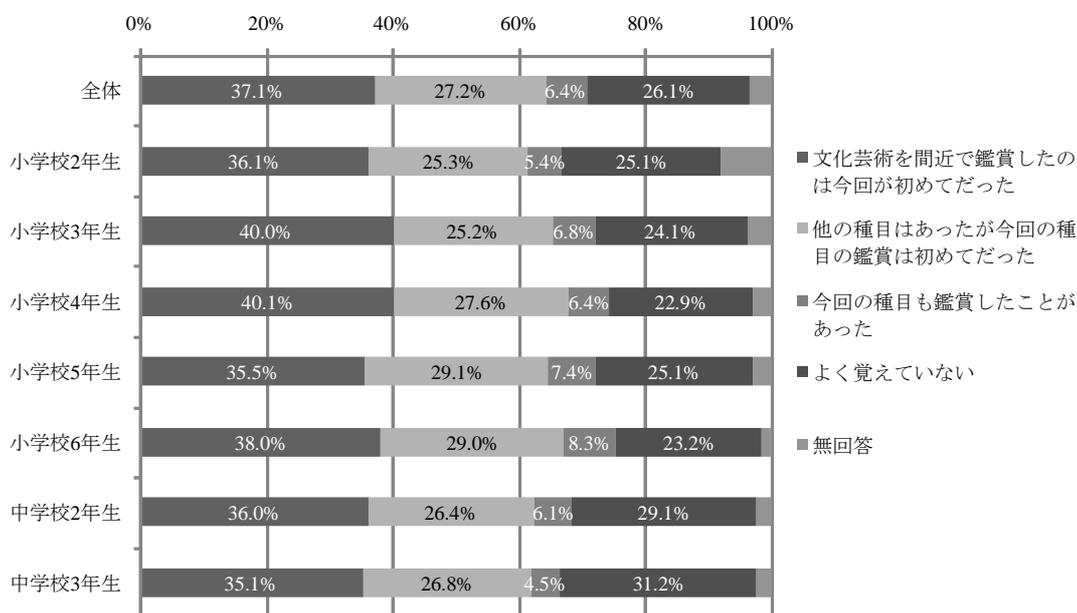
図 10 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験 (SA)



学年別にみると、「文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった」との回答が「小学校3年生」および「小学校4年生」で平均値より高く、「他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった」という芸術文化公演の鑑賞体験については「小学校5年生」および「小学校6年生」の回答が平均値より高くなっている。

その一方で、中学生の数は低くなっているのは、中学生に対しては教育的要素が強く、普段なじみのない「邦楽」および「邦舞」といった「伝統芸能」および「現代舞踊」の公演鑑賞が実施されていることが影響しているものと思われる。

図 11 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験（学年別・SA）



地域特性別にみると、「文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった」との回答は「不利地域」（38.8%）で最も高い一方で、「大都市圏」（38.4%）でも高い割合となっている。首都圏では芸術文化公演の鑑賞機会がかなり確保されているのに対して、首都圏以外での公演鑑賞の機会の拡大がまだまだ必要である、と言える結果となっている。

表 20 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験（地域特性別・SA）

	文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	今回の種目も鑑賞したことがあった	よく覚えていない	無回答
全体	37.1%	27.2%	6.4%	26.1%	3.4%
首都圏	33.5%	30.6%	8.5%	24.6%	2.9%
大都市圏	38.4%	27.3%	5.3%	25.8%	3.2%
地方都市圏	36.4%	26.9%	6.2%	26.7%	3.8%
不利地域	38.8%	24.7%	6.2%	26.9%	3.7%

分野別にみると、本事業において公演された分野を初めて鑑賞した児童・生徒の割合は、「伝統芸能」(95.9%)「舞踊」(95.6%)、「音楽」(92.2%)において多いという結果となった。

個別の分野についてみると、特に「能楽」(97.3%)、「バレエ」(97.1%)、「邦舞」(96.3%)といった分野で、初めて鑑賞した割合が高くなっている。

一方、「今回の種目も鑑賞したことがあった」の鑑賞経験があるという回答は、「ミュージカル」「オーケストラ」「演劇」の順で多くなっている。

表 21 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験（分野別・SA）

		文化芸術を 間近で鑑賞 したのは今 回が初めて だった	他の種目は あったが今 回の種目の 鑑賞は初め てだった	今回の種目 も鑑賞した ことがあっ た	よく覚えて いない	無回答	今回の種目 を初めて鑑 賞した
全体		37.1%	27.2%	6.4%	26.1%	3.4%	93.6%
演劇	分野全体	31.9%	25.3%	9.1%	29.3%	4.5%	90.9%
	演劇	32.7%	20.5%	9.3%	35.9%	1.9%	90.7%
	児童劇	34.4%	24.5%	4.5%	27.6%	9.0%	95.5%
	ミュージカル	30.0%	28.6%	11.9%	26.4%	3.4%	88.1%
音楽	分野全体	39.9%	24.6%	7.8%	24.7%	3.0%	92.2%
	オーケストラ	38.1%	27.8%	10.5%	20.2%	3.4%	89.5%
	音楽劇	43.4%	22.7%	3.8%	30.1%	0.3%	96.2%
	合唱	40.8%	21.9%	6.0%	28.0%	3.3%	94.0%
伝統芸能	分野全体	38.0%	30.3%	4.1%	24.8%	3.3%	95.9%
	演芸	30.6%	27.0%	6.0%	32.3%	4.1%	94.0%
	歌舞伎	47.5%	22.7%	4.1%	22.2%	4.1%	95.9%
	人形浄瑠璃	39.2%	28.7%	4.6%	23.5%	4.0%	95.4%
	能楽	40.6%	35.8%	2.7%	18.3%	2.6%	97.3%
	邦楽	22.0%	35.4%	4.8%	37.6%	2.6%	95.2%
舞踊	邦舞	43.2%	27.3%	3.7%	23.0%	2.8%	96.3%
	分野全体	38.2%	28.1%	4.4%	26.9%	2.4%	95.6%
	バレエ	50.5%	19.5%	2.9%	24.9%	2.2%	97.1%
	現代舞踊	33.2%	31.6%	5.0%	27.7%	2.5%	95.0%

(4) 鑑賞した公演分野の分布

回答者が鑑賞した公演分野の分布については、「伝統芸能」(36.4%)が最も多く、次いで「音楽」(29.0%)、「演劇」(24.1%)、「舞踊」(10.4%)の順となっている。

公演内訳をみると、「合唱」(13.1%)が最も多く、次いで「オーケストラ」(12.9%)、「ミュージカル」(10.9%)といった児童・生徒に比較的なじみが深いと想定される分野や上位にあり、さらに、伝統芸能で最も多い「能楽」(9.3%)、「現代舞踊」(7.4%)、「邦楽」(7.3%)がそれに続いている。

図 12 鑑賞した公演分野の分布

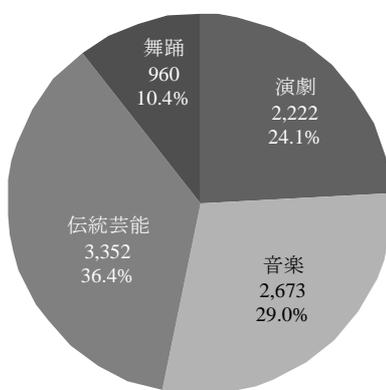
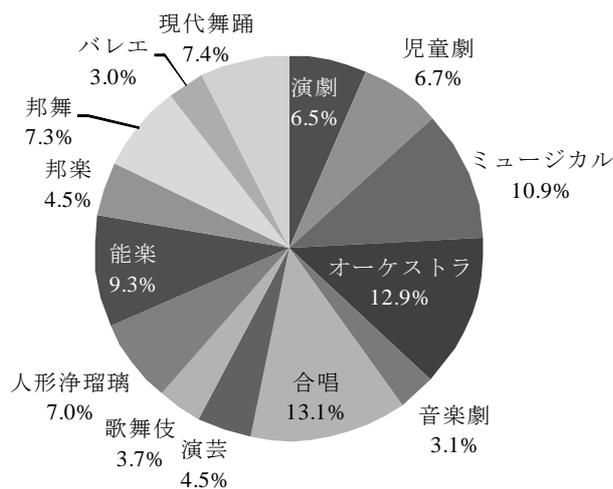


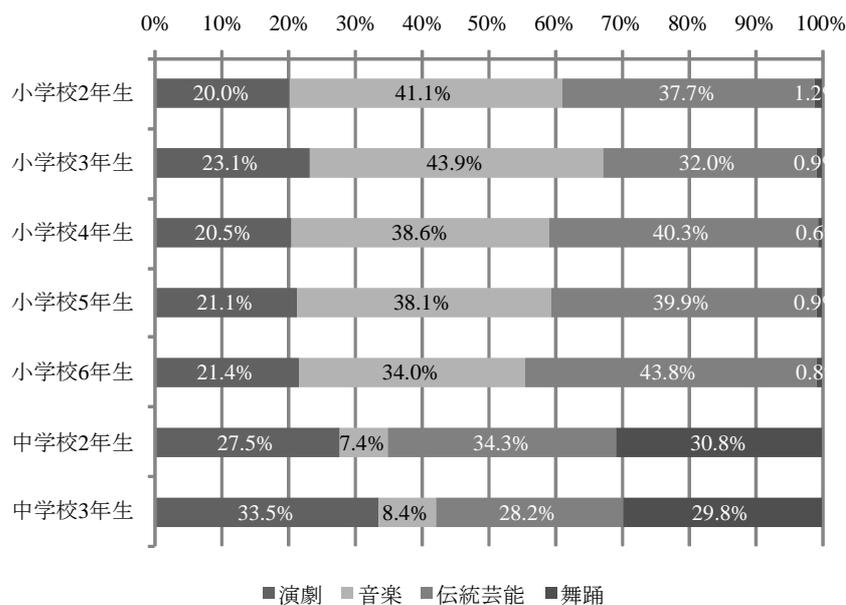
図 13 鑑賞した公演分野の分布（公演内訳）



学年別に公演分野をみると、小学校では「音楽」および「伝統芸能」の割合が多く、次いで「演劇」となっている。

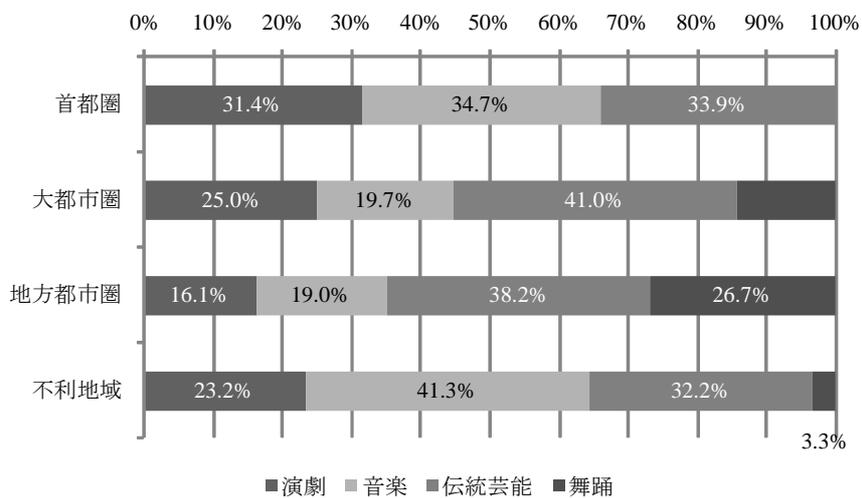
一方、中学校では、「音楽」の割合が小学校より減少し、「伝統芸能」は多いものの、「舞踊」および「演劇」の割合が高くなっている。

図 14 学年別・公演分野の分布



地域特性別に公演分野をみると、「首都圏」では「音楽」(34.7%)、「伝統芸能」(33.9%)、「演劇」(31.4%)の順となっている。

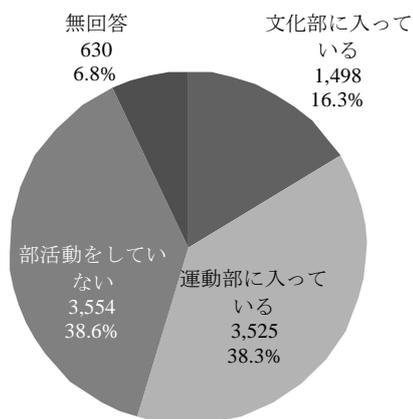
図 15 地域特性別・公演分野の分布



(5) 学校での部活動

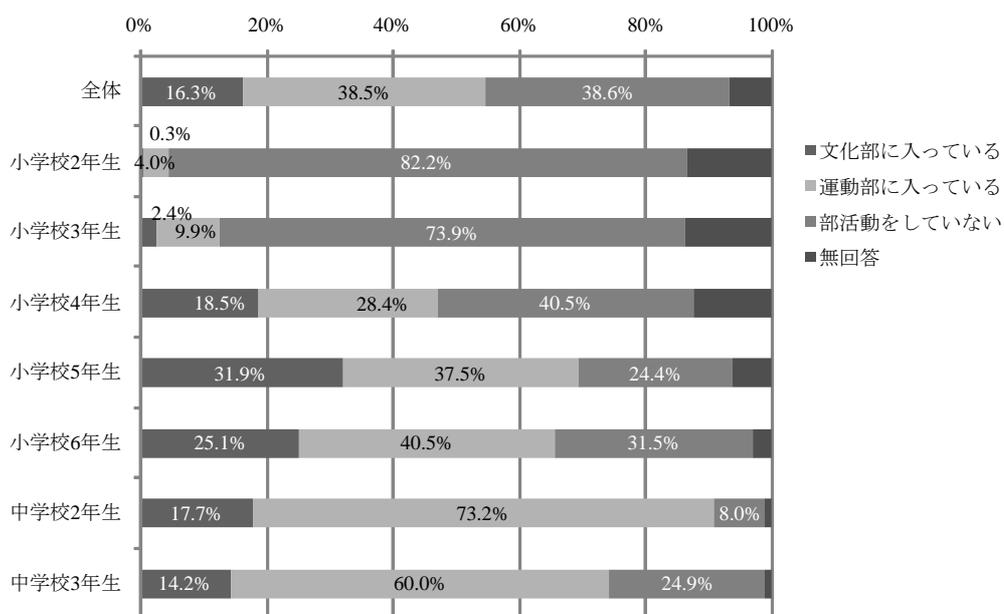
学校での部活動については、「文化部に入っている」(16.3%) が最も少なく、「部活動をしていない」(38.6%) の回答が最も多い。

図 16 学校での部活動 (SA)



学年別にみると、部活動が開始される小学校 4 年生からの傾向をみると、前項と同様に「文化部に入っている」割合は小学生が多く、中学生になると減少する一方、「運動部に入っている」割合は中学生で高くなっている。

図 17 学校での部活動 (学年別・SA)



地域特性別にみると、「文化部に入っている」割合は「首都圏」、「大都市圏」の順に高

い。その一方で、「部活動をしていない」割合は、「不利地域」で最も高く、次いで「首都圏」の順となっている。

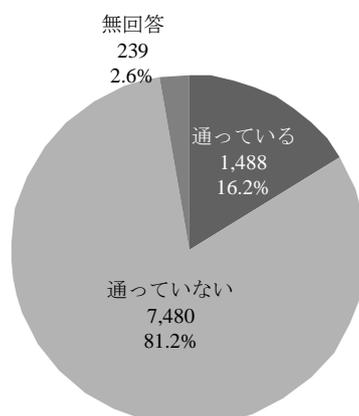
表 22 学校での部活動（地域特性別・SA）

	文化部に入っている	運動部に入っている	部活動をしていない	無回答
全体	16.3%	38.5%	38.6%	6.8%
首都圏	23.2%	27.1%	38.8%	11.3%
大都市圏	17.8%	45.4%	30.0%	6.8%
地方都市圏	13.7%	45.5%	38.5%	2.4%
不利地域	11.3%	34.8%	47.4%	6.5%

(6) 文化芸術に関する塾や習い事

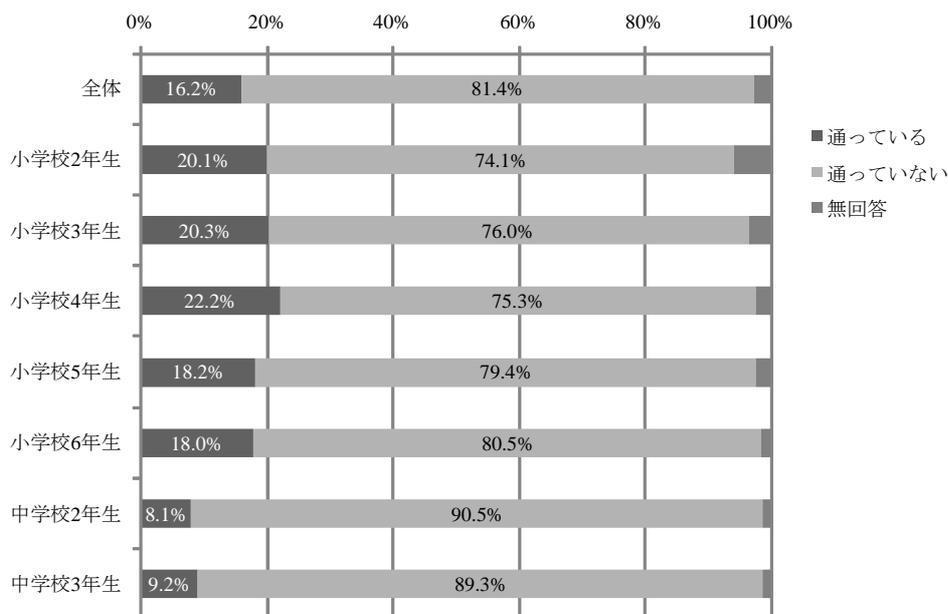
文化芸術に関する塾や習い事については、「通っていない」（81.2%）が「通っている」（16.2%）よりはるかに多く、文化芸術に関する塾や習い事はあまり盛んではない現状がわかる。

図 18 文化芸術に関する塾や習い事（SA）



学年別にみると、「通っている」割合は小学生が多く、中学生になると半減する傾向があり、文化芸術に関する塾や習い事は中学生で辞めてしまうケースが多いことが想定される。

図 19 文化芸術に関する塾や習い事（学年別・SA）



地域特性別にみると、「通っている」の割合が「首都圏」で高く、首都圏においては「習い事」というかたちでも文化芸術に触れる機会が多いことを示す結果となっている。

表 23 文化芸術に関する塾や習い事（地域特性別・SA）

	通っている	通っていない	無回答
全体	16.2%	81.3%	2.6%
首都圏	23.7%	73.0%	3.3%
大都市圏	11.9%	85.7%	2.4%
地方都市圏	15.7%		1.9%
不利地域	15.4%	81.8%	2.8%

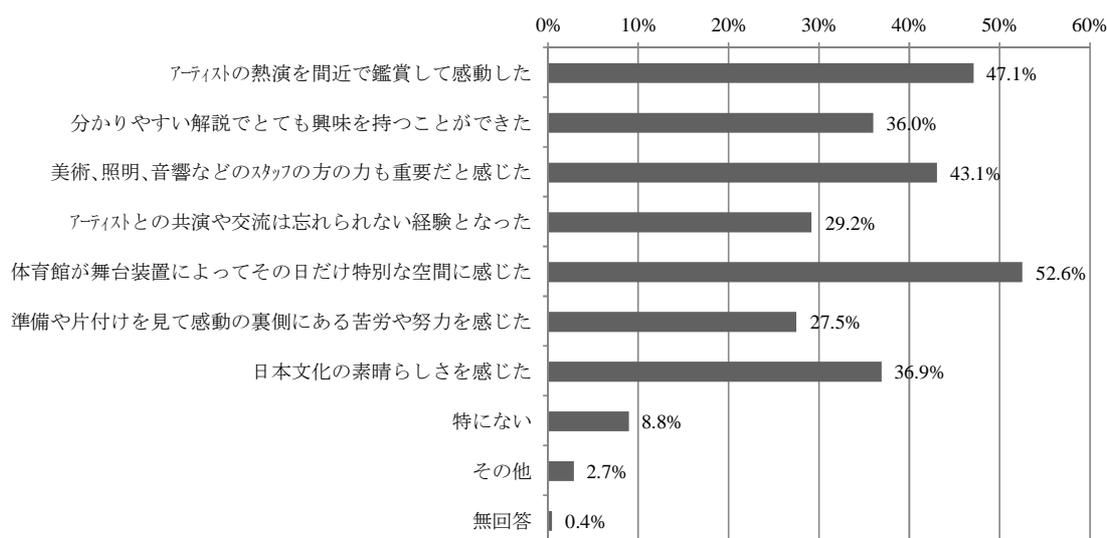
3. 調査結果

(1) 印象に残っている公演内容

印象に残っている公演内容は、「体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた」(52.6%)が最も多く、次いで「アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した」(47.1%)、「美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた」(43.1%)となっており、“日常的な”学校空間での“非日常的な”芸術文化公演の鑑賞が印象に残ったという感想が多くなっている。

その一方で、「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった」(29.2%)および「準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた」(27.5%)と、本来身近な学校公演であるからこそ体験できる内容の印象が比較的薄くなっている。今後は、単に鑑賞機会を提供するだけでなく、児童・生徒に芸術文化をもっと体験してもらうための工夫が求められる。

図 20 印象に残っている公演内容 (MA)



学年別にみると、いずれの項目も「小学校2年生」および「小学校3年生」の数値が平均より高く、学校での芸術文化公演の鑑賞という“非日常”の環境を強く感じており、高学年になるに従い、その印象が薄れていっている。

一方、中学生が全て「特にない」の回答が平均値より高くなっており、今後においては、単に芸術文化公演の鑑賞だけでなく、彼らの関心をひく工夫が必要であると考えられる。

表 24 印象に残っている公演内容（学年別・MA）

	アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によって特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特にな	その他	無回答
全体	47.1%	36.0%	43.1%	29.2%	52.6%	27.6%	36.9%	8.9%	2.7%	0.4%
小学校2年生	53.1%	54.1%	47.1%	41.3%	67.7%	37.1%	50.9%	5.0%	3.6%	0.9%
小学校3年生	52.3%	47.8%	49.4%	41.8%	67.5%	29.6%	44.7%	6.5%	2.6%	0.1%
小学校4年生	41.7%	40.9%	40.8%	34.2%	57.4%	30.1%	40.8%	10.4%	2.3%	0.2%
小学校5年生	43.8%	36.3%	40.9%	32.3%	55.3%	29.0%	34.3%	7.7%	2.9%	0.5%
小学校6年生	41.5%	33.6%	39.1%	27.3%	48.9%	24.2%	33.7%	9.1%	3.0%	0.1%
中学校2年生	49.1%	23.7%	41.8%	17.0%	38.8%	22.3%	33.1%	11.5%	2.3%	0.3%
中学校3年生	50.5%	23.3%	44.7%	17.8%	39.8%	23.9%	26.7%	10.2%	2.6%	0.2%

地域特性別にみると、「地方都市圏」および「不利地域」での数値が比較的高い割合となっている。逆に「首都圏」では「特にな

表 25 印象に残っている公演内容（地域特性別・MA）

	アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によって特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特にな	その他	無回答
全体	47.0%	36.8%	43.1%	29.6%	53.2%	28.0%	37.9%	8.8%	2.8%	0.4%
首都圏	42.4%	37.9%	37.9%	26.6%	56.9%	27.5%	36.3%	10.8%	3.3%	0.5%
大都市圏	47.6%	34.0%	44.7%	28.3%	49.4%	27.1%	39.1%	8.6%	2.2%	0.3%
地方都市圏	50.5%	40.5%	43.6%	32.7%	53.4%	30.4%	35.3%	8.4%	3.8%	0.2%
不利地域	47.5%	36.0%	45.2%	30.9%	53.7%	27.5%	39.7%	7.9%	2.4%	0.5%

分野別にみると、「オーケストラ」および「歌舞伎」が各3項目で高い割合となっている他、「演劇」が「準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた」（39.8%）で高くなっており、普段鑑賞できない大規模公演の体験が児童・生徒の印象を強くしていることが示されている。

表 26 印象に残っている公演内容（分野別・MA）

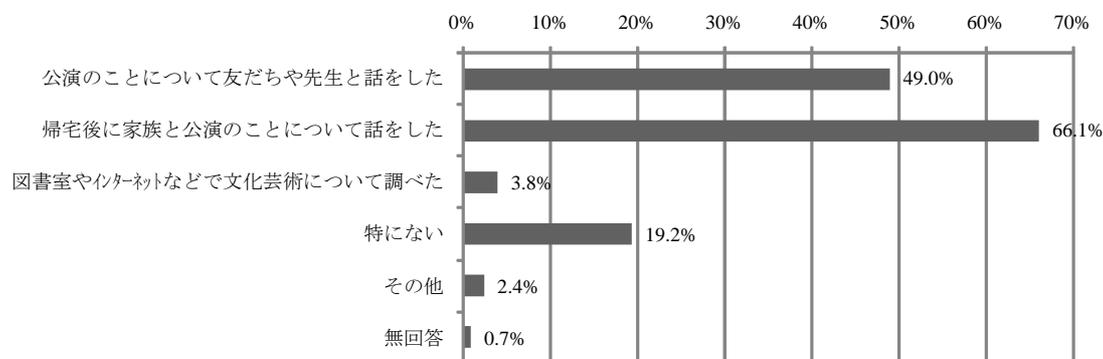
		アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によって特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特にな	その他	無回答
全体		47.1%	36.0%	43.1%	29.2%	52.6%	27.5%	36.9%	8.8%	2.7%	0.4%
演劇	分野全体	46.3%	28.3%	52.6%	23.0%	57.9%	31.5%	22.5%	7.5%	2.7%	0.5%
	演劇	41.4%	19.5%	48.0%	8.2%	44.6%	23.2%	22.9%	11.3%	1.2%	0.3%
	児童劇	43.9%	44.4%	51.6%	30.3%	61.5%	39.8%	27.9%	5.8%	2.3%	1.1%
	ミュージカル	50.8%	23.6%	55.9%	27.3%	63.5%	31.2%	18.9%	6.3%	3.8%	0.1%
音楽	分野全体	51.5%	41.1%	35.4%	38.6%	52.8%	27.0%	28.6%	10.4%	3.2%	0.3%
	オーケストラ	60.3%	55.0%	36.7%	46.2%	63.3%	35.8%	26.9%	7.8%	5.0%	0.6%
	音楽劇	56.3%	15.4%	42.3%	13.6%	28.3%	14.3%	18.9%	12.6%	1.4%	0.3%
	合唱	41.8%	33.4%	32.5%	37.2%	48.3%	21.3%	32.5%	12.4%	1.8%	0.1%
伝統芸能	分野全体	42.8%	39.9%	41.8%	27.9%	50.9%	26.3%	58.5%	8.2%	2.8%	0.4%
	演芸	45.3%	47.0%	46.5%	31.6%	54.9%	25.3%	40.2%	8.0%	3.6%	0.5%
	歌舞伎	41.7%	42.3%	61.5%	40.5%	65.9%	38.5%	64.7%	4.7%	2.0%	1.2%
	人形浄瑠璃	44.4%	39.5%	44.6%	28.2%	53.9%	29.6%	60.8%	5.7%	1.4%	0.0%
	能楽	42.8%	42.9%	35.9%	22.2%	45.6%	23.6%	64.2%	6.8%	3.5%	0.1%
	邦楽	31.8%	21.5%	21.5%	12.7%	35.4%	18.4%	48.6%	22.0%	5.5%	1.4%
	邦舞	47.2%	42.5%	46.2%	35.8%	54.4%	25.6%	63.3%	6.0%	1.5%	0.3%
舞踊	分野全体	51.4%	25.9%	46.9%	21.9%	45.3%	24.5%	17.5%	9.8%	1.5%	0.3%
	バレエ	58.8%	30.7%	50.5%	22.7%	59.6%	28.5%	19.5%	4.3%	0.7%	0.0%
	現代舞踊	48.3%	24.0%	45.4%	21.5%	39.5%	22.8%	16.7%	12.0%	1.8%	0.4%

(2) 公演終了後の行動

公演終了後の行動については、「帰宅後に家族と公演のことについて話をした」(66.1%)が最も多く、次いで「公演のことについて友だちや先生と話をした」(49.0%)の順となっており、公演鑑賞後、家族や友人、教師とのコミュニケーションが図られていることがわかる。特に「帰宅後に家族と公演のことについて話をした」と回答した児童・生徒は全体の3分の2を越えていることから、本事業が家庭におけるコミュニケーションの促進にも寄与していることが確認できた。

その一方で、「図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた」(3.8%)と回答した児童・生徒は1割以下であり、公演鑑賞がその後の芸術文化分野に対する知識習得の意欲向上には必ずしも結びついていない結果となっている。

図 21 公演終了後の行動 (MA)



学年別にみると、小学校全体で平均より高い数値となっているが、前項同様、「小学校2年生」および「小学校3年生」の数値が高い傾向にある一方、中学生の「特にない」の回答の傾向が高くなっており、同様の対応が必要であると考えられる。

表 27 公演終了後の行動（学年別・MA）

	公演のことについて友だちや先生と話をした	帰宅後に家族と公演のことについて話をした	図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	特にない	その他	無回答
全体	49.0%	66.2%	3.8%	19.3%	2.4%	0.7%
小学校2年生	57.6%	76.7%	9.4%	12.0%	2.0%	2.0%
小学校3年生	56.0%	82.0%	4.0%	9.9%	3.6%	0.5%
小学校4年生	49.3%	78.7%	4.3%	11.6%	4.4%	0.3%
小学校5年生	48.0%	76.3%	2.0%	13.7%	2.6%	0.9%
小学校6年生	49.0%	68.9%	2.2%	16.0%	1.4%	0.2%
中学校2年生	42.8%	48.9%	1.9%	32.1%	1.5%	0.4%
中学校3年生	44.5%	40.7%	4.1%	33.4%	1.7%	0.3%

地域特性別にみると、「首都圏」で「帰宅後に家族と公演のことについて話をした」（71.4%）という家族との対話が、「地方都市圏」で「公演のことについて友だちや先生と話をした」（51.9%）という対話が多くなっている。

一方、「特にない」の回答が「大都市圏」で高い割合となっており、これらの地域では公演終了後の児童・生徒への追加的な話題提供等の工夫が必要であると思われる。

表 28 公演終了後の行動（地域特性別・MA）

	公演のことについて友だちや先生と話をした	帰宅後に家族と公演のことについて話をした	図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	特にない	その他	無回答
全体	49.0%	66.1%	3.8%	19.3%	2.4%	0.7%
首都圏	45.1%	71.4%	4.4%	16.4%	2.6%	1.1%
大都市圏	48.2%	58.7%	3.8%	24.0%	1.6%	0.6%
地方都市圏	51.9%	65.7%	4.1%	18.6%	2.6%	0.5%
不利地域	50.6%	70.1%	3.3%	16.9%	3.0%	0.7%

分野別にみると、「帰宅後に家族と公演のことについて話をした」では「歌舞伎」(83.7%)が最も高くなっており、「オーケストラ」「邦舞」「児童劇」「人形浄瑠璃」「合唱」が続いている。歌舞伎は家族との対話という点で世代を越えた特徴を示している。

また、「公演のことについて友だちや先生と話をした」という回答では「オーケストラ」(58.5%)が最も高く、「邦舞」「人形浄瑠璃」「バレエ」が続いている。

その他、「図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた」については、「児童劇」(6.9%)、「演芸」(6.7%) および「オーケストラ」(5.2%)が比較的高い割合となっている。

表 29 公演終了後の行動 (分野別・MA)

		公演のことについて友だちや先生と話をした	帰宅後に家族と公演のことについて話をした	図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	特になし	その他	無回答
全体		49.0%	66.1%	3.8%	19.2%	2.4%	0.7%
演劇	分野全体	48.4%	60.4%	4.4%	20.4%	3.2%	0.9%
	演劇	37.5%	41.1%	2.9%	36.9%	1.5%	0.5%
	児童劇	52.6%	76.5%	6.9%	10.6%	3.7%	1.9%
	ミュージカル	52.3%	62.0%	3.8%	16.8%	4.0%	0.5%
音楽	分野全体	51.2%	72.7%	3.6%	16.3%	1.8%	0.7%
	オーケストラ	58.5%	80.2%	5.2%	11.2%	3.4%	0.8%
	音楽劇	40.6%	45.5%	1.4%	34.3%	0.0%	0.3%
	合唱	46.6%	71.7%	2.4%	17.1%	0.6%	0.7%
伝統芸能	分野全体	48.4%	69.6%	4.1%	17.6%	2.8%	0.7%
	演芸	51.1%	68.9%	6.7%	16.6%	2.4%	1.0%
	歌舞伎	48.4%	83.7%	2.3%	8.7%	0.6%	1.5%
	人形浄瑠璃	53.4%	72.1%	3.9%	14.5%	3.9%	0.0%
	能楽	46.9%	68.3%	4.1%	17.3%	2.5%	0.4%
	邦楽	26.8%	43.5%	4.5%	40.9%	3.3%	2.4%
舞踊	邦舞	57.5%	78.1%	3.3%	11.6%	3.3%	0.4%
	分野全体	46.0%	48.9%	2.4%	30.2%	0.7%	0.3%
	バレエ	53.4%	59.6%	2.9%	20.6%	0.4%	0.0%
	現代舞踊	43.0%	44.5%	2.2%	34.1%	0.9%	0.4%

(3) 公演終了後から現在までの文化活動の変化

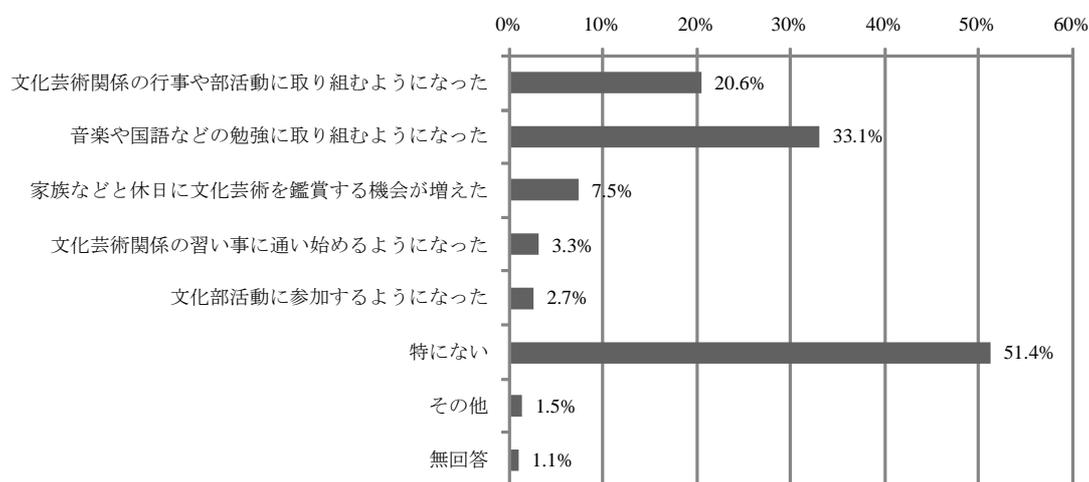
前項の同様の結果は、公演終了後から現在までの文化活動の変化にも表れている。

半数以上の児童・生徒が公演終了後、文化活動に特に変化がない（「特にない」(51.4%)）という結果となっている。

一方で、「音楽や国語などの勉強に取り組むようになった」（33.1%）、「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」（20.6%）という変化もあげられている。

ただし、これらの変化は児童・生徒の学内活動への関心の高まりに留まっており、「家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた」（7.5%）、「文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった」（3.3%）といった学外での積極的な活動に結びついたという回答は、いずれも1割に満たない回答となっている。

図 22 公演終了後から現在までの文化活動の変化 (MA)



学年別にみると、これまでの回答と同様に、「小学校2年生」および「小学校3年生」の数値が高い傾向にある一方、中学生の「特にない」の回答の数値が平均値より高くなっている。全般に学年があがるとともに文化活動の変化がみられなくなる、という傾向があり、先述の項目と同様の対応が必要であると考えられる。

その一方で、中学生においては「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」の数値が高くなっている。

表 30 公演終了後から現在までの文化活動の変化（学年別・MA）

	文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特にない	その他	無回答
全体	20.6%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.5%	1.5%	1.1%
小学校2年生	26.7%	57.7%	16.4%	7.7%	3.0%	30.5%	1.5%	1.6%
小学校3年生	24.2%	50.2%	13.3%	5.1%	1.4%	35.4%	1.3%	1.2%
小学校4年生	13.9%	41.4%	7.7%	5.4%	3.1%	45.5%	1.4%	0.6%
小学校5年生	13.8%	30.5%	5.3%	1.5%	2.6%	56.1%	2.5%	1.7%
小学校6年生	15.6%	29.9%	5.3%	1.3%	2.1%	57.6%	1.3%	0.3%
中学校2年生	24.2%	16.1%	3.0%	0.8%	2.1%	64.8%	1.0%	0.8%
中学校3年生	26.4%	16.4%	4.4%	2.3%	4.5%	61.0%	1.6%	0.9%

地域特性別にみると、全体として「地方都市圏」の数値が平均値より高い傾向にある一方、「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」は「大都市圏」および「地方都市圏」で高くなっている。

表 31 公演終了後から現在までの文化活動の変化（地域特性別・MA）

	文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特にない	その他	無回答
全体	20.5%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.5%	1.5%	1.1%
首都圏	17.2%	36.1%	8.4%	3.5%	2.1%	50.3%	1.9%	1.1%
大都市圏	22.1%	27.2%	6.1%	2.8%	2.7%	55.0%	1.4%	1.2%
地方都市圏	22.3%	34.6%	8.3%	3.3%	3.0%	50.3%	1.9%	0.6%
不利地域	20.2%	36.1%	7.8%	3.6%	2.9%	49.1%	0.9%	1.2%

分野別にみると、「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」が「バレエ」（30.0%）で最も高くなっているが、それ以外の項目は平均値より低い数値となっている。逆に、「音楽や国語などの勉強に取り組むようになった」は「オーケストラ」（50.0%）で半数を占めているとともに、「オーケストラ」では他の全ての項目で平均値を上回っており、本事業の成果が見られる。

一方、鑑賞機会の拡大を示す「家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた」は「児童劇」（11.8%）で最も高くなっているが、全体的に10%強かそれ以下の水準であり、明確な効果が確認できない。同様に「文化部活動に参加するようになった」も5%以下であり、直接的な効果が見られない。

また、「特にない」の回答で「音楽劇」（72.4%）と高い割合となっており、今後は公演の際に解説をつけるなどして、児童・生徒の関心を高める工夫が必要であると考えられる。

表 32 公演終了後から現在までの文化活動の変化（分野別・MA）

		文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特にない	その他	無回答
全体		20.6%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.5%	1.5%	1.1%
演劇	分野全体	21.6%	28.3%	8.3%	2.7%	3.2%	53.6%	1.6%	1.4%
	演劇	21.5%	15.3%	2.9%	1.5%	2.0%	67.3%	0.8%	0.8%
	児童劇	17.1%	39.8%	11.8%	5.3%	3.5%	45.8%	1.3%	2.7%
	ミュージカル	24.5%	28.8%	9.4%	1.7%	3.8%	50.4%	2.2%	1.0%
音楽	分野全体	20.1%	41.5%	8.0%	4.5%	2.2%	45.3%	1.7%	0.8%
	オーケストラ	28.7%	50.0%	11.6%	5.8%	3.3%	34.0%	2.8%	1.2%
	音楽劇	15.7%	9.4%	3.5%	2.1%	1.0%	72.4%	1.0%	0.3%
	合唱	12.6%	40.8%	5.5%	3.7%	1.5%	50.1%	0.8%	0.6%
伝統芸能	分野全体	18.3%	34.0%	7.5%	3.3%	2.7%	51.8%	1.4%	1.2%
	演芸	18.8%	24.6%	10.8%	6.3%	2.7%	54.7%	3.9%	2.9%
	歌舞伎	10.8%	42.9%	9.9%	3.5%	1.7%	45.5%	0.6%	2.6%
	人形浄瑠璃	15.7%	41.0%	7.7%	3.1%	1.7%	49.1%	0.5%	0.3%
	能楽	22.2%	30.6%	5.8%	2.6%	3.7%	53.2%	1.6%	0.9%
	邦楽	12.7%	17.5%	4.1%	2.2%	2.2%	69.6%	1.9%	1.9%
	邦舞	23.1%	43.4%	8.2%	3.1%	3.1%	42.8%	0.6%	0.1%
舞踊	分野全体	27.2%	17.3%	4.2%	1.4%	2.7%	61.7%	0.8%	0.5%
	バレエ	30.0%	25.6%	3.6%	1.8%	2.2%	55.6%	0.4%	0.0%
	現代舞踊	26.1%	13.9%	4.4%	1.2%	2.9%	64.1%	1.0%	0.7%

(4) 公演終了後から現在までの生活態度の変化

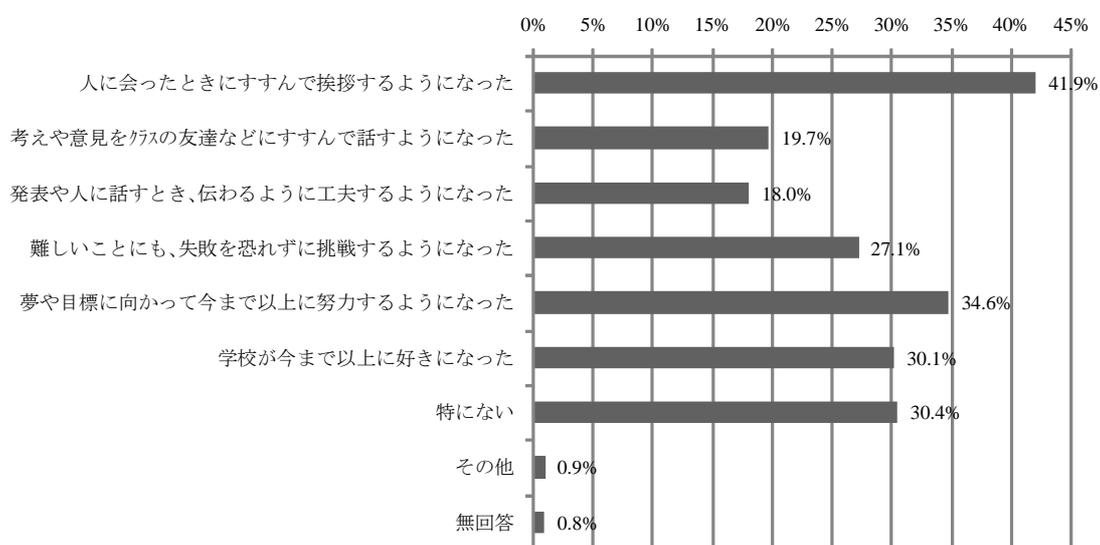
一方、公演終了後から現在までの生活態度の変化については、「人に会ったときにすすんで挨拶するようになった」（41.9%）が最も多く、芸術文化公演の鑑賞が日常生活の表現にも良い影響を与えているものと推測される。

次いで「夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった」（34.6%）など、児童・生徒の積極性の向上に大きな変化が見られる。

続いて、「学校が今まで以上に好きになった」（30.1%）があげられており、本事業は学校自体に親しみを感じる機会にもなっている。

その一方で、「特にない」（30.4%）という回答も一定程度あることから、教師と連携して、公演終了後にも児童・生徒への影響が持続するような工夫が必要であると思われる。

図 23 公演終了後から現在までの生活態度の変化 (MA)



学年別にみると、これまでと同様に、「小学校2年生」および「小学校3年生」の数値が高い傾向にある一方、中学生の「特にない」の回答の数値が平均値より高くなっており、同様の対応が必要であると考えられる。

表 33 公演終了後から現在までの生活態度の変化 (学年別・MA)

	人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をクラスの友達などにすすんで話すようになった	発表や人に話すとき、伝わるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特にない	その他	無回答
全体	42.0%	19.7%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.6%	0.9%	0.8%
小学校2年生	59.5%	35.2%	31.6%	50.2%	51.1%	60.2%	9.6%	1.0%	1.5%
小学校3年生	56.0%	29.4%	26.7%	44.8%	50.2%	54.3%	13.5%	1.0%	0.5%
小学校4年生	48.5%	23.0%	19.7%	30.5%	37.9%	35.9%	21.5%	0.6%	0.6%
小学校5年生	44.2%	19.2%	17.3%	25.8%	35.3%	28.2%	28.5%	1.0%	0.9%
小学校6年生	39.7%	15.7%	14.2%	20.4%	32.3%	20.3%	32.2%	0.8%	0.1%
中学校2年生	28.8%	10.9%	11.2%	13.1%	19.6%	10.9%	49.1%	0.8%	0.9%
中学校3年生	25.9%	10.7%	10.9%	14.7%	24.6%	13.6%	47.8%	1.3%	0.8%

地域特性別にみると、「(「特にない」以外の) いずれの項目も「首都圏」および「不利地域」で全体的に高くなっており、「地方都市圏」でもほとんどの項目で平均値より高い数値となっている。

一方で、「大都市圏」で約4割(38.5%)が「特にない」と回答している。

表 34 公演終了後から現在までの生活態度の変化（地域特性別・MA）

	人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をクラスの友達などにすすんで話すようになった	発表や人に話すとき、伝わるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特にない	その他	無回答
全体	42.0%	19.7%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.6%	0.9%	0.8%
首都圏	43.4%	20.1%	19.5%	29.4%	35.4%	32.3%	27.8%	1.0%	1.0%
大都市圏	37.1%	15.2%	15.2%	21.6%	29.0%	23.4%	38.5%	1.1%	0.4%
地方都市圏	44.8%	21.5%	18.1%	27.9%	36.4%	33.1%	27.2%	0.8%	0.5%
不利地域	44.0%	22.7%	19.8%	30.7%	38.7%	33.4%	26.2%	0.7%	1.2%

分野別にみると、「特にない」以外の) いずれの項目も「児童劇」「オーケストラ」「歌舞伎」および「邦舞」で平均以上の高い数値となっている。一方、「特にない」(54.5%)という回答は「邦楽」で高くなっている。

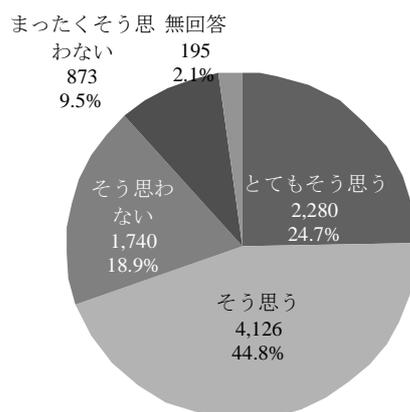
表 35 公演終了後から現在までの生活態度の変化（分野別・MA）

		人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をクラスの友達などにすすんで話すようになった	発表や人に話すとき、伝わるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特にない	その他	無回答
全体		42.0%	19.7%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.6%	0.9%	0.8%
演劇	分野全体	39.2%	17.4%	17.0%	24.0%	29.6%	26.4%	33.6%	1.0%	1.6%
	演劇	29.1%	8.6%	9.8%	14.5%	18.2%	12.5%	50.7%	0.8%	0.7%
	児童劇	50.6%	30.6%	23.9%	35.8%	38.2%	38.9%	20.5%	0.8%	2.7%
	ミュージカル	38.2%	14.4%	17.0%	22.4%	31.1%	26.9%	31.5%	1.2%	1.4%
音楽	分野全体	47.1%	22.7%	21.1%	31.9%	39.5%	38.4%	24.7%	0.7%	0.4%
	オーケストラ	55.3%	28.9%	27.6%	40.8%	47.8%	44.8%	18.6%	0.8%	0.7%
	音楽劇	22.0%	9.1%	6.6%	16.1%	19.9%	9.1%	53.1%	0.0%	0.7%
	合唱	45.1%	19.8%	18.1%	26.9%	36.0%	39.0%	23.8%	0.7%	0.2%
伝統芸能	分野全体	42.6%	20.6%	17.8%	28.6%	37.1%	29.7%	29.5%	1.1%	0.8%
	演芸	37.6%	21.9%	20.5%	30.1%	31.1%	27.7%	38.3%	1.0%	0.7%
	歌舞伎	58.6%	23.6%	24.2%	39.4%	42.0%	40.2%	13.4%	1.5%	1.2%
	人形浄瑠璃	42.7%	21.8%	16.2%	29.5%	44.8%	37.3%	25.2%	0.3%	0.2%
	能楽	40.5%	16.7%	16.2%	23.6%	31.0%	20.0%	32.4%	1.1%	0.5%
	邦楽	26.8%	14.6%	9.3%	20.1%	20.8%	18.7%	54.5%	2.2%	1.7%
	邦舞	50.1%	25.9%	21.5%	33.1%	48.9%	37.3%	17.0%	1.0%	1.0%
舞踊	分野全体	31.5%	13.1%	12.7%	15.9%	24.0%	17.2%	42.4%	0.8%	0.5%
	バレエ	43.7%	15.9%	17.0%	24.9%	28.9%	22.4%	29.6%	0.7%	0.4%
	現代舞踊	26.5%	12.0%	11.0%	12.3%	22.0%	15.1%	47.6%	0.9%	0.6%

(5) 積極的な文化芸術の鑑賞意向

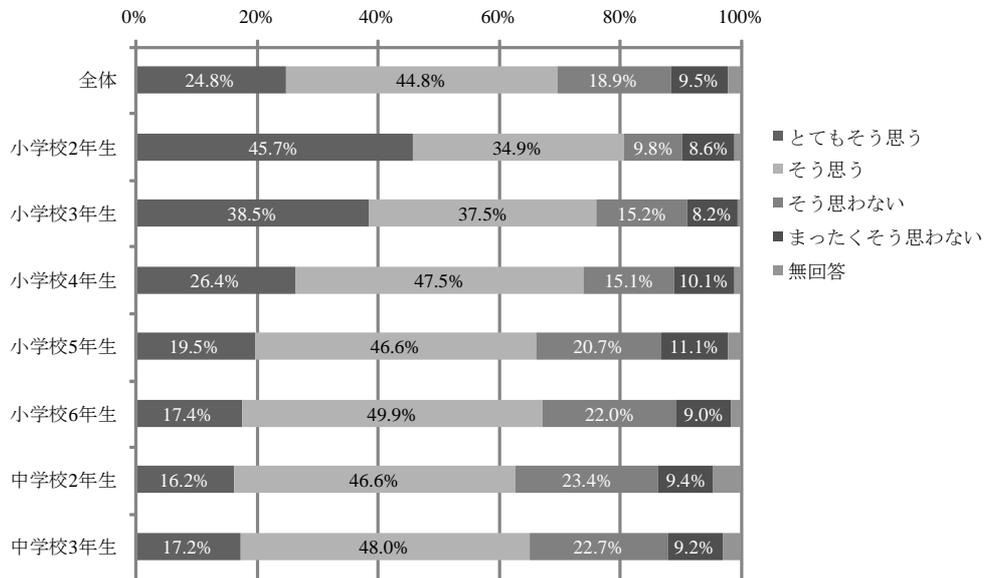
今後の積極的な文化芸術の鑑賞意向については、「とてもそう思う」(24.7%)、「そう思う」(44.8%)とあわせて7割近くとなっており、本事業の芸術文化公演の鑑賞を契機として児童・生徒が積極的な鑑賞意向を示している結果となった。

図 24 積極的な文化芸術の鑑賞意向 (SA)



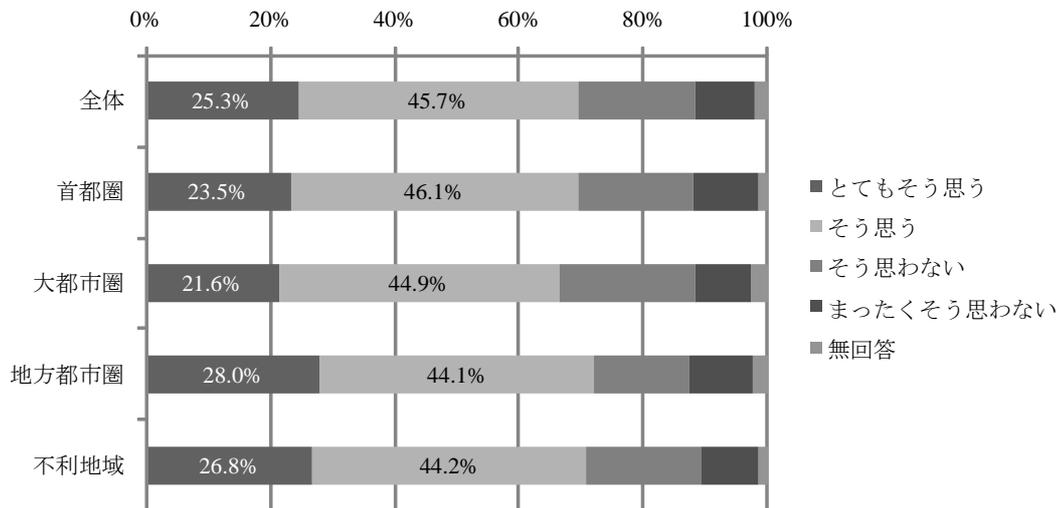
学年別にみると、「とてもそう思う」および「そう思う」という積極的な鑑賞意向に対する回答は、特に芸術文化公演の鑑賞に非常に強い印象を持った「小学校 2 年生」および「小学校 3 年生」の数値が高くなっており、学年があがるにつれて低くなる傾向がみられる

図 25 積極的な文化芸術の鑑賞意向（学年別・SA）



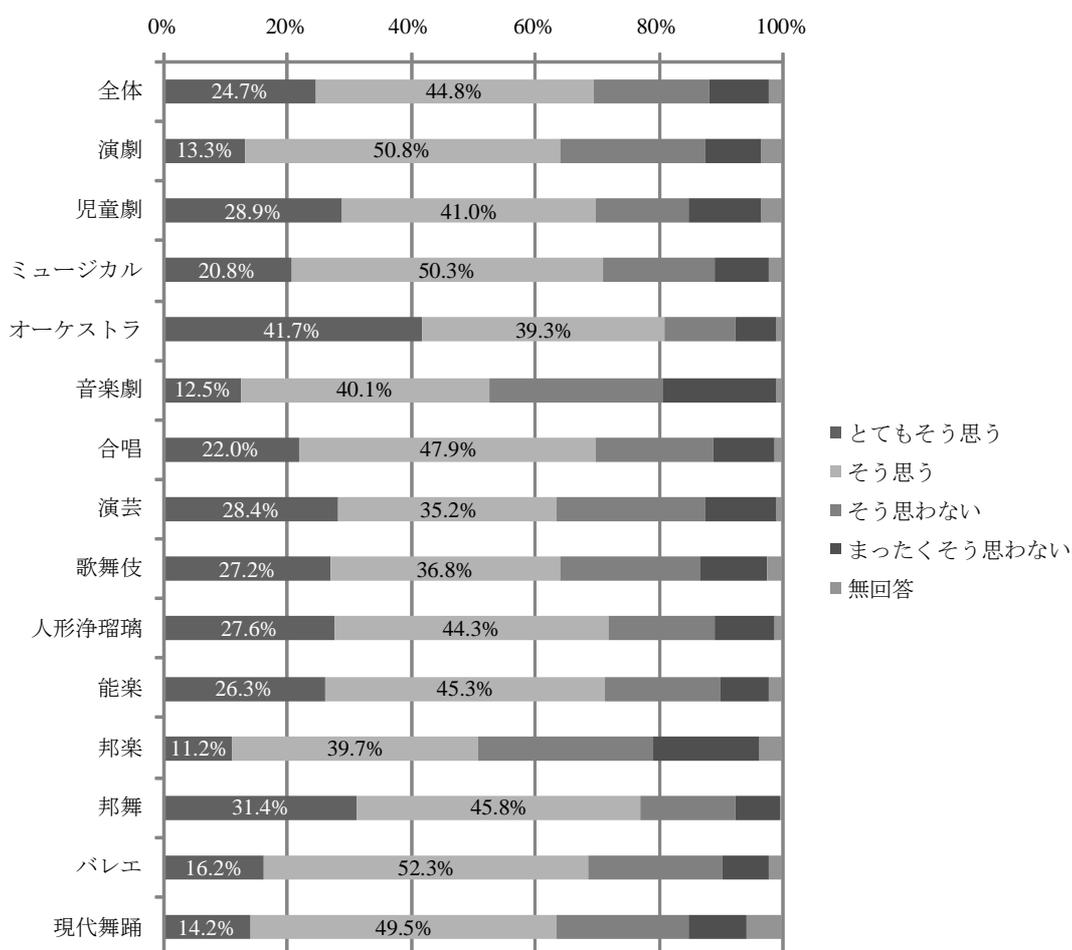
地域特性別にみると極端な差はないが、「地方都市圏」および「不利地域」で「とてもそう思う」および「そう思う」という積極的な鑑賞意向が高い。

図 26 積極的な文化芸術の鑑賞意向（地域特性別・SA）



分野別にみると、「オーケストラ」および「児童劇」といった児童・生徒になじみの深い分野で鑑賞意向が高い一方、「邦舞」および「人形浄瑠璃」といった伝統芸能分野の鑑賞意向も高くなっている。

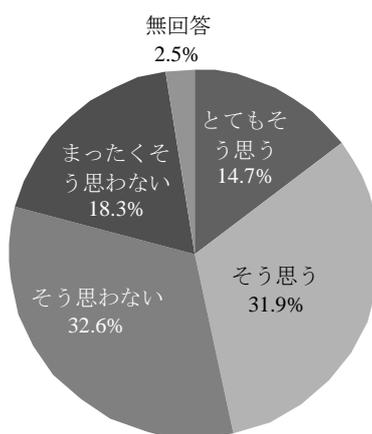
図 27 積極的な文化芸術の鑑賞意向 (分野別・SA)



(6) 自身での文化芸術活動意向

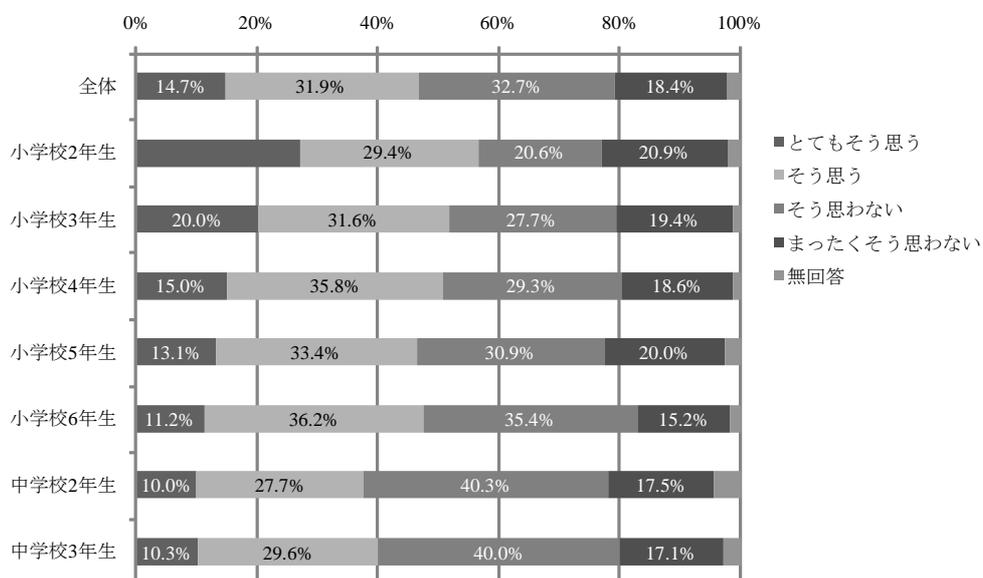
今後の自身での文化芸術活動意向については、「とてもそう思う」(14.7%)、「そう思う」(31.9%)とあわせて5割弱となっている。本事業の実施により、自身の文化芸術活動の意向についても一定のインパクトがあるものの、前項の鑑賞意向と比較すると自らが活動するに至るハードルがより高いと感じられていることがわかる。

図 28 自身での文化芸術活動意向 (SA)



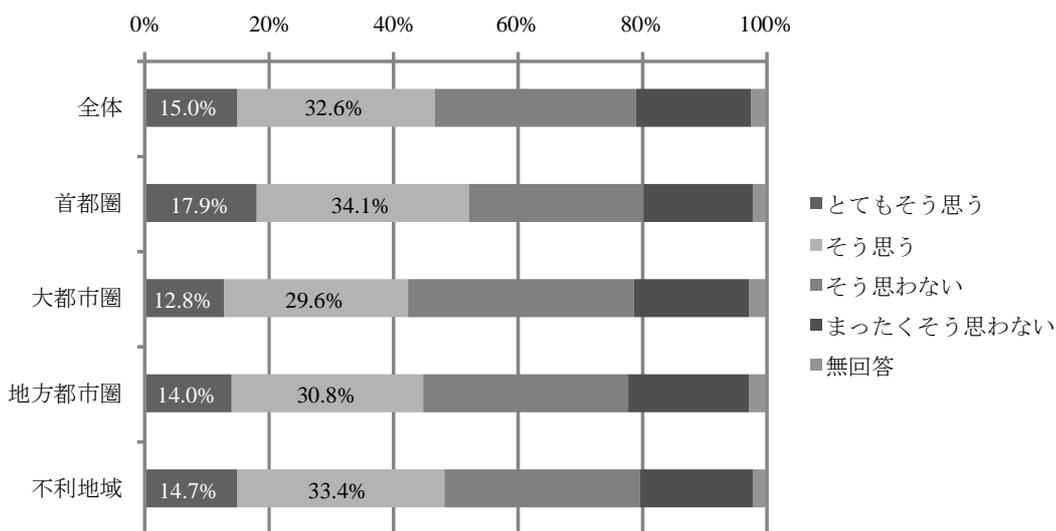
学年別にみても、同様に「とてもそう思う」および「そう思う」という積極的な文化芸術活動意向はあるものの、全体的に鑑賞意向に対する傾向と比較すると低い数値となっており、学年があがるとともに減少している。

図 29 自身での文化芸術活動意向（学年別・SA）



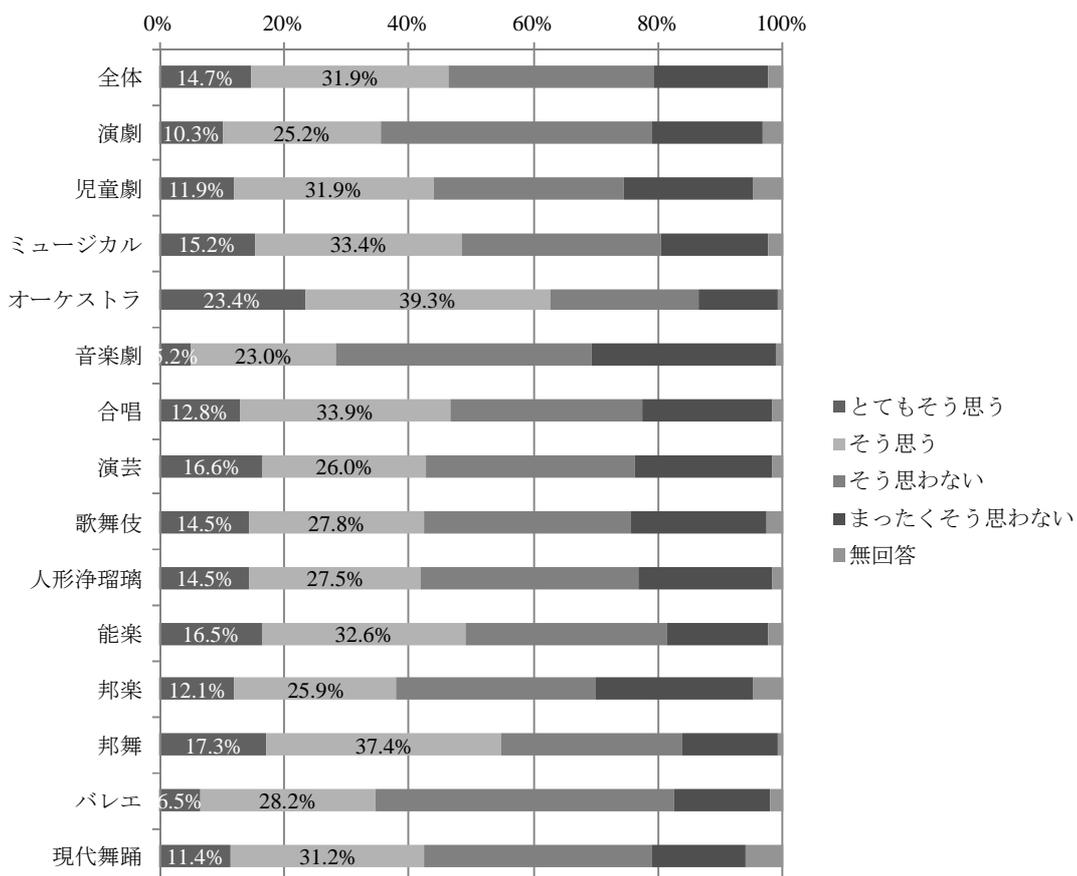
地域特性別にみると、「首都圏」および「不利地域」で「とてもそう思う」および「そう思う」という積極的な活動意向に対する傾向が高く、「大都市圏」および「地方都市圏」においても極端な差はないが、平均値より低い数値となっている。

図 30 自身での文化芸術活動意向（地域特性別・SA）



分野別にみると、前項と同様、「オーケストラ」および「ミュージカル」といった児童・生徒になじみの深い分野の活動意向が高い一方で、「邦舞」および「能楽」の伝統芸能分野の活動意向も高くなっている。

図 31 自身での文化芸術活動意向（分野別・SA）



(7) 印象に残っている公演内容の行動、生活への影響

以上を踏まえ、どのような印象に残っている公演内容が、児童・生徒の公演終了後の行動、生活への変化につながっているかをクロス集計により検証した。

印象に残っている公演内容に対する「公演終了後の行動」については、友人、教師および家族とのコミュニケーション（話をした）という行動についてはいずれも高い数値を示しているが、特に「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験」と回答した児童・生徒において高い数値となっており、単に鑑賞するだけでなく、交流することにより強い印象を残していることを示している。

表 36 印象に残っている公演内容×公演終了後の行動（クロス集計）

	公演のこと について友 だちや先生 と話をした	帰宅後に家 族と公演の ことについ て話をした	図書室やイン ターネットなど で文化芸術に ついて調べ た	特にな い	その他	無回答
全体	48.9%	66.0%	3.8%	19.3%	2.4%	0.7%
アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	62.9%	76.6%	5.5%	9.5%	2.3%	0.4%
分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	63.6%	81.9%	7.1%	7.7%	2.9%	0.4%
美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	60.5%	75.3%	5.8%	11.4%	2.4%	0.4%
アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	66.2%	84.2%	7.7%	6.4%	2.8%	0.3%
体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	59.4%	77.4%	5.2%	10.5%	2.7%	0.3%
準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	63.4%	77.7%	7.9%	10.0%	3.3%	0.4%
日本文化の素晴らしさを感じた	57.8%	77.8%	6.6%	10.7%	2.5%	0.4%
特にな い	10.9%	21.6%	0.7%	70.4%	1.5%	0.4%
その他	56.0%	67.5%	11.5%	12.3%	24.2%	2.0%

また、印象に残っている公演内容に対する「公演終了後から現在までの文化活動の変化」についても同様に、「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験」がその後の文化活動の変化に結びついており、特に「音楽や国語などの勉強に取り組むようになった」(52.4%) および「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」(33.7%) という変化が多くなっている。

表 37 印象に残っている公演内容×公演終了後から現在までの文化活動の変化（クロス集計）

	文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特にない	その他	無回答
全体	20.5%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.4%	1.5%	1.1%
アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	31.3%	43.7%	11.2%	4.7%	3.8%	37.6%	1.9%	0.7%
分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	30.2%	49.5%	13.4%	6.3%	4.5%	33.7%	2.1%	1.2%
美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	27.7%	42.0%	11.5%	4.6%	3.8%	41.6%	1.6%	1.0%
アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	33.7%	52.4%	13.9%	6.4%	4.9%	31.4%	2.3%	1.0%
体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	25.4%	41.8%	10.4%	4.9%	3.2%	42.3%	1.7%	1.0%
準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	30.4%	48.2%	13.3%	5.8%	5.1%	35.4%	1.9%	1.1%
日本文化の素晴らしさを感じた	27.4%	47.2%	11.5%	5.2%	4.1%	38.3%	1.3%	0.7%
特にない	1.8%	2.9%	0.0%	0.1%	0.9%	94.1%	0.4%	0.4%
その他	30.6%	38.9%	15.9%	7.5%	4.8%	36.5%	20.6%	2.0%

さらに、印象に残っている公演内容に対する「公演終了後から現在までの生活態度の変化」でも、同様に「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験」が全ての生活態度の変化で高い数値となっている。

表 38 印象に残っている公演内容×公演終了後から現在までの生活態度の変化（クロス集計）

	人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をクラスの友達などにすすんで話すようになった	発表や人に話すとき、伝えるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特にない	その他	無回答
全体	41.9%	19.6%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.5%	0.9%	0.8%
アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	52.2%	27.1%	25.5%	36.6%	44.1%	38.3%	20.5%	1.0%	0.6%
分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	55.8%	32.1%	29.0%	41.4%	48.9%	44.6%	16.9%	1.1%	0.5%
美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	52.5%	27.7%	25.9%	36.8%	44.6%	37.5%	21.5%	1.1%	0.6%
アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	59.5%	35.2%	32.3%	46.0%	53.9%	48.1%	14.1%	1.3%	0.5%
体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	50.6%	26.4%	24.3%	36.6%	43.9%	40.0%	21.3%	1.0%	0.5%
準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	56.8%	33.2%	29.7%	43.4%	50.6%	45.6%	16.5%	1.4%	0.6%
日本文化の素晴らしさを感じた	54.2%	29.6%	26.6%	39.4%	48.9%	41.5%	18.7%	1.0%	0.3%
特にない	10.5%	2.8%	2.4%	3.4%	7.2%	7.1%	76.6%	0.7%	0.6%
その他	44.0%	29.0%	27.8%	36.1%	40.9%	37.7%	27.0%	15.1%	0.4%

(8) 印象に残っている公演内容の鑑賞意向、活動意向への影響

次に、印象に残っている公演内容のその後の鑑賞意向、活動意向への影響について、クロス集計により検証した。

「積極的な文化芸術の鑑賞意向」については、「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験」が今後の強い鑑賞傾向（「とてもそう思う」）に最も影響を与えており、前項同様に単に鑑賞するだけでなく、交流することで積極的な文化芸術の鑑賞意向に影響を及ぼしていることを示している。また、「美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた」についても今後の鑑賞傾向（「そう思う」）に影響を与えており、スタッフワークを身近に感じられることも影響を及ぼしていることを示している。

表 39 印象に残っている公演内容×積極的な文化芸術の鑑賞意向（クロス集計）

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	無回答	とてもそう思う/そう思う
全体	24.7%	44.8%	18.9%	9.5%	2.1%	69.5%
アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	35.8%	46.4%	11.8%	4.2%	1.8%	82.2%
分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	38.0%	44.5%	11.6%	4.2%	1.7%	82.5%
美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	30.2%	46.6%	15.9%	5.6%	1.7%	76.8%
アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	40.9%	42.6%	10.3%	4.3%	2.0%	83.5%
体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	31.3%	45.7%	15.6%	5.7%	1.7%	77.0%
準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	35.9%	44.1%	12.8%	5.2%	2.1%	80.0%
日本文化の素晴らしさを感じた	34.0%	45.6%	13.7%	5.1%	1.6%	79.6%
特にない	5.6%	17.4%	32.2%	41.8%	2.9%	23.0%
その他	36.1%	34.1%	12.3%	12.7%	4.8%	70.2%

また、「自身での文化芸術活動意向」については、「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験」が今後の活動意向（「とてもそう思う」および「そう思う」）に最も影響を与えており、アーティストとの共演や交流が児童・生徒の文化活動に大きな影響を与えていることを裏付ける結果となっている。

表 40 印象に残っている公演内容×自身での文化芸術活動意向（クロス集計）

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	無回答	とてもそう思う/そう思う
全体	14.7%	31.9%	32.6%	18.3%	2.5%	46.5%
アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	20.2%	37.3%	28.7%	11.7%	2.1%	57.5%
分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	21.5%	36.2%	27.8%	12.4%	2.1%	57.6%
美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	18.1%	34.3%	31.6%	13.8%	2.1%	52.4%
アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	24.0%	38.5%	23.3%	12.0%	2.2%	62.5%
体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	18.0%	34.7%	30.8%	14.4%	2.2%	52.7%
準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	19.8%	36.9%	27.8%	13.0%	2.5%	56.7%
日本文化の素晴らしさを感じた	20.3%	34.2%	29.5%	14.0%	2.1%	54.4%
特になし	4.0%	12.2%	28.3%	52.1%	3.4%	16.2%
その他	26.6%	27.0%	21.8%	19.4%	5.2%	53.6%

(9) 公演終了後の行動の文化活動への影響

公演終了後の行動（印象の強さ）が、現在までの児童・生徒の文化活動にどのような変化があるかについて、クロス集計により検証した。

「図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた」と回答した児童・生徒は、全体としては少なかったが、その後の文化活動の変化、特に「音楽や国語などの勉強に取り組むようになった」(59.8%) および「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」(50.7%) など、全ての項目において大きな効果が確認できた。このことから、芸術文化公演の鑑賞だけでなく、公演後における学習課題の設定等が本事業の効果を高めるものと推測される。

表 41 公演終了後の行動×公演終了後から現在までの文化活動の変化（クロス集計）

	文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特になし	その他	無回答
全体	20.5%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.4%	1.5%	1.1%
公演のことについて友だちや先生と話をした	28.9%	43.9%	10.7%	4.9%	4.0%	38.7%	1.7%	0.8%
帰宅後に家族と公演のことについて話をした	24.6%	42.2%	9.9%	4.2%	3.2%	41.6%	1.6%	0.8%
図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	50.7%	59.8%	38.2%	23.5%	17.3%	21.0%	7.4%	1.1%
特になし	6.4%	8.8%	1.1%	0.9%	0.7%	84.4%	0.6%	0.5%
その他	25.5%	40.5%	23.6%	8.2%	7.3%	35.5%	20.5%	0.5%

一方、公演終了後の行動（印象の強さ）に対する生活態度の変化については、全体的に「人に会ったときにすすんで挨拶するようになった」で高い割合となっている。前項と同様に、芸術文化公演の鑑賞が日常生活の表現に良い影響を与えているという結果となっている。

また、「図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた」と回答した児童・生徒は、全体的に生活態度に変化が見られるという傾向がみられ、文化芸術に対する高い関心を持つことで生活態度にも良い影響を及ぼすものと推測される。

表 42 公演終了後の行動×公演終了後から現在までの生活態度の変化（クロス集計）

	人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をクラスの友達などにすすんで話すようになった	発表や人に話すとき、伝わるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特にない	その他	無回答
全体	41.9%	19.6%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.5%	0.9%	0.8%
公演のことに友だちや先生と話をした	52.5%	28.3%	26.1%	36.0%	44.5%	39.3%	19.5%	0.9%	0.6%
帰宅後に家族と公演のことに話をした	50.4%	25.5%	23.3%	34.6%	43.4%	38.2%	19.8%	0.8%	0.4%
図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	65.2%	49.6%	48.7%	61.2%	63.5%	59.2%	7.9%	4.2%	0.6%
特にない	16.9%	4.6%	4.2%	8.5%	12.4%	10.1%	66.2%	0.4%	0.6%
その他	39.5%	26.8%	22.7%	35.9%	44.1%	37.3%	18.6%	16.8%	1.8%

(10) (学校以外で) 文化芸術を間近で鑑賞した経験とその後の影響、意向

学校以外で文化芸術に間近で鑑賞した経験、すなわち日常的に文化芸術に親しんでいるかどうかということが、どのような影響を及ぼすのか、という点について、クロス集計により検証した。

その結果、「印象に残っている公演内容」「公演後終了後の行動」「現在までの生活の変化」において顕著に、関心のある層は影響（変化）があり、関心のない層にはない、という二極化する結果となった。

このことから、文化芸術の普及啓発という観点では、現時点では文化芸術に関心のない層をいかにフォローしていくかが重要であることが示された。しかし、「文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった」という層で、一定の効果が示されており、特に「日本文化の素晴らしさを感じた」が高い数値となっていることから、初めて芸術文化公演を鑑賞する児童・生徒にとって、日本の伝統的な文化との出会いに関して良い契機となっていることが推測される。

表 43 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験×印象に残っている公演内容（クロス集計）

	アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦勞や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特にな	その他	無回答
全体	47.1%	35.9%	43.0%	29.2%	52.5%	27.5%	36.8%	8.9%	2.7%	0.4%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	50.6%	38.7%	44.0%	31.3%	55.3%	27.8%	38.8%	5.3%	1.8%	0.1%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	51.7%	39.7%	48.0%	32.7%	57.2%	31.3%	41.9%	4.4%	3.4%	0.2%
今回の種目も鑑賞したことがあった	56.6%	39.8%	48.8%	33.9%	61.4%	32.2%	31.9%	3.4%	4.6%	0.2%
よく覚えていない	33.8%	25.1%	33.3%	20.4%	40.4%	19.8%	28.8%	20.6%	2.7%	0.3%

表 44 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験×公演終了後の行動（クロス集計）

	公演のことについて友だちや先生と話をした	帰宅後に家族と公演のことについて話をした	図書室やインターネットなどで文化芸術について調べた	特にな	その他	無回答
全体	48.9%	66.0%	3.8%	19.3%	2.4%	0.7%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	51.8%	70.9%	3.5%	14.8%	1.9%	0.1%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	56.7%	75.0%	4.0%	11.3%	2.5%	0.4%
今回の種目も鑑賞したことがあった	57.8%	76.1%	6.8%	10.0%	3.4%	0.7%
よく覚えていない	33.2%	47.0%	2.1%	37.3%	2.2%	0.9%

表 45 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験×公演終了後から現在までの文化活動の変化（クロス集計）

	文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった	音楽や国語などの勉強に取り組むようになった	家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた	文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった	文化部活動に参加するようになった	特にな	その他	無回答
全体	20.5%	33.1%	7.5%	3.3%	2.7%	51.4%	1.5%	1.1%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	21.9%	37.4%	6.1%	2.2%	2.0%	47.3%	1.0%	0.7%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	23.4%	36.8%	10.0%	3.9%	3.4%	45.4%	1.4%	0.7%
今回の種目も鑑賞したことがあった	27.8%	40.2%	17.5%	7.1%	4.7%	38.6%	3.7%	0.7%
よく覚えていない	12.1%	19.5%	3.0%	2.5%	1.4%	70.0%	1.5%	0.4%

また、「現在までの生活態度の変化」をみると、初めての鑑賞した児童・生徒が「人に会ったときにすすんで挨拶するようになった」が約半数となっており、表現のきっかけとなっていることがうかがえる。

また、「今回の種目も鑑賞したことがあった」および「他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった」が全体的に平均値より高くなっており、日常的に芸術文化に親しむ環境が生活への変化に効果を与えていることが推測される。

表 46 学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験×公演終了後から現在までの生活態度の変化

(クロス集計)

	人に会ったときにすすんで挨拶するようになった	考えや意見をカミの友達などに話すようになった	発表や人に話すとき、伝わるように工夫するようになった	難しいことにも、失敗を恐れずに挑戦するようになった	夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった	学校が今まで以上に好きになった	特になし	その他	無回答
全体	41.9%	19.6%	18.0%	27.1%	34.6%	30.1%	30.5%	0.9%	0.8%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	46.5%	20.3%	18.4%	29.5%	35.7%	32.9%	25.7%	0.7%	0.4%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	43.0%	22.3%	22.1%	29.6%	38.5%	32.0%	27.2%	0.7%	0.7%
今回の種目も鑑賞したことがあった	46.1%	24.4%	24.9%	32.4%	43.4%	33.6%	22.9%	1.5%	0.3%
よく覚えていない	31.6%	12.2%	10.1%	17.5%	25.1%	21.6%	45.4%	1.1%	0.3%

加えて、学校以外で文化芸術に間近で鑑賞した経験と鑑賞意向、活動意向への影響についてみると、いずれも「鑑賞経験がある」児童・生徒が「鑑賞経験のない」児童・生徒よりも関心が高いという意向を示しており、鑑賞経験のない、すなわち日常的に文化芸術に触れる環境にない児童・生徒の普及啓発、その後のフォローが重要であると考えられる。

表 47 (学校以外で) 文化芸術を間近で鑑賞した経験×積極的な文化芸術の鑑賞意向 (クロス集計)

	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	無回答
全体	24.7%	44.8%	18.9%	9.5%	2.1%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	26.6%	46.4%	18.1%	7.5%	1.5%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	29.4%	50.2%	14.7%	4.3%	1.4%
今回の種目も鑑賞したことがあった	37.3%	45.6%	12.0%	3.9%	1.2%
よく覚えていない	13.3%	37.9%	26.6%	19.4%	2.9%
鑑賞経験あり	30.9%	49.3%	14.2%	4.2%	1.4%
鑑賞経験なし	21.1%	42.9%	21.6%	12.4%	2.0%

表 48 (学校以外で) 文化芸術を間近で鑑賞した経験×自身での文化芸術活動意向 (クロス集計)

	とてもそう 思う	そう思う	そう思わ ない	まったくそ う思わない	無回答
全体	14.7%	31.9%	32.6%	18.3%	2.5%
文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった	12.8%	32.5%	35.7%	17.1%	2.0%
他の種目はあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった	19.8%	39.1%	28.4%	10.9%	1.8%
今回の種目も鑑賞したことがあった	26.4%	37.8%	23.6%	10.0%	2.2%
よく覚えていない	8.3%	22.5%	35.8%	30.4%	3.0%
鑑賞経験あり	21.1%	38.8%	27.5%	10.7%	1.9%
鑑賞経験なし	10.9%	28.4%	35.8%	22.6%	2.4%

(11) 鑑賞、活動の意向に対する印象に残っている公演内容

導入すべきプログラムについての検討材料として、児童・生徒の今後の文化芸術の鑑賞意向および自身での活動意向に印象に残っている公演内容について検証を行った。

その結果、最も影響が大きかった内容は、鑑賞、活動意向の有無にかかわらず「体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた」であったが、鑑賞、活動意向があると回答した児童・生徒は、次いで「アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した」を挙げており、質の高い芸術文化公演の鑑賞がその後の鑑賞、活動意向につながっていることがわかる。

この結果から、児童・生徒の印象に残る事業（公演、ワークショップなど）を実施することによって、その後の児童・生徒による文化芸術の鑑賞や自身での文化的活動への意向に対して、大きな影響を及ぼしていることが確認できた。

表 49 積極的な文化芸術の鑑賞意向×印象に残っている公演内容 (クロス集計)

	アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でも興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特にな	その他	無回答
全体	47.1%	35.9%	43.0%	29.2%	52.5%	27.5%	36.8%	8.9%	2.7%	0.4%
とてもそう思う	68.1%	55.2%	52.5%	48.3%	66.5%	39.9%	50.6%	2.0%	4.0%	0.3%
そう思う	48.8%	35.7%	44.8%	27.8%	53.6%	27.1%	37.5%	3.5%	2.1%	0.2%
そう思わない	29.3%	22.1%	36.1%	15.8%	43.4%	18.6%	26.6%	15.1%	1.8%	0.5%
まったくそう思わない	20.9%	16.0%	25.5%	13.1%	31.3%	15.0%	19.9%	39.2%	3.7%	0.3%
鑑賞意向あり	55.6%	42.7%	47.5%	35.1%	58.2%	31.7%	42.2%	2.9%	2.8%	0.2%
鑑賞意向なし	26.5%	20.0%	32.6%	14.9%	39.3%	17.4%	24.4%	23.2%	2.4%	0.4%

表 50 自身での文化芸術活動意向×印象に残っている公演内容（クロス集計）

	アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した	分かりやすい解説でとても興味を持つことができた	美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた	アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった	体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた	準備や片付けを見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた	日本文化の素晴らしさを感じた	特になし	その他	無回答
全体	47.1%	35.9%	43.0%	29.2%	52.5%	27.5%	36.8%	8.9%	2.7%	0.4%
とてもそう思う	64.9%	52.6%	53.1%	47.7%	64.4%	37.1%	50.8%	2.4%	5.0%	0.4%
そう思う	55.1%	40.8%	46.3%	35.3%	57.1%	31.9%	39.5%	3.4%	2.3%	0.4%
そう思わない	41.4%	30.7%	41.7%	20.9%	49.6%	23.5%	33.2%	7.7%	1.8%	0.2%
まったくそう思わない	30.1%	24.3%	32.4%	19.0%	41.1%	19.6%	28.0%	25.2%	2.9%	0.4%
活動意向あり	58.2%	44.5%	48.5%	39.2%	59.4%	33.5%	43.1%	3.1%	3.1%	0.4%
活動意向なし	37.3%	28.4%	38.4%	20.2%	46.5%	22.1%	31.4%	14.0%	2.2%	0.2%

IV. 教員へのアンケート調査・分析結果

1. 調査方法

民間アンケート会社に登録している全国の小中学校教員モニターを対象としてウェブアンケート調査を実施した。アンケート調査概要は、以下の通りである。

調査対象：全国の小中学校の教員モニター（公立・私立問わず）。ただし、本事業に申請し、かつ採択された経験がある教員を除く。

調査形式：ウェブアンケート（株式会社メディアインタラクティブが運営するアンケート専門サイト「アイリサーチ」を用いたウェブアンケート方式）

実施時期：平成 24 年 3 月 27 日～3 月 31 日

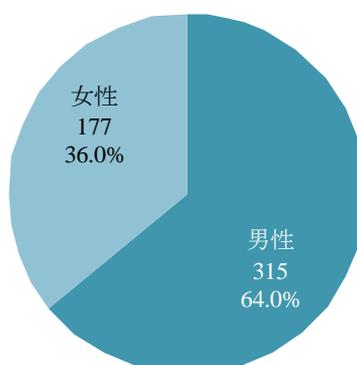
回答状況：有効回答数 492

2. 回答者属性

(1) 性別

有効回答数のうち、性別は「男性」（64.0%）が「女性」（36.0%）より多く回答があった。

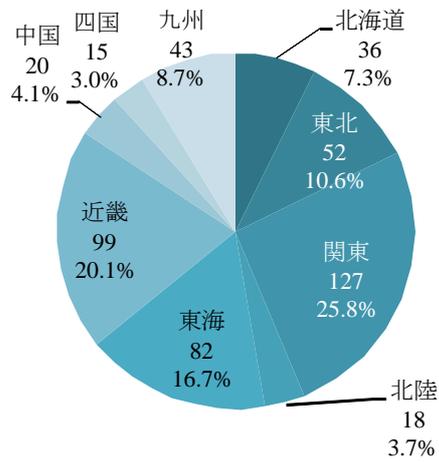
図 32 性別 (SA)



(2) 地方別分布

地方別にみると、「関東」(25.8%)が最も多く、次いで「近畿」(20.1%)、「東海」(16.7%)の順となっており、大都市圏を中心とする地域の回答が多い結果となった。

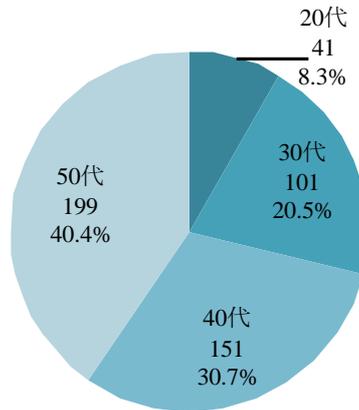
図 33 地方別 (SA)



(3) 年代別分布

年代別にみると、「50代」(40.4%)が最も多く、次いで「40代」(30.7%)、「30代」(20.5%)、「20代」(8.3%)の順となっており、年長者から順に回答が多いという結果であった。

図 34 年代別 (SA)



(4) 学校区分・種別

学校区分別にみると、ほぼ「公立」(94.7%)の小中学校からの回答であり、若干数、「私立」(4.3%)および「国立」(1.0%)からの回答があった。

また、種別でみると、「小学校」(49.5%)がほぼ半数となっており、「中学校」(41.5%)の他、「特別支援学校」(小学部・中学部)が1割弱となっている。

図 35 学校区分別 (SA)

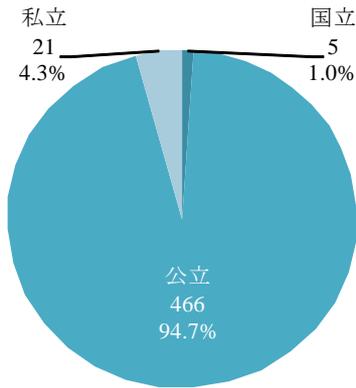
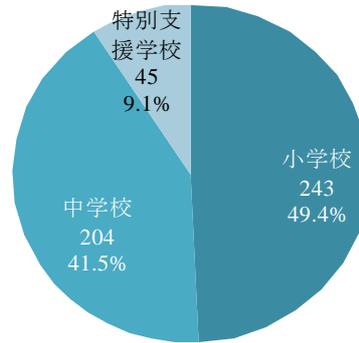


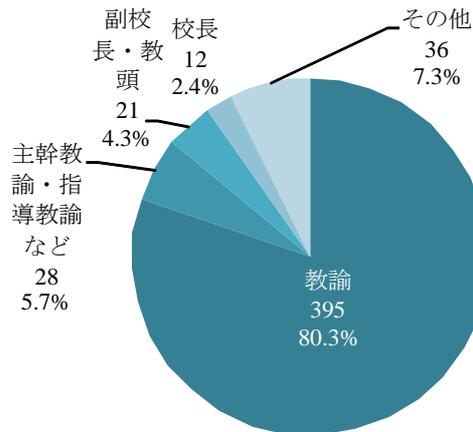
図 36 学校種別 (SA)



(5) 役職別

役職別については、「教諭」(80.3%)が8割を占めており、「主幹教諭・指導教諭など」(5.7%)、「副校長・教頭」(4.3%)、「校長」(2.4%)の順となっている。

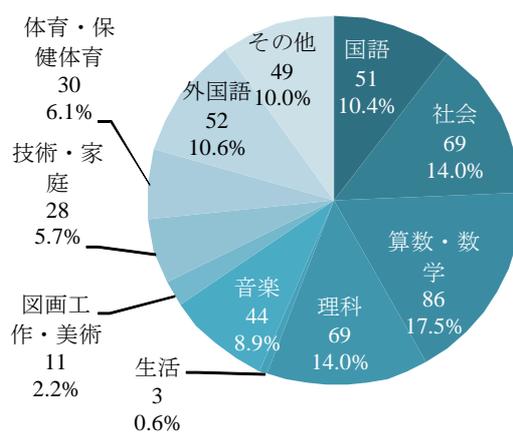
図 37 役職別 (SA)



(6) 専門教科別

専門教科別にみると、「算数・数学」(17.5%)が最も多く、次いで「社会」(14.0%)、「理科」(14.0%)、「外国語」(10.6%)、「国語」(10.4%)の順となっており、芸術文化分野である「音楽」(8.9%)および「図画工作・美術」(2.2%)は少なかった。

図 38 専門教科別 (SA)

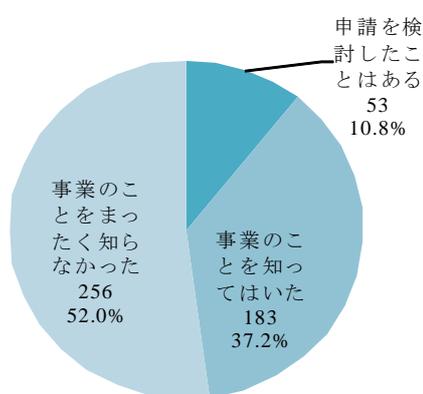


3. 調査結果

(1) 巡回公演事業の経験・認識

前任校を含む巡回公演事業の経験、認識については、「事業のことをまったく知らなかった」(52.0%)が過半数を超えており、認知の拡大、普及啓発が課題であることが示された。また、「事業のことを知ってはいた」(37.2%)に対して、「申請を検討したことはある」(8.4%)の回答が約1割となっており、事業は知っているにもかかわらず、申請の検討にも至っていない教員の割合が高いという現状が明らかとなった。

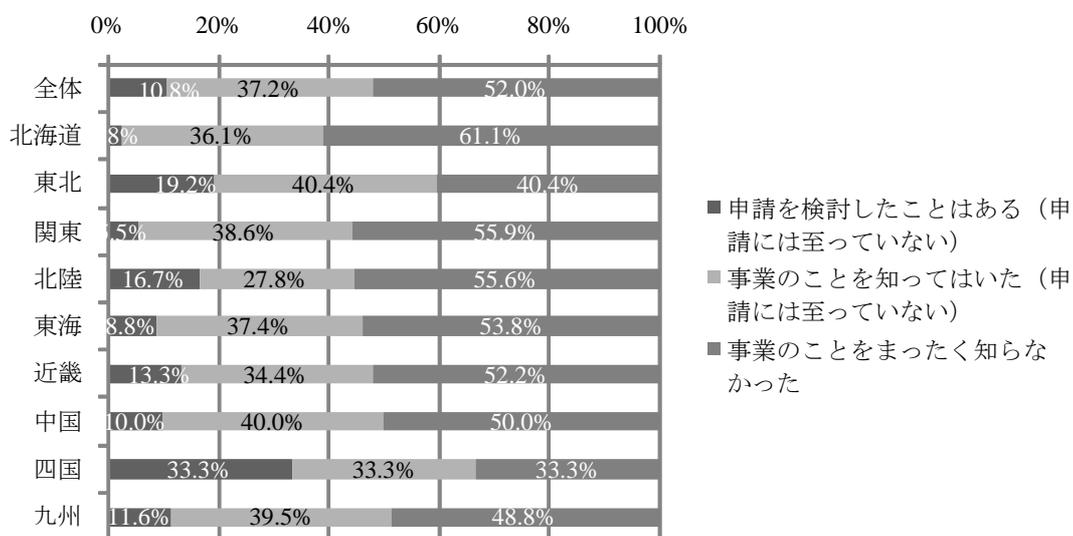
図 39 巡回公演事業の経験・認識 (SA)



地方別でみると、「申請を検討したことはある」と回答した割合が高い地方は「四国」(33.3%)、次いで「東北」(19.2%)、「北陸」(16.7%)の順となっており、普段芸術文化公演の鑑賞機会が少ないと思われる地域ほど、より積極的に申請を検討している結果となった。

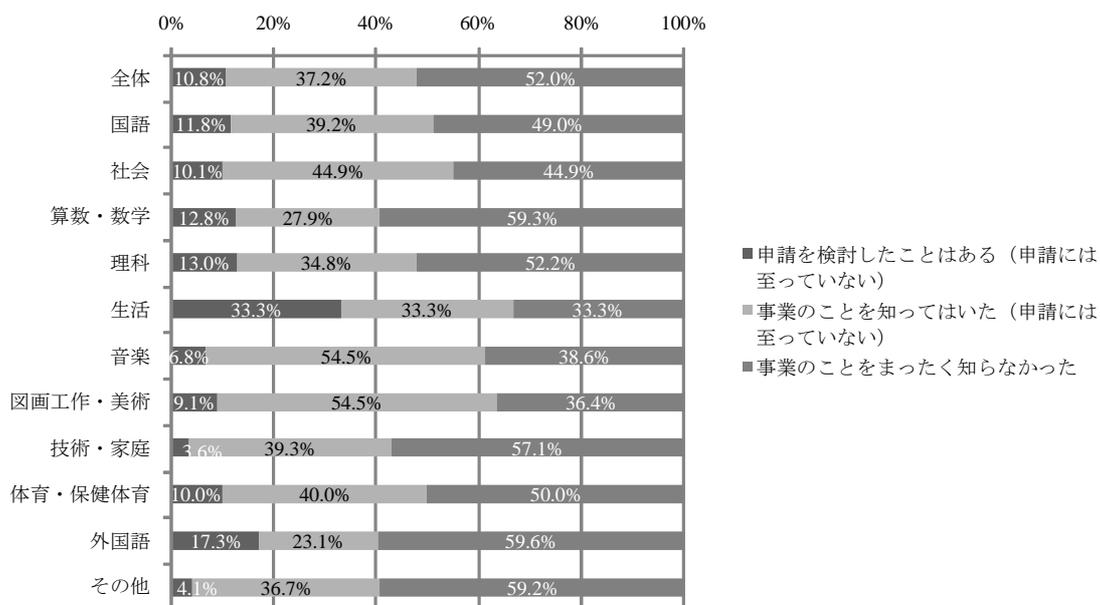
一方、「事業のことを知ってはいた」という回答を加えた認知度でみると、「四国」(66.7%)および「東北」(59.6%)に加えて、「九州」(51.2%)および「中国」(50.0%)の認知度が過半数を超えており、特に「九州」「中国」では認知はされているが申請に至る割合が低いという結果となっている。

図 40 巡回公演事業の経験・認識（地方別・SA）



専門教科別でみると、「申請を検討したことはある」と回答した教員の専門教科は、「生活」(33.3%)が最も多く、次いで「外国語」(17.3%)、「理科」(13.0%)の順となっている。本事業に関連が深い「音楽」は、「事業のことを知ってはいた」は54.8%と非常に高い認知度となっているが、申請検討は6.8%に留まっており、事業を認知していても申請検討に至っていないという結果となっている。

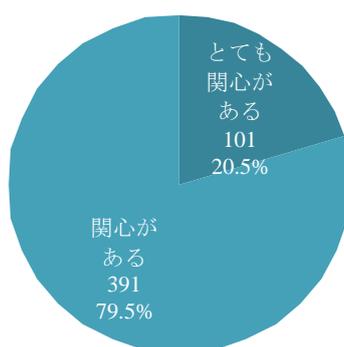
図 41 巡回公演事業の経験・認識（専門教科別・SA）



(2) 文化芸術鑑賞や体験への関心

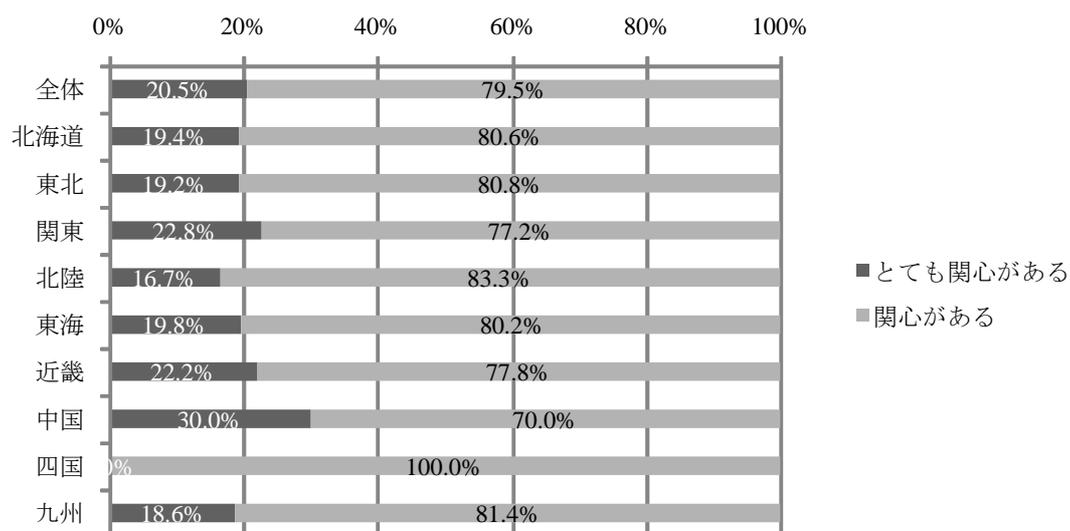
学校の授業や行事などで、文化芸術鑑賞や体験を行うことに対する関心については、「とても関心がある」(20.5%)あるいは「関心がある」(79.5%)と全ての回答者が回答しており、教員の関心が高いことを示している。

図 42 文化芸術鑑賞や体験への関心 (SA)



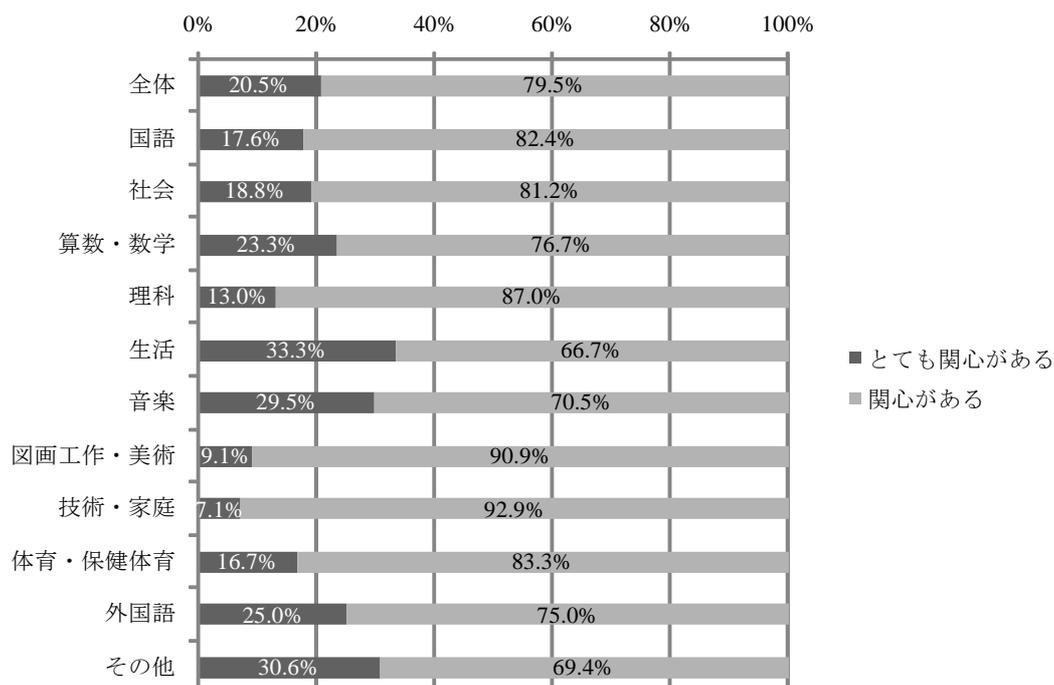
地方別にみると、「とても関心がある」と回答した地方は、「中国」(30.0%)が最も多く、次いで「関東」(22.8%)、「近畿」(22.2%)の順となっており、大都市圏を中心とした地域での関心が比較的高いことが示されている。

図 43 文化芸術鑑賞や体験への関心 (地方別・SA)



専門教科別にみると、「とても関心がある」と回答した教員の専門教科は、「その他」を除くと「生活」(33.3%)が最も多く、次いで「音楽」(29.5%)、「外国語」(25.0%)の順となっており、実習や体験が重視されている教科の教員ほど、関心が高いことがわかる。

図 44 文化芸術鑑賞や体験への関心（専門教科別・SA）

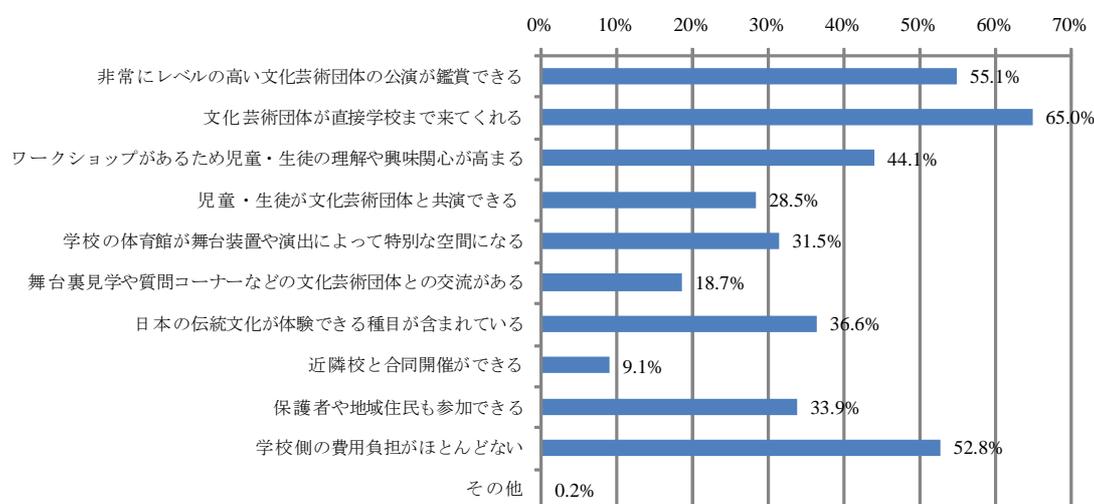


(3) 巡回公演事業への興味

巡回公演事業に対してどのようなところに興味を感じるかについては、「文化芸術団体が直接学校まで来てくれる」(65.0%)が最も高く、次いで「非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる」(55.1%)、「学校側の費用負担がほとんどない」(52.8%)の順となっており、いずれも過半数を超えている。学校側の費用負担がなく、児童・生徒に非常に高いレベルの芸術文化公演を鑑賞させることができることに対する興味が集まっていることがわかる。

同時に、「ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる」(44.1%)、「日本の伝統文化が体験できる種目が含まれている」(36.6%)も3分の1以上の教員が興味を持っており、体験型のプログラムである点も期待されていることを示している。

図 45 巡回公演事業への興味 (MA)



「文化芸術団体が直接学校まで来てくれる」については、「東北」が高い割合であるが、全体として「九州」「中国」「四国」の割合が高い。

地方別にみると、「九州」で「非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる」および「文化芸術団体が直接学校まで来てくれる」が高い割合となっている。その一方で、「関東」は全ての項目で平均値を超えており、本事業の興味とともに理解度も高いものと思われる。

表 51 巡回公演事業への興味 (地方別・MA)

	非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる	文化芸術団体が直接学校まで来てくれる	ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる	児童・生徒が文化芸術団体と共演できる	学校の体育館が舞台装置や演出によって特別な空間になる	舞台裏見学や質問コーナーなどの文化芸術団体との交流がある	日本の伝統文化が体験できる種目が含まれている	近隣校と合同開催ができる	保護者や地域住民も参加できる	学校側の費用負担がほとんどない	その他
全体	55.1%	65.0%	44.1%	28.5%	31.5%	18.7%	36.6%	9.1%	33.9%	52.8%	0.2%
北海道	52.8%	66.7%	36.1%	27.8%	27.8%	25.0%	30.6%	0.0%	13.9%	44.4%	0.0%
東北	42.3%	71.2%	42.3%	23.1%	30.8%	13.5%	32.7%	15.4%	44.2%	48.1%	0.0%
関東	56.7%	66.1%	46.5%	33.9%	37.0%	25.2%	43.3%	10.2%	38.6%	55.9%	0.0%
北陸	44.4%	61.1%	33.3%	22.2%	22.2%	11.1%	33.3%	16.7%	27.8%	55.6%	0.0%
東海	62.6%	63.7%	46.2%	29.7%	30.8%	20.9%	34.1%	9.9%	35.2%	56.0%	0.0%
近畿	47.8%	63.3%	38.9%	22.2%	26.7%	6.7%	35.6%	5.6%	26.7%	52.2%	1.1%
中国	65.0%	70.0%	55.0%	30.0%	30.0%	40.0%	50.0%	5.0%	45.0%	40.0%	0.0%
四国	60.0%	46.7%	46.7%	40.0%	20.0%	13.3%	40.0%	20.0%	40.0%	53.3%	0.0%
九州	65.1%	65.1%	51.2%	27.9%	39.5%	16.3%	27.9%	7.0%	32.6%	55.8%	0.0%

専門教科別にみると、「生活」および「図画工作・美術」の教員の関心が高い傾向にある。

表 52 巡回公演事業への興味（専門教科別・MA）

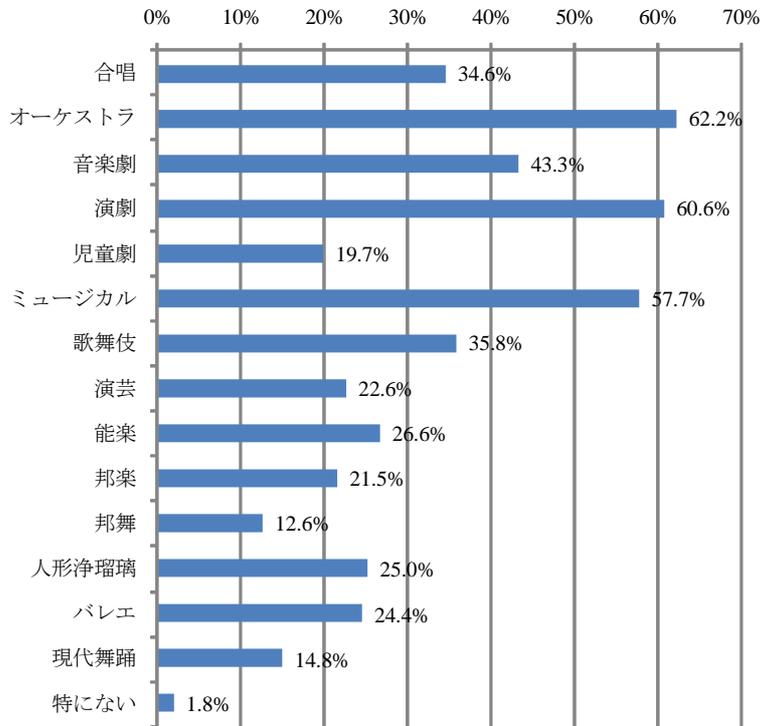
	非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる	文化芸術団体が直接学校まで来てくれる	ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる	児童・生徒が文化芸術団体と共演できる	学校の体育館が舞台装置や演出によって特別な空間になる	舞台裏見学や質問コーナーなどの文化芸術団体との交流がある	日本の伝統文化が体験できる種目が含まれている	近隣校と合同開催ができる	保護者や地域住民も参加できる	学校側の費用負担がほとんどない
全体	55.1%	65.0%	44.1%	28.5%	31.5%	18.7%	36.6%	9.1%	33.9%	52.8%
国語	43.1%	52.9%	45.1%	17.6%	19.6%	11.8%	35.3%	9.8%	25.5%	49.0%
社会	50.7%	68.1%	37.7%	31.9%	24.6%	21.7%	37.7%	5.8%	39.1%	47.8%
算数・数学	64.0%	69.8%	51.2%	32.6%	36.0%	27.9%	39.5%	10.5%	38.4%	58.1%
理科	56.5%	60.9%	36.2%	18.8%	33.3%	13.0%	33.3%	10.1%	23.2%	49.3%
生活	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%
音楽	47.7%	63.6%	50.0%	18.2%	31.8%	22.7%	38.6%	6.8%	27.3%	50.0%
図画工作・美術	90.9%	72.7%	72.7%	9.1%	36.4%	9.1%	36.4%	36.4%	54.5%	63.6%
技術・家庭	42.9%	50.0%	25.0%	25.0%	39.3%	21.4%	42.9%	7.1%	39.3%	57.1%
体育・保健体育	43.3%	76.7%	33.3%	23.3%	43.3%	10.0%	40.0%	10.0%	53.3%	56.7%
外国語	53.8%	61.5%	51.9%	50.0%	23.1%	17.3%	26.9%	9.6%	23.1%	53.8%
その他	73.5%	75.5%	46.9%	38.8%	36.7%	16.3%	38.8%	6.1%	38.8%	55.1%

(4) 申請してみたい種目

巡回公演事業で体験できる種目の中で、申請してみたいと感じる種目については、「オーケストラ」(62.2%)が最も多く、次いで「演劇」(60.6%)、「ミュージカル」(57.7%)の順となっており、規模が大きく、かつ児童・生徒が関心を持つと思われる種目が過半数を超える結果となっている。また、「音楽劇」(43.3%)、「歌舞伎」(35.8%)および「合唱」(34.6%)といった比較的回答が多かった種目についても、いずれも規模が大きく、予算がかかることから、学校予算だけでは実現できない種目への関心が高いことが理解できる。

その一方で、「邦舞」(12.6%)および「現代舞踊」(14.8%)といった、児童・学生にとってなじみの薄い分野への関心は低い結果となっている。

図 46 申請してみたい種目 (MA)



地方別にみると、前項と同様に「中国」および「四国」が演劇分野および伝統芸能分野で全体的に関心が高い傾向にある。一方、「近畿」は、逆に全般的に関心が低くなっており、特に伝統芸能分野は全て平均値を下回っている。これは、近畿での当該分野の公演が多いことが影響しているものと思われる。

表 53 申請してみたい種目 (地方別・MA)

	合唱	オーケストラ	音楽劇	演劇	児童劇	ミュージカル	歌舞伎	演芸	能楽	邦楽	邦舞	人形浄瑠璃	バレエ	現代舞踊	特にない
全体	34.6%	62.2%	43.3%	60.6%	19.7%	57.7%	35.8%	22.6%	26.6%	21.5%	12.6%	25.0%	24.4%	14.8%	1.8%
北海道	52.8%	58.3%	36.1%	61.1%	13.9%	55.6%	38.9%	30.6%	25.0%	22.2%	16.7%	30.6%	19.4%	8.3%	2.8%
東北	32.7%	53.8%	38.5%	53.8%	17.3%	61.5%	28.8%	28.8%	26.9%	26.9%	13.5%	26.9%	23.1%	17.3%	0.0%
関東	35.4%	70.1%	47.2%	63.0%	19.7%	59.8%	34.6%	25.2%	29.1%	22.8%	14.2%	26.8%	29.1%	21.3%	1.6%
北陸	33.3%	66.7%	0.0%	66.7%	16.7%	55.6%	27.8%	11.1%	27.8%	11.1%	11.1%	22.2%	11.1%	5.6%	0.0%
東海	36.3%	70.3%	52.7%	61.5%	18.7%	61.5%	40.7%	24.2%	28.6%	29.7%	14.3%	25.3%	27.5%	12.1%	1.1%
近畿	25.6%	48.9%	40.0%	61.1%	24.4%	51.1%	30.0%	17.8%	20.0%	8.9%	8.9%	21.1%	20.0%	13.3%	3.3%
中国	40.0%	70.0%	45.0%	60.0%	30.0%	65.0%	55.0%	35.0%	25.0%	35.0%	20.0%	30.0%	25.0%	20.0%	0.0%
四国	40.0%	46.7%	46.7%	46.7%	26.7%	66.7%	53.3%	6.7%	40.0%	26.7%	6.7%	20.0%	20.0%	13.3%	0.0%
九州	30.2%	62.8%	46.5%	60.5%	14.0%	48.8%	34.9%	11.6%	25.6%	16.3%	7.0%	20.9%	25.6%	9.3%	4.7%

専門教科別にみると、前項と同様に「生活」および「図画工作・美術」の教員の関心が高い傾向にあるほか、「算数・数学」の教員の関心も高いという結果であった。

また、前項とは逆に「音楽」の教員の関心が非常に高い結果となっている。これは、本事業への関心とは別に、種目に対する知識が他教科の教員と比較して多いことが影響していると思われる。

表 54 申請してみたい種目（専門教科別・MA）

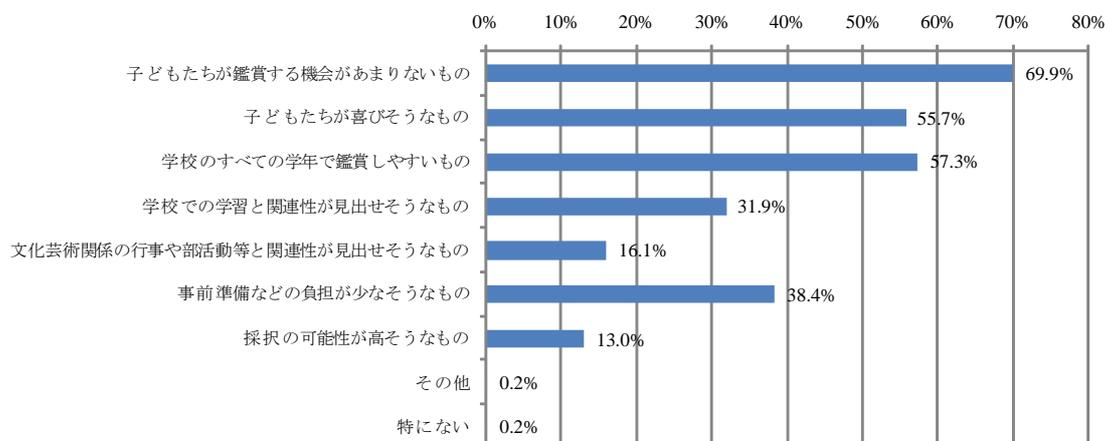
	合唱	オーケストラ	音楽劇	演劇	児童劇	ミュージカル	歌舞伎	演芸	能楽	邦楽	邦舞	人形浄瑠璃	バレエ	現代舞踊	特にない
全体	34.6%	62.2%	43.3%	60.6%	19.7%	57.7%	35.8%	22.6%	26.6%	21.5%	12.6%	25.0%	24.4%	14.8%	1.8%
国語	27.5%	41.2%	39.2%	60.8%	21.6%	39.2%	37.3%	19.6%	15.7%	15.7%	7.8%	27.5%	21.6%	7.8%	2.0%
社会	30.4%	68.1%	36.2%	60.9%	15.9%	56.5%	31.9%	23.2%	26.1%	17.4%	8.7%	20.3%	20.3%	14.5%	0.0%
算数・数学	40.7%	68.6%	47.7%	73.3%	17.4%	58.1%	38.4%	26.7%	30.2%	27.9%	18.6%	26.7%	27.9%	18.6%	3.5%
理科	30.4%	60.9%	40.6%	62.3%	13.0%	49.3%	29.0%	24.6%	27.5%	18.8%	13.0%	21.7%	11.6%	10.1%	1.4%
生活	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
音楽	34.1%	68.2%	65.9%	50.0%	18.2%	54.5%	45.5%	29.5%	36.4%	25.0%	11.4%	31.8%	45.5%	4.5%	2.3%
図画工作・美術	36.4%	72.7%	36.4%	72.7%	27.3%	72.7%	45.5%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	27.3%	18.2%	27.3%	0.0%
技術・家庭	35.7%	57.1%	42.9%	64.3%	14.3%	64.3%	42.9%	17.9%	28.6%	14.3%	10.7%	14.3%	21.4%	21.4%	0.0%
体育・保健体育	36.7%	53.3%	36.7%	46.7%	16.7%	83.3%	26.7%	13.3%	10.0%	26.7%	6.7%	16.7%	30.0%	23.3%	3.3%
外国語	44.2%	53.8%	40.4%	53.8%	19.2%	53.8%	30.8%	19.2%	25.0%	19.2%	13.5%	28.8%	19.2%	13.5%	3.8%
その他	30.6%	77.6%	42.9%	57.1%	38.8%	73.5%	40.8%	24.5%	34.7%	28.6%	18.4%	30.6%	30.6%	20.4%	0.0%

(5) 種目選択で重視する点

巡回公演事業で体験できる種目を選択するとした場合の重視する点については、「子どもたちが鑑賞する機会があまりないもの」（69.9%）が最も多く、次いで「学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの」（57.3%）、「子どもたちが喜びそうなもの」（55.7%）の順となっており、芸術文化鑑賞の機会の拡充が目的であるとともに、子どもたちが関心を持ちそうな種目に関心が高い。また、「事前準備などの負担が少なそうなもの」（38.4%）および「学校での学習と関連性が見出せそうなもの」（31.9%）の割合も高く、通常業務の範囲と関連した取り組みが求められていることも示されている。

なお、自由回答では、「子どもの教育課題に即したもの」という回答が1件あった。

図 47 種目選択で重視する点 (MA)



地方別にみると、「中国」「四国」および「九州」において、「子どもたちが鑑賞する機会が少ないもの」が多く、当該地方での芸術文化公演の鑑賞機会が少ないことが伺える。それに加えて、「東海」では「学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの」の割合が非常に高くなっており、全校行事の一つとして本事業が期待されていると思われる。

表 55 種目選択で重視する点 (地方別・MA)

	子どもたちが鑑賞する機会が少ないもの	子どもたちが喜びそうなもの	学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの	学校での学習と関連性が見出せそうなもの	文化芸術関係の行事や部活動等と関連性が見出せそうなもの	事前準備などの負担が少なそうなもの	採択の可能性が高そうなもの	その他	特にない
全体	69.9%	55.7%	57.3%	31.9%	16.1%	38.4%	13.0%	0.2%	0.2%
北海道	63.9%	61.1%	63.9%	25.0%	16.7%	47.2%	5.6%	0.0%	0.0%
東北	69.2%	46.2%	57.7%	30.8%	7.7%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%
関東	71.7%	63.0%	59.1%	33.9%	21.3%	40.9%	17.3%	0.0%	0.0%
北陸	61.1%	27.8%	50.0%	50.0%	11.1%	44.4%	0.0%	0.0%	0.0%
東海	68.1%	57.1%	65.9%	28.6%	18.7%	40.7%	16.5%	0.0%	0.0%
近畿	62.2%	54.4%	48.9%	22.2%	11.1%	36.7%	10.0%	1.1%	1.1%
中国	80.0%	60.0%	50.0%	35.0%	20.0%	40.0%	15.0%	0.0%	0.0%
四国	86.7%	46.7%	46.7%	40.0%	33.3%	40.0%	13.3%	0.0%	0.0%
九州	83.7%	53.5%	55.8%	48.8%	9.3%	37.2%	16.3%	0.0%	0.0%

専門教科別にみると、全体的に「学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの」の割合が高くなっており、前項同様、専門教科にかかわらず、全校行事の一つとして本事業が期待されていると思われる。

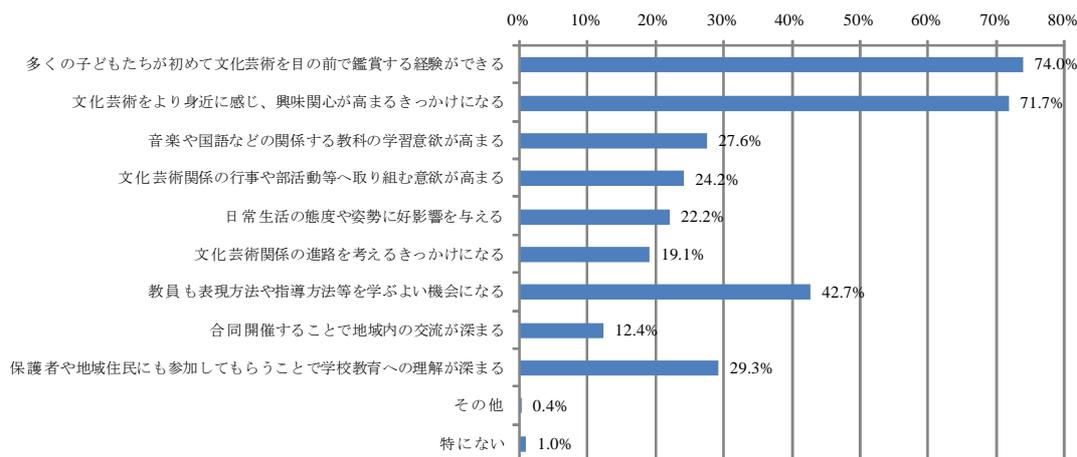
表 56 種目選択で重視する点（専門教科別・MA）

	子どもたちが鑑賞する機会があまりないもの	子どもたちが喜びそうなもの	学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの	学校での学習と関連性が見出せそうなもの	文化芸術関係の行事や部活動等と関連性が見出せそうなもの	事前準備などの負担が少ないもの	採択の可能性が高そうなもの	その他	特にない
全体	69.9%	55.7%	57.3%	31.9%	16.1%	38.4%	13.0%	0.2%	0.2%
国語	72.5%	52.9%	39.2%	31.4%	13.7%	41.2%	11.8%	0.0%	0.0%
社会	66.7%	59.4%	60.9%	29.0%	13.0%	36.2%	11.6%	0.0%	0.0%
算数・数学	73.3%	58.1%	58.1%	31.4%	18.6%	32.6%	12.8%	1.2%	0.0%
理科	65.2%	53.6%	59.4%	29.0%	10.1%	39.1%	11.6%	0.0%	0.0%
生活	33.3%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
音楽	75.0%	61.4%	59.1%	40.9%	20.5%	43.2%	18.2%	0.0%	2.3%
図画工作・美術	63.6%	45.5%	63.6%	54.5%	36.4%	72.7%	9.1%	0.0%	0.0%
技術・家庭	67.9%	46.4%	53.6%	35.7%	14.3%	35.7%	3.6%	0.0%	0.0%
体育・保健体育	66.7%	60.0%	60.0%	26.7%	13.3%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%
外国語	69.2%	51.9%	50.0%	28.8%	11.5%	55.8%	23.1%	0.0%	0.0%
その他	75.5%	59.2%	71.4%	30.6%	26.5%	30.6%	10.2%	0.0%	0.0%

(6) 事業の成果への期待

巡回公演事業を実施した場合の成果については、「多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる」（74.0%）が最も多く、次いで「文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる」（71.7%）となっており、児童・生徒の芸術文化に触れる機会の拡充、関心の高まりが期待されている。あわせて「教員も表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になる」（42.7%）の回答も多くなっており、児童・生徒ばかりでなく、教員の経験としての成果も期待されている。

図 48 事業の成果への期待（MA）



なお、自由回答では、「子どもたちの世界が広がる」および「普段感じることはない改まった雰囲気を学校にいながらにして体験することができる」が各1件あった。

地方別にみると、「多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる」が「中国」で最も多く、「文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる」が「東北」「九州」で高くなっている。また、「関東」では全ての項目が平均値より高くなっている。

表 57 事業の成果への期待（地方別・MA）

	多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる	文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる	音楽や国語などの関係する教科の学習意欲が高まる	文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組み意欲が高まる	日常生活の態度や姿勢に影響を与える	文化芸術関係の進路を考えるきっかけになる	教員も表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になる	合同開催することで地域内の交流が深まる	保護者や地域住民にも参加してもらうことで学校教育への理解が深まる	その他	特にない
全体	74.0%	71.7%	27.6%	24.2%	22.2%	19.1%	42.7%	12.4%	29.3%	0.4%	1.0%
北海道	83.3%	66.7%	22.2%	22.2%	5.6%	11.1%	33.3%	5.6%	25.0%	0.0%	2.8%
東北	69.2%	82.7%	30.8%	15.4%	15.4%	15.4%	28.8%	17.3%	32.7%	0.0%	0.0%
関東	78.7%	75.6%	28.3%	28.3%	23.6%	26.0%	50.4%	15.7%	32.3%	0.8%	0.0%
北陸	66.7%	77.8%	27.8%	5.6%	11.1%	16.7%	33.3%	11.1%	22.2%	0.0%	0.0%
東海	71.4%	69.2%	27.5%	28.6%	26.4%	18.7%	47.3%	9.9%	30.8%	0.0%	1.1%
近畿	68.9%	62.2%	18.9%	25.6%	20.0%	13.3%	36.7%	5.6%	23.3%	0.0%	2.2%
中国	85.0%	65.0%	45.0%	25.0%	35.0%	15.0%	50.0%	10.0%	35.0%	0.0%	0.0%
四国	73.3%	60.0%	26.7%	26.7%	33.3%	33.3%	46.7%	26.7%	26.7%	0.0%	6.7%
九州	72.1%	81.4%	37.2%	18.6%	30.2%	20.9%	46.5%	18.6%	30.2%	2.3%	0.0%

専門教科別にみると、「生活」および「図画工作・美術」の教員の期待が全般的に高い傾向にある一方で、直接関連が深い「音楽」の教員の期待が全体的にあまり高くない結果となっており、本事業内容の普及啓発が課題であると思われる。

表 58 事業の成果への期待（専門教科別・MA）

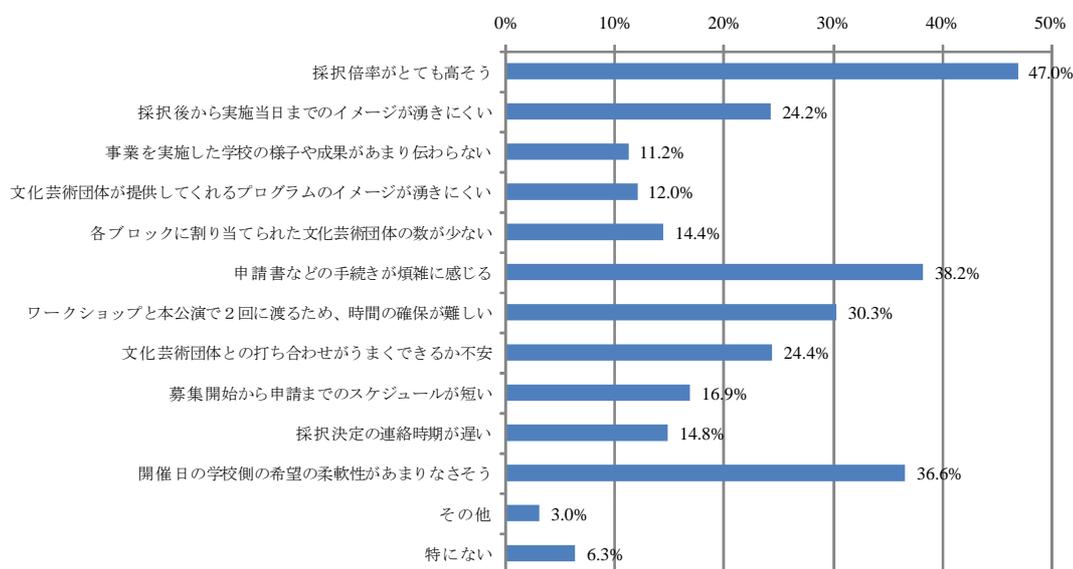
	多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる	文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる	音楽や国語などの関係する教科の学習意欲が高まる	文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組み意欲が高まる	日常生活の態度や姿勢に影響を与える	文化芸術関係の進路を考えるきっかけになる	教員も表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になる	合同開催することで地域内の交流が深まる	保護者や地域住民にも参加してもらうことで学校教育への理解が深まる	その他	特にない
全体	74.0%	71.7%	27.6%	24.2%	22.2%	19.1%	42.7%	12.4%	29.3%	0.4%	1.0%
国語	64.7%	64.7%	35.3%	23.5%	19.6%	17.6%	39.2%	7.8%	17.6%	0.0%	2.0%
社会	69.6%	68.1%	26.1%	15.9%	26.1%	17.4%	40.6%	14.5%	36.2%	1.4%	1.4%
算数・数学	79.1%	76.7%	30.2%	30.2%	20.9%	19.8%	44.2%	14.0%	31.4%	0.0%	0.0%
理科	78.3%	72.5%	26.1%	15.9%	23.2%	15.9%	29.0%	8.7%	24.6%	0.0%	0.0%
生活	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
音楽	65.9%	70.5%	36.4%	22.7%	18.2%	15.9%	47.7%	9.1%	22.7%	0.0%	2.3%
図画工作・美術	100.0%	81.8%	36.4%	45.5%	18.2%	18.2%	63.6%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%
技術・家庭	67.9%	57.1%	7.1%	25.0%	14.3%	14.3%	46.4%	14.3%	39.3%	0.0%	3.6%
体育・保健体育	73.3%	80.0%	16.7%	13.3%	23.3%	20.0%	56.7%	16.7%	40.0%	0.0%	0.0%
外国語	69.2%	75.0%	28.8%	30.8%	21.2%	26.9%	36.5%	13.5%	26.9%	0.0%	1.9%
その他	87.8%	75.5%	24.5%	30.6%	30.6%	22.4%	53.1%	14.3%	32.7%	2.0%	0.0%

(7) 事業申請にあたっての課題、不安

巡回公演事業申請を行うとした場合の課題や不安については、「採択倍率がとても高そう」(47.0%)が最も多く、次いで「申請書などの手続きが煩雑に感じる」(38.2%)、「開催日の学校側の希望の柔軟性があまりなさそう」(36.6%)、「ワークショップと本公演で2回に渡るため、時間の確保が難しい」(30.3%)の順となっている。

このことから、国(文化庁)の事業であるが故のハードルの高さとともに、手続きが煩雑であるというイメージが障害となっていることがわかる。同時に、開催日、時間の確保が障害となっており、通常の授業の中でいかに本事業を組み込んでいけるかについて、学校側の工夫が必要であると考えられる。

図 49 事業申請にあたっての課題、不安 (MA)



なお、自由回答では、スケジュール(3件)、学校や教員の負担(3件)、予算(2件)とともに、児童・生徒への効果、成果への不安(4件)があげられた。その他、「規模の大きい学校では、難しそう」「障害のある子供に対して柔軟に対応してくれそうにない」といった意見もあった。

地方別にみると、全体として「四国」および「九州」において課題、不安に対する回答が平均値より高くなっている。これらの事項は、本事業を認知しているが申請検討に至らなかった背景となっているものと推測されるため、今後は本事業の普及啓発、よりきめ細かな説明が必要であると思われる。

表 59 事業申請にあたっての課題、不安（地方別・MA）

	採択倍率がとても高そう	採択後から実施当日までのイメージが湧きにくい	事業を実施した学校の様子や成果があまり伝わらない	文化芸術団体が提供されるプログラムのイメージが湧きにくい	各ブロックに割り当てられた文化芸術団体の数が少ない	申請書などの手続きが煩雑に感じる	ワークショップと本公演で2回に渡るため、時間の確保が難しい	文化芸術団体と打ち合わせがうまくできない不安	募集開始から申請までのスケジュールが短い	採択決定の連絡時期が遅い	開催日の学校側の希望の柔軟性がなさそう	その他	特にない
全体	47.0%	24.2%	11.2%	12.0%	14.4%	38.2%	30.3%	24.4%	16.9%	14.8%	36.6%	3.0%	6.3%
北海道	50.0%	25.0%	2.8%	8.3%	13.9%	38.9%	25.0%	25.0%	13.9%	16.7%	36.1%	2.8%	2.8%
東北	38.5%	30.8%	9.6%	13.5%	9.6%	28.8%	26.9%	23.1%	7.7%	11.5%	34.6%	5.8%	0.0%
関東	45.7%	21.3%	10.2%	11.8%	11.0%	33.9%	33.9%	25.2%	15.7%	16.5%	39.4%	3.1%	11.0%
北陸	38.9%	11.1%	5.6%	11.1%	16.7%	50.0%	44.4%	16.7%	11.1%	5.6%	22.2%	0.0%	5.6%
東海	53.8%	24.2%	13.2%	9.9%	19.8%	42.9%	27.5%	27.5%	20.9%	23.1%	39.6%	4.4%	3.3%
近畿	45.6%	21.1%	10.0%	8.9%	16.7%	41.1%	26.7%	23.3%	18.9%	10.0%	38.9%	1.1%	7.8%
中国	45.0%	20.0%	15.0%	15.0%	15.0%	20.0%	25.0%	10.0%	15.0%	10.0%	30.0%	0.0%	5.0%
四国	26.7%	33.3%	26.7%	40.0%	26.7%	33.3%	33.3%	33.3%	6.7%	13.3%	40.0%	0.0%	13.3%
九州	58.1%	34.9%	16.3%	14.0%	9.3%	51.2%	37.2%	25.6%	27.9%	11.6%	27.9%	4.7%	4.7%

専門教科別にみると、「音楽」および「図画工作・美術」の教員が、「採択倍率がとても高そう」、「申請書などの手続きが煩雑に感じる」、「開催日の学校側の希望の柔軟性があまりなさそう」など、実施にあたっての実務的課題をより感じていることがわかる。

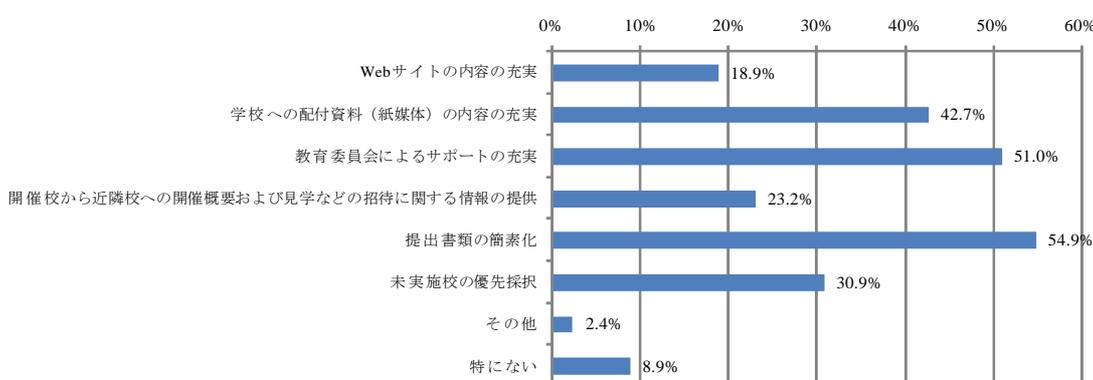
表 60 事業申請にあたっての課題、不安（専門教科別・MA）

	採択倍率がとても高そう	採択後から実施当日までのイメージが湧きにくい	事業を実施した学校の様子や成果があまり伝わらない	文化芸術団体が提供されるプログラムのイメージが湧きにくい	各ブロックに割り当てられた文化芸術団体の数が少ない	申請書などの手続きが煩雑に感じる	ワークショップと本公演で2回に渡るため、時間の確保が難しい	文化芸術団体と打ち合わせがうまくできない不安	募集開始から申請までのスケジュールが短い	採択決定の連絡時期が遅い	開催日の学校側の希望の柔軟性があまりなさそう	その他	特にない
全体	47.0%	24.2%	11.2%	12.0%	14.4%	38.2%	30.3%	24.4%	16.9%	14.8%	36.6%	3.0%	6.3%
国語	45.1%	21.6%	11.8%	11.8%	9.8%	45.1%	21.6%	27.5%	17.6%	3.9%	27.5%	0.0%	7.8%
社会	50.7%	26.1%	11.6%	7.2%	13.0%	36.2%	33.3%	15.9%	5.8%	11.6%	27.5%	2.9%	4.3%
算数・数学	51.2%	27.9%	12.8%	16.3%	22.1%	37.2%	25.6%	22.1%	15.1%	15.1%	37.2%	3.5%	4.7%
理科	52.2%	27.5%	13.0%	13.0%	11.6%	40.6%	29.0%	33.3%	20.3%	11.6%	42.0%	2.9%	4.3%
生活	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
音楽	40.9%	22.7%	9.1%	6.8%	9.1%	40.9%	40.9%	25.0%	25.0%	18.2%	47.7%	2.3%	11.4%
図画工作・美術	63.6%	0.0%	18.2%	9.1%	9.1%	54.5%	45.5%	45.5%	9.1%	18.2%	45.5%	18.2%	0.0%
技術・家庭	35.7%	14.3%	3.6%	7.1%	10.7%	39.3%	32.1%	17.9%	25.0%	21.4%	39.3%	7.1%	3.6%
体育・保健体育	56.7%	20.0%	16.7%	10.0%	13.3%	23.3%	30.0%	10.0%	16.7%	20.0%	43.3%	0.0%	3.3%
外国語	42.3%	36.5%	7.7%	15.4%	23.1%	38.5%	26.9%	23.1%	11.5%	23.1%	25.0%	5.8%	5.8%
その他	36.7%	16.3%	8.2%	16.3%	10.2%	36.7%	32.7%	32.7%	26.5%	16.3%	46.9%	0.0%	14.3%

(8) 事業の改善・強化すべき点

巡回公演事業の改善・強化されると良い点については、「提出書類の簡素化」(54.9%)が最も多く、次いで「教育委員会によるサポートの充実」(51.0%)、「学校への配付資料(紙媒体)の内容の充実」(42.7%)の順となっており、申請書類の簡素化が求められているとともに、人的なサポート、紙媒体での情報提供等、従来の教育現場の手法に則った支援が期待されている。また、「未実施校の優先採択」(30.9%)の回答も多く、新たに申請する学校を拡大するにあたって、重要な誘因になるものと考えられる。

図 50 事業の改善・強化すべき点 (MA)



自由回答では、実施日、内容等の柔軟な対応(4件)、教育現場への宣伝(3件)、採択時期、手続き(2件)の他、「授業時数としてカウントできる法整備」「経費負担軽減」および「特別支援学校は採択されるのか」の意見があげられた。

地方別にみると、「四国」および「九州」で全般的に改善、強化の要望が強い。特に他の地方ではあまりあげられていない「Web サイトの内容充実」が「九州」では高くなっており、遠隔地への対応として Web サイトが必要であると考えられる。

表 61 事業の改善・強化すべき点（地方別・MA）

	Webサイトの内容の充実	学校への配付資料（紙媒体）の内容の充実	教育委員会によるサポートの充実	開催校から近隣校への開催概要および見学などの招待に関する情報の提供	提出書類の簡素化	未実施校の優先採択	その他	特になし
全体	18.9%	42.7%	51.0%	23.2%	54.9%	30.9%	2.4%	8.9%
北海道	16.7%	38.9%	52.8%	19.4%	55.6%	22.2%	2.8%	5.6%
東北	11.5%	36.5%	59.6%	23.1%	59.6%	25.0%	1.9%	1.9%
関東	18.9%	46.5%	50.4%	28.3%	52.8%	29.1%	6.3%	11.8%
北陸	5.6%	27.8%	33.3%	11.1%	72.2%	33.3%	0.0%	11.1%
東海	18.7%	38.5%	52.7%	23.1%	56.0%	35.2%	0.0%	11.0%
近畿	23.3%	48.9%	50.0%	17.8%	48.9%	32.2%	1.1%	8.9%
中国	15.0%	60.0%	35.0%	15.0%	35.0%	25.0%	0.0%	15.0%
四国	20.0%	66.7%	53.3%	46.7%	60.0%	20.0%	0.0%	13.3%
九州	27.9%	27.9%	53.5%	23.3%	65.1%	44.2%	2.3%	2.3%

専門教科別にみると、「音楽」の教員の「教育委員会によるサポート」の回答が多く、実務面での不安から具体的な支援に対する要望であると考えられる。

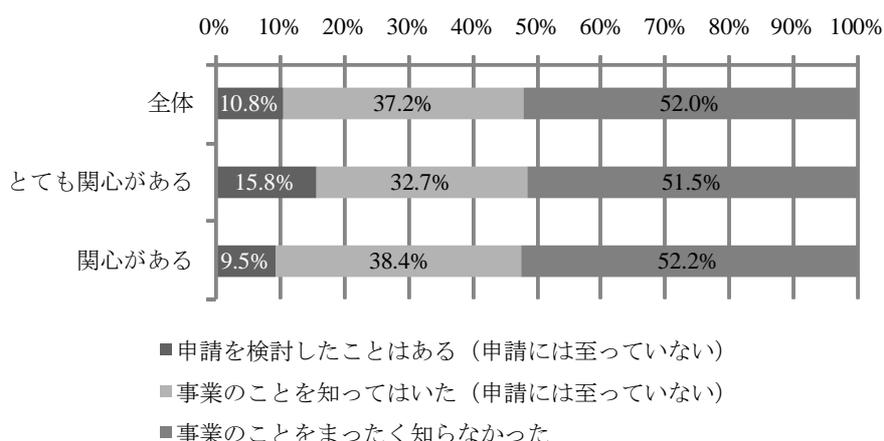
表 62 事業の改善・強化すべき点（専門教科別・MA）

	Webサイトの内容の充実	学校への配付資料（紙媒体）の内容の充実	教育委員会によるサポートの充実	開催校から近隣校への開催概要および見学などの招待に関する情報の提供	提出書類の簡素化	未実施校の優先採択	その他	特になし
全体	18.9%	42.7%	51.0%	23.2%	54.9%	30.9%	2.4%	8.9%
国語	25.5%	39.2%	45.1%	23.5%	54.9%	23.5%	0.0%	9.8%
社会	20.3%	47.8%	47.8%	29.0%	49.3%	27.5%	4.3%	8.7%
算数・数学	19.8%	46.5%	47.7%	18.6%	48.8%	29.1%	1.2%	11.6%
理科	17.4%	43.5%	53.6%	23.2%	66.7%	27.5%	1.4%	5.8%
生活	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%
音楽	22.7%	45.5%	70.5%	15.9%	45.5%	38.6%	2.3%	11.4%
図画工作・美術	9.1%	72.7%	63.6%	18.2%	72.7%	27.3%	9.1%	0.0%
技術・家庭	17.9%	32.1%	50.0%	25.0%	60.7%	35.7%	3.6%	10.7%
体育・保健体育	16.7%	23.3%	53.3%	26.7%	70.0%	40.0%	0.0%	0.0%
外国語	21.2%	42.3%	40.4%	26.9%	51.9%	28.8%	3.8%	11.5%
その他	10.2%	42.9%	55.1%	22.4%	49.0%	38.8%	4.1%	10.2%

(9) 事業に対する関心度と興味、課題認識

本事業に対する関心の程度と申請検討の関係をみると、「とても関心がある」と回答した教員ほど申請を検討した経験があるという結果となっている。今後は、より関心が高く、かつ関連性のある「生活」および「音楽」の教員への普及啓発が重要であると考えられる。

図 51 事業に対する関心と申請検討（クロス集計）



本事業に対する教員の関心と興味については、「ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる」「非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる」および「舞台裏見学や質問コーナーなどの文化芸術団体との交流がある」の差が大きく、関心が高い教員ほど、本事業の本質的な価値である児童・生徒の体験の重要性を理解していることがわかる。

表 63 教員の関心度と興味（クロス集計）

	非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる	文化芸術団体が直接学校まで来てくれる	ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる	児童・生徒が文化芸術団体と共演できる	学校の体育館が舞台装置や演出によって特別な空間になる	舞台裏見学や質問コーナーなどの文化芸術団体との交流がある	日本の伝統文化が体験できる種目が含まれている	近隣校と合同開催ができる	保護者や地域住民も参加できる	学校側の費用負担がほとんどない	その他
全体	55.1%	65.0%	44.1%	28.5%	31.5%	18.7%	36.6%	9.1%	33.9%	52.8%	0.2%
とても関心がある	76.2%	82.2%	65.3%	41.6%	42.6%	37.6%	55.4%	10.9%	47.5%	69.3%	0.0%
関心がある	49.6%	60.6%	38.6%	25.1%	28.6%	13.8%	31.7%	8.7%	30.4%	48.6%	0.3%
差	26.6%	21.6%	26.7%	16.5%	13.9%	23.8%	23.7%	2.2%	17.1%	20.7%	-0.3%

本事業に対する教員の関心と申請してみたい種目については、「歌舞伎」や「ミュージカル」「音楽劇」「バレエ」といった分野で差が大きくなっている。

表 64 事業に対する関心と申請してみたい種目（クロス集計）

	合唱	オーケストラ	音楽劇	演劇	児童劇	ミュージカル	歌舞伎	演芸	能楽	邦楽	邦舞	人形浄瑠璃	バレエ	現代舞踊
全体	34.6%	62.2%	43.3%	60.6%	19.7%	57.7%	35.8%	22.6%	26.6%	21.5%	12.6%	25.0%	24.4%	14.8%
とても関心がある	39.6%	73.3%	58.4%	72.3%	25.7%	76.2%	56.4%	30.7%	38.6%	32.7%	20.8%	37.6%	38.6%	17.8%
関心がある	33.2%	59.3%	39.4%	57.5%	18.2%	52.9%	30.4%	20.5%	23.5%	18.7%	10.5%	21.7%	20.7%	14.1%
差	6.4%	13.9%	19.0%	14.7%	7.6%	23.3%	26.0%	10.2%	15.1%	14.0%	10.3%	15.9%	17.9%	3.8%

その一方で、種目選択で重視する点を見ると、「採択の可能性が高そうなもの」を除くと「子どもたちが喜びそうなもの」および「学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの」の差が大きく、前項の種目とのミスマッチが生じている。

表 65 事業に対する関心と種目選択で重視する点（クロス集計）

	子どもたちが鑑賞する機会があまりないもの	子どもたちが喜びそうなもの	学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの	学校での学習と関連性が見出せそうなもの	文化芸術関係の行事や部活動等と関連性が見出せそうなもの	事前準備などの負担が少なそうなもの	採択の可能性が高そうなもの	その他	特にない
全体	69.9%	55.7%	57.3%	31.9%	16.1%	38.4%	13.0%	0.2%	0.2%
とても関心がある	77.2%	71.3%	66.3%	35.6%	17.8%	42.6%	22.8%	0.0%	0.0%
関心がある	68.0%	51.7%	55.0%	30.9%	15.6%	37.3%	10.5%	0.3%	0.3%
差	9.2%	19.6%	11.3%	4.7%	2.2%	5.2%	12.3%	-0.3%	-0.3%

また、事業の成果への期待をみると、関心が高い教員ほど「音楽や国語などの関係する教科の学習意欲が高まる」の割合が高く、学校行事としてだけでなく、授業の一環として本事業を検討したいと考えられているものと思われる。

表 66 事業に対する関心と事業の成果への期待（クロス集計）

	多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる	文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる	音楽や国語などの関係する教科の学習意欲が高まる	文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まる	日常生活の態度や姿勢に影響を与える	文化芸術関係の進路を考えるきっかけになる	教員も表現方法や指導方法を学ぶよい機会になる	合同開催することで地域内の交流が深まる	保護者や地域住民にも参加してもらうことで学校教育への理解が深まる	その他	特にない
全体	74.0%	71.7%	27.6%	24.2%	22.2%	19.1%	42.7%	12.4%	29.3%	0.4%	1.0%
とても関心がある	85.1%	82.2%	43.6%	27.7%	29.7%	30.7%	58.4%	13.9%	39.6%	1.0%	0.0%
関心がある	71.1%	69.1%	23.5%	23.3%	20.2%	16.1%	38.6%	12.0%	26.6%	0.3%	1.3%
差	14.0%	13.1%	20.0%	4.4%	9.5%	14.6%	19.8%	1.8%	13.0%	0.7%	-1.3%

また、事業申請にあたっての課題、不安をみると、関心が高いほど「採択倍率」に対する危惧が大きい。関心は高いが、学内で調整、申請した結果、不採択となることに不安を持っており、事前相談の充実など、申請の前段階での支援が必要であると考えられる。

表 67 事業に対する関心と事業申請にあたっての課題、不安（クロス集計）

	採択倍率がとても高そう	採択後から実施当日までのイメージが湧きにくい	事業を実施した学校の様子や成果があまり伝わらない	文化芸術団体が提供されるプログラムのイメージが湧きにくい	各ブロックに割り当てられた文化芸術団体の数が少ない	申請書などの手続きが煩雑に感じる	ワークショップと本公演で2回に渡るため、時間の確保が難しい	文化芸術団体との打ち合わせがうまくできるか不安	募集開始から申請までのスケジュールが短い	採択決定の連絡時期が遅い	開催日の学校側の希望の柔軟性があまりなさそう	その他	特にない
全体	47.0%	24.2%	11.2%	12.0%	14.4%	38.2%	30.3%	24.4%	16.9%	14.8%	36.6%	3.0%	6.3%
とても関心がある	64.4%	24.8%	8.9%	6.9%	22.8%	37.6%	31.7%	28.7%	21.8%	18.8%	41.6%	3.0%	5.0%
関心がある	42.5%	24.0%	11.8%	13.3%	12.3%	38.4%	29.9%	23.3%	15.6%	13.8%	35.3%	3.1%	6.6%
差	21.9%	0.7%	-2.9%	-6.4%	10.5%	-0.7%	1.8%	5.4%	6.2%	5.0%	6.3%	-0.1%	-1.7%

改善、強化する点についても、同様の結果が示されており、関心が高いほど「未実施校の優先採択」への期待が高く、前項と同様に、申請の前段階での支援が必要であると考えられる。

表 68 事業に対する関心と改善、強化すべき点(クロス集計)

	Webサイトの内容の充実	学校への配付資料（紙媒体）の内容の充実	教育委員会によるサポートの充実	開催校から近隣校への開催概要および見学などの招待に関する情報の提供	提出書類の簡素化	未実施校の優先採択	その他	特にない
全体	18.9%	42.7%	51.0%	23.2%	54.9%	30.9%	2.4%	8.9%
とても関心がある	25.7%	57.4%	56.4%	22.8%	56.4%	47.5%	4.0%	5.0%
関心がある	17.1%	38.9%	49.6%	23.3%	54.5%	26.6%	2.0%	10.0%
差	8.6%	18.6%	6.8%	-0.5%	2.0%	20.9%	1.9%	-5.0%

V. 団体へのアンケート調査・分析結果

1. 調査方法

巡回公演事業の実施団体に対し、民間アンケート会社によるウェブアンケート調査を実施した。アンケート調査概要は、以下の通りである。

調査対象：巡回公演事業の実施団体

調査形式：ウェブアンケート（株式会社メディアインタラクティブが運営する
アンケート専門サイト「アイリサーチ」を用いたウェブアンケート方式）

実施時期：平成 24 年 3 月 28 日～3 月 31 日

回答状況：有効回答数 75

2. 回答者属性

有効回答数を分野別にみると、音楽分野が 25 団体 (33.3%)、演劇分野が 24 団体 (32.0%)、伝統芸能分野が 19 団体 (25.3%)、舞踊分野が 7 団体 (9.3%) であった。

個別分野別にみると、オーケストラが 18 団体 (24.0%) と最も多く、次いで児童劇が 12 団体 (16.0%)、演劇 が 7 団体 (9.3%)、能楽が 6 団体 (8.0%) の順となっている。

表 69 団体分野 (SA)

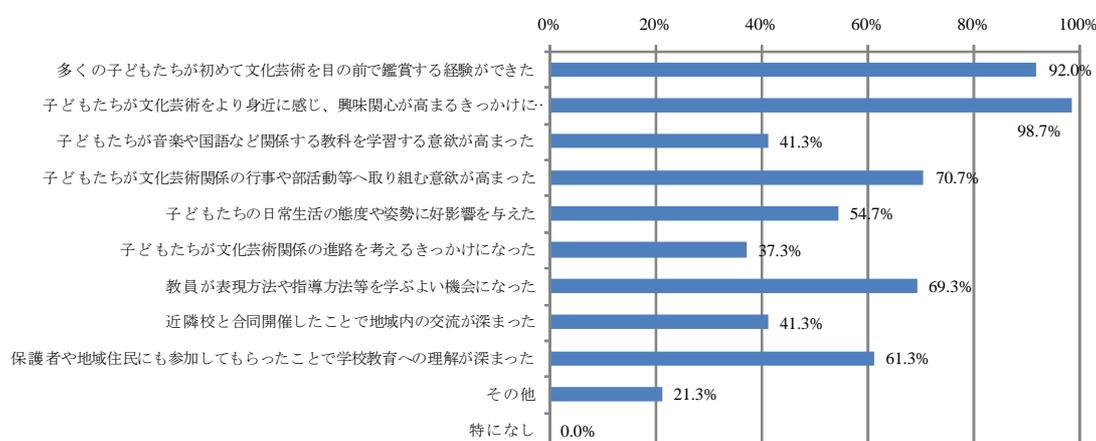
演劇	24	32.0%
演劇	7	9.3%
児童劇	12	16.0%
ミュージカル	5	6.7%
音楽	25	33.3%
オーケストラ	18	24.0%
音楽劇	2	2.7%
合唱	5	6.7%
伝統芸能	19	25.3%
演芸	4	5.3%
歌舞伎	1	1.3%
人形浄瑠璃	2	2.7%
能楽	6	8.0%
邦楽	4	5.3%
邦舞	2	2.7%
舞踊	7	9.3%
バレエ	5	6.7%
現代舞踊	2	2.7%

3. 調査結果

(1) 本事業実施の効果・影響

団体が考える本事業を実施の効果・影響については、「子どもたちが文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになった」(98.7%)が最も多く、次いで「多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができた」(92.0%)、「子どもたちが文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まった」(70.7%)、「教員が表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になった」(69.3%)、「保護者や地域住民にも参加してもらったことで学校教育への理解が深まった」(61.3%)、「子どもたちの日常生活の態度や姿勢に好影響を与えた」(54.7%)の順となっており、過半数を超える回答となっている。

図 52 本事業実施の効果・影響 (MA)



分野別にみると「子どもたちが文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになった」については、児童劇を除く全ての団体で100%の回答であり、同項目が団体側の感じている最大の効果・影響であると考えられていることがわかる。

「多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができた」についても多くの分野で100%の回答となっているが、「演劇」「演芸」が比較的少なくなっており、地方自治体において比較的公演機会の多い分野であるという団体側の認識が影響していると思われる。

その他の特徴としては、「邦舞」で「子どもたちの日常生活の態度や姿勢に好影響を与えた」と考えられており、これは邦舞の造作が子どもたちの礼儀作法に通じているということを意識しているものと考えられる。また、「音楽劇」および「歌舞伎」で「子どもたちが文化芸術関係の進路を考えるきっかけになった」、「邦舞」および「現代舞踊」で「教員が表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になった」という回答が高い割合となっている。前者の評価については今後の事例の検証が必要である。後者については、授業に組み込まれていない舞踊分野の普及啓発の意義を団体側が意識していることが考えられる。

表 70 本事業実施の効果・影響（分野別・MA）

	多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができた	子どもたちが文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになった	子どもたちが音楽や国語など関係する教科を学習する意欲が高まった	子どもたちが文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まった	子どもたちの日常生活の態度や姿勢に好影響を与えた	子どもたちが文化芸術関係の進路を考えるきっかけになった	教員が表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になった	近隣校と合同開催したことで地域内の交流が深まった	保護者や地域住民にも参加してもらったことで学校教育への理解が深まった	その他
全体	92.0%	98.7%	41.3%	70.7%	54.7%	37.3%	69.3%	41.3%	61.3%	21.3%
合唱	80.0%	100.0%	60.0%	60.0%	40.0%	40.0%	80.0%	60.0%	20.0%	20.0%
オーケストラ	100.0%	100.0%	44.4%	83.3%	38.9%	38.9%	61.1%	22.2%	55.6%	16.7%
音楽劇	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	-
演劇	71.4%	100.0%	28.6%	85.7%	71.4%	28.6%	85.7%	57.1%	71.4%	14.3%
児童劇	91.7%	91.7%	25.0%	66.7%	66.7%	33.3%	91.7%	83.3%	75.0%	50.0%
ミュージカル	80.0%	100.0%	40.0%	60.0%	40.0%	60.0%	60.0%	20.0%	60.0%	20.0%
歌舞伎	100.0%	100.0%	-	-	-	100.0%	-	-	-	-
演芸	75.0%	100.0%	50.0%	50.0%	75.0%	-	50.0%	-	50.0%	-
能楽	100.0%	100.0%	50.0%	66.7%	83.3%	33.3%	50.0%	66.7%	66.7%	-
邦楽	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	-	50.0%	-	75.0%	-
邦舞	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%
人形浄瑠璃	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	-	-	50.0%	100.0%	100.0%	-
バレエ	100.0%	100.0%	20.0%	80.0%	60.0%	60.0%	80.0%	20.0%	60.0%	20.0%
現代舞踊	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	-	50.0%	50.0%

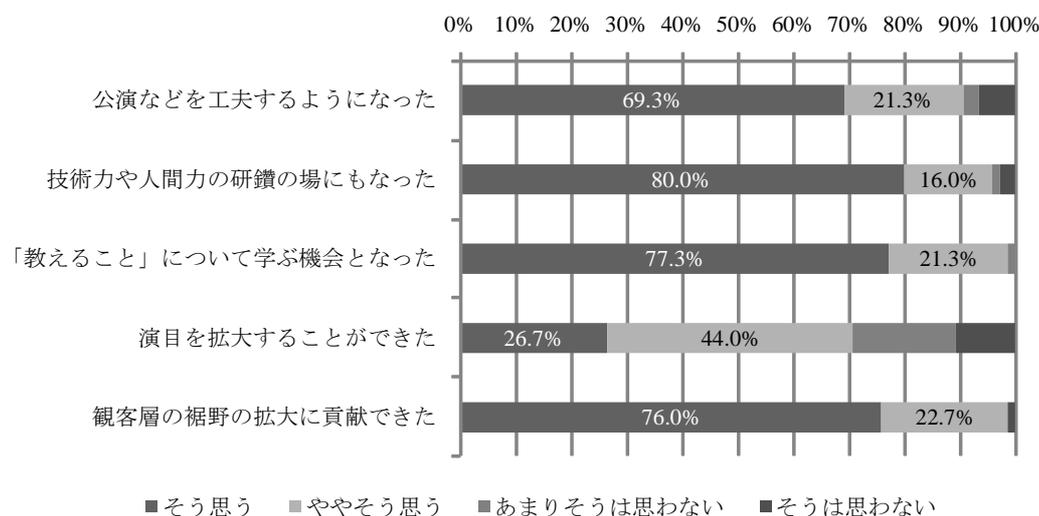
(2) 本事業を通じた団体側での成果

本事業を通じた団体側での成果（「そう思う」の回答）については、「子どもたちの反応が素直で純粋であるので、技術力や人間力の研鑽の場にもなった」（80.0%）が最も多く、次いで「演（奏）者にとって、演技・演奏だけではなく、ワークショップなどの開催を通じて、『教えること』について学ぶ機会となった」（77.3%）、「自らの団体が関わる文化芸術分野にとって、観客層の裾野の拡大に貢献できた」（76.0%）、「本事業への参加を通じて、子どもたちだけに限らず、観客に飽きずに楽しんで鑑賞してもらえるように、公演などを工夫するようになった」（69.3%）の順となっている。

「そう思う」「やや思う」の計では、「演（奏）者にとって、演技・演奏だけではなく、ワークショップなどの開催を通じて、『教えること』について学ぶ機会となった」（98.7%）、「自らの団体が関わる文化芸術分野にとって、観客層の裾野の拡大に貢献できた」（98.7%）が最も多くなった。

一方、「本事業への参加を通じて、演目を拡大することができた」について、「そう思う」で26.7%、「やや思う」との計でも70.7%に留まっており、本事業が必ずしも演目拡大にはつながっていないことが示されている。これは、本事業において「新しい製作物・演目を作成するための経費（児童・生徒と共演するために改変する場合を除く）」を計上することができないことから、団体にとっては新しい演目の積極的な導入には至っていないことがわかる。

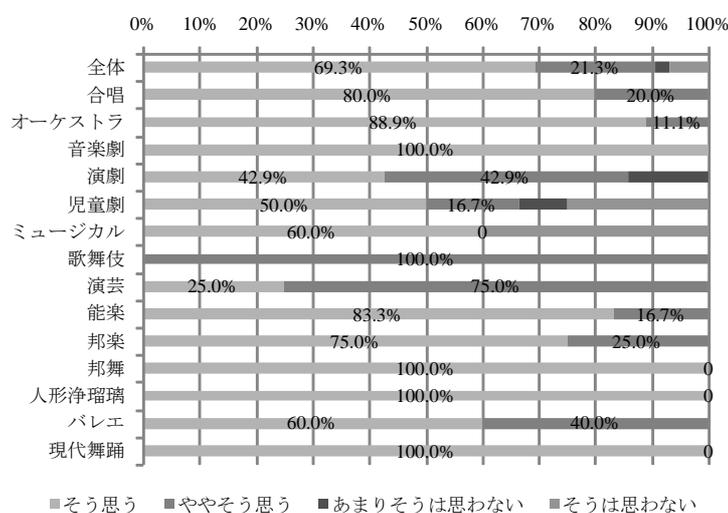
図 53 本事業を通じた団体側での成果（SA）



分野別にみると、「本事業への参加を通じて、子どもたちだけに限らず、観客に飽きず楽しんで鑑賞してもらえるように、公演などを工夫するようになった」の設問では、おおむねどの分野も肯定的な回答であり、特に「音楽劇」「邦舞」「人形浄瑠璃」「現代舞踊」といった、学校教育の現場では比較的なじみが薄い分野では、いずれも100%の団体から「そう思う」との回答を得た。

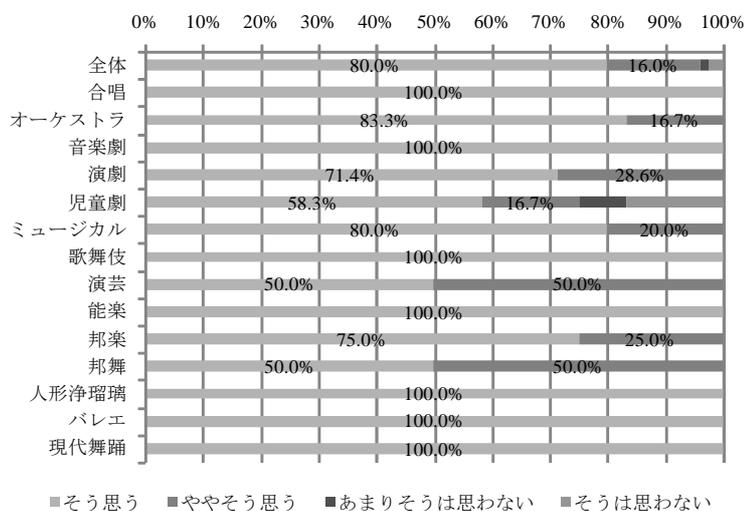
一方で、「ミュージカル」および「児童劇」といった、日常的に子ども向けの演目を行っている分野では否定的な意見もある。

図 54 本事業を通じた団体側での成果【公演などを工夫するようになった】(SA)



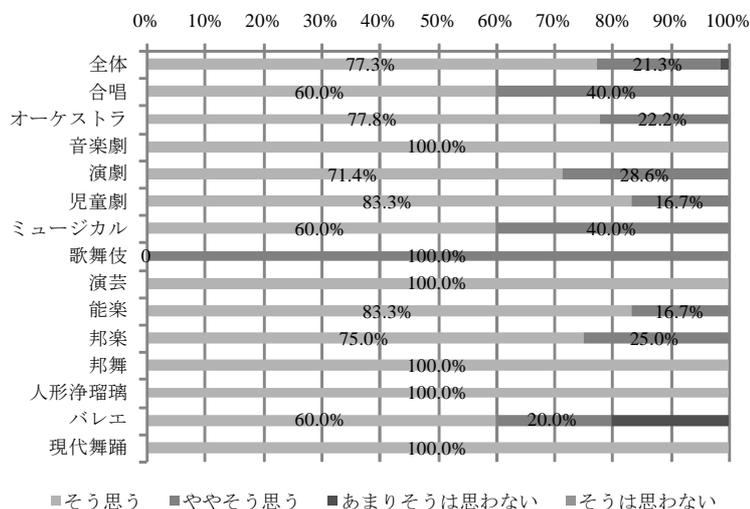
「子どもたちの反応が素直で純粹であるので、技術力や人間力の研鑽の場にもなった」の質問でも、おおむねどの分野も肯定的な回答であるが、「児童劇」では否定的な意見もあった。

図 55 本事業を通じた団体側での成果【技術力や人間力の研鑽の場にもなった】(SA)



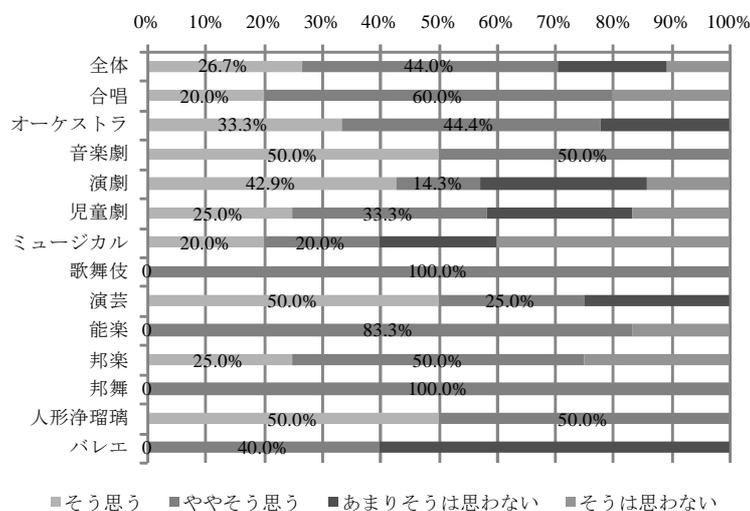
「演（奏）者にとって、演技・演奏だけではなく、ワークショップなどの開催を通じて、『教えること』について学ぶ機会となった」の質問では、おおむねどの分野も肯定的な回答であるが、日常的に教授業を行っている「バレエ」では否定的な意見もあった。

図 56 本事業を通じた団体側での成果【「教えること」について学ぶ機会となった】(SA)



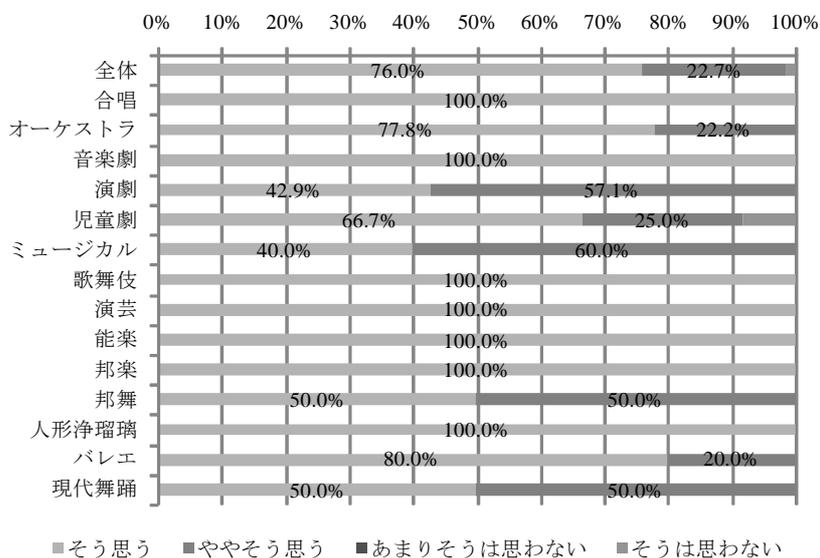
「本事業への参加を通じて、演目を拡大することができた」の設問では、おおむねどの分野も肯定的な回答である一方で、「合唱」「オーケストラ」「演劇」「児童劇」「ミュージカル」「演芸」「能楽」「邦楽」および「バレエ」といった分野では否定的な意見もあった。

図 57 本事業を通じた団体側での成果【演目を拡大することができた】(SA)



「自らの団体に関わる文化芸術分野にとって、観客層の裾野の拡大に貢献できた」の質問では、おおむねどの分野も肯定的な回答であり、団体の裾野の拡大の契機となっていることがわかった。

図 58 本事業を通じた団体側での成果【観客層の裾野の拡大に貢献できた】(SA)

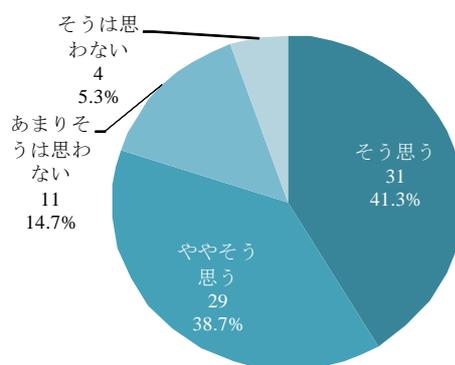


(3) 事業内容に関する意見

本事業の事業内容について、公演団体からの意見を調査した。

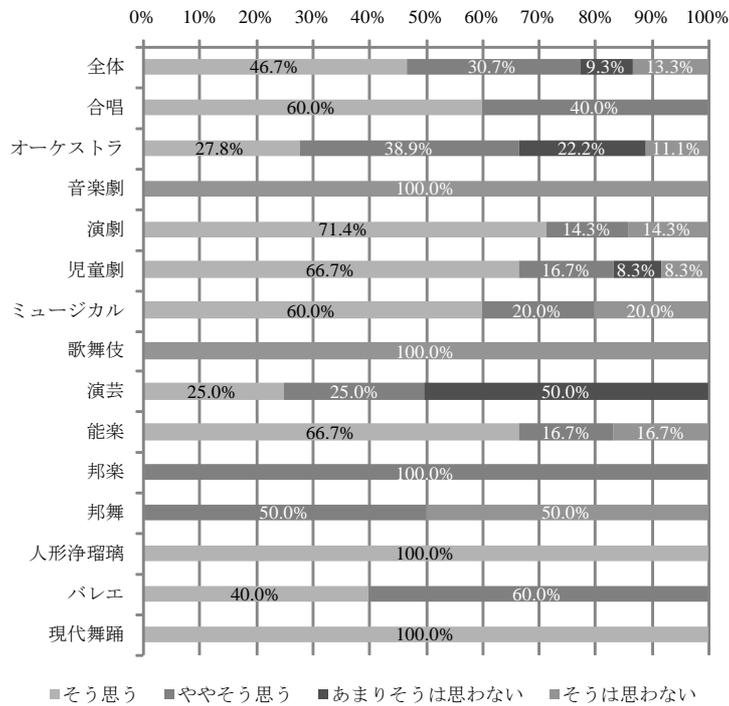
まず、「必要に応じて（学校側からワークショップの追加の要望があった場合など）、一定の条件のもとでワークショップを追加できる仕組みが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」（41.3%）および「ややそう思う」（38.7%）で 80.0%が望ましいと感じている。

図 59 ワークショップを追加できる仕組み（SA）



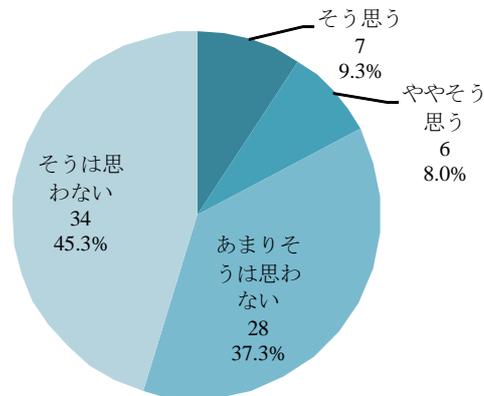
分野別にみると、「歌舞伎」で100%が「そう思わない」の回答となっており、「能楽」および「邦楽」で否定的な意見があるなど、伝統芸能分野では追加、変更が難しいと考えられている。

図 60 ワークショップを追加できる仕組み（分野別・SA）



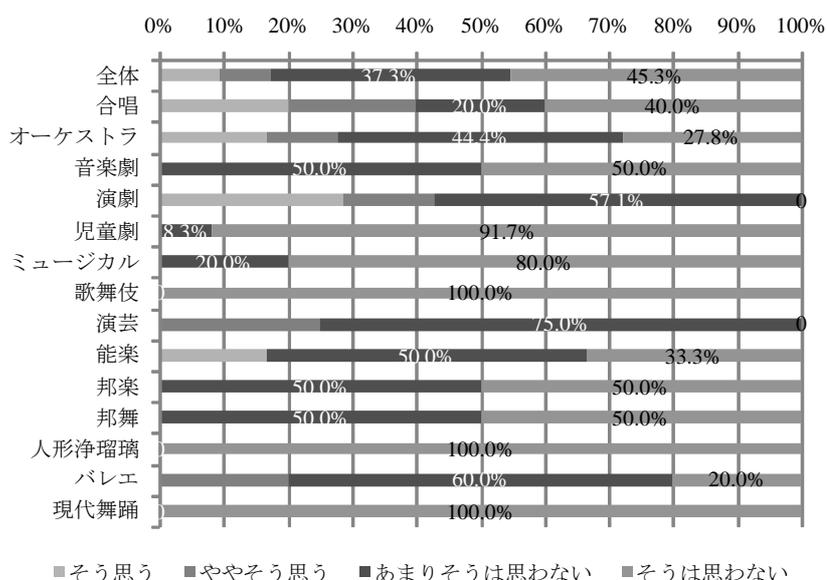
次に「ワークショップの実施時間については、より効果的に実施するために、現行の「80～100分」よりも短くした方が望ましい」という質問に対しては、「そう思う」（9.3%）および「ややそう思う」（8.0%）で、望ましいという回答が17.3%に留まっており、現行時間の維持（もしくは延長）の必要性が感じられる結果となった。

図 61 ワークショップの実施時間の短縮（SA）



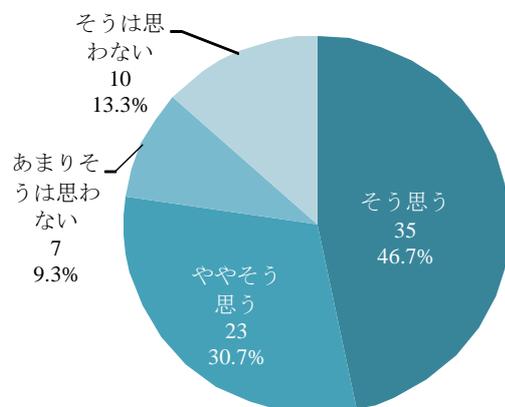
分野別にみると、「合唱」「オーケストラ」「演劇」「演芸」および「能楽」で肯定的な意見があるものの、その他の分野では否定的であり、ワークショップの時間短縮は難しいという意見が占めている。

図 62 ワークショップの実施時間の短縮（分野別・SA）



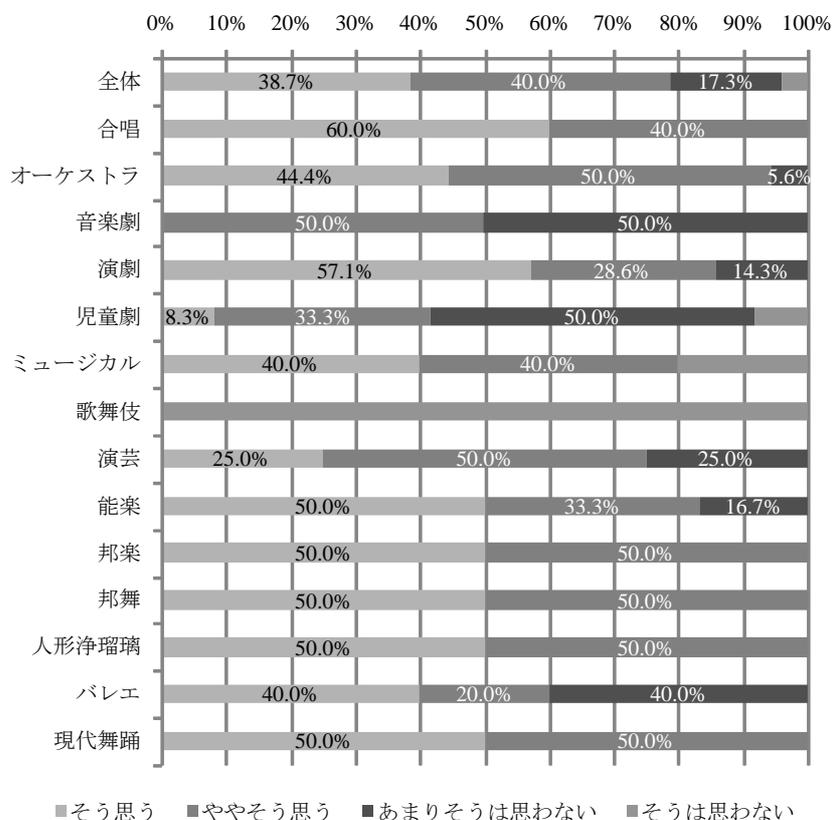
「大規模校での開催の場合などにおいて、同一の学校で 2 回連続（同日または翌日）、ワークショップや本公演を行うことができるようにすることが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」（46.7%）および「ややそう思う」（30.7%）で 77.3%が望ましいと感じている。大規模校においては在籍する児童・生徒の数が多いため、1 回だけの事業（ワークショップまたは本公演）開催では参加者が限られてしまうことから、連続での開催を求める意見が多くなっている。

図 63 同一の学校で2回連続実施 (SA)



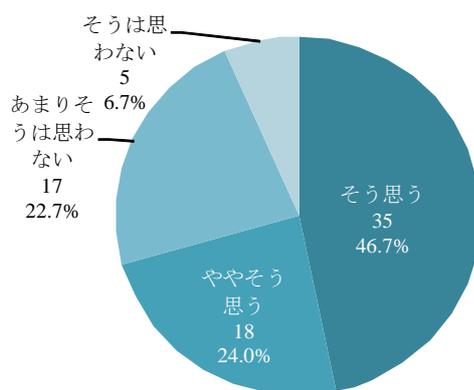
分野別にみると、「音楽劇」および「歌舞伎」で100%が「そう思わない」の回答となっており、キャストあるいは舞台設営の面で、大規模公演であるが故に続けての公演が困難であるという回答となっている。また、「演芸」および「邦楽」でも否定的な意見がある。

図 64 同一の学校で2回連続実施 (分野別・SA)



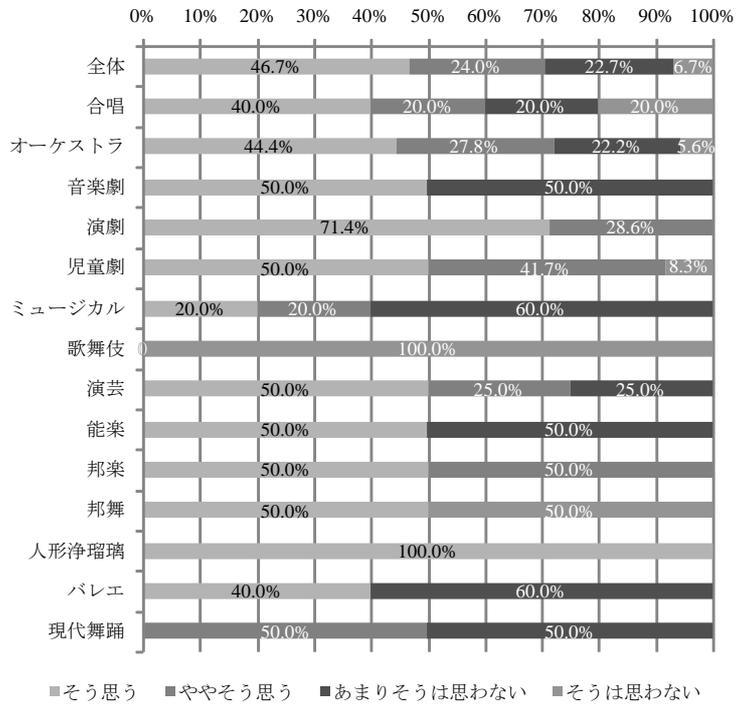
「本公演の実施時期については、現行の「9月以降」ではなく、夏休み前にも実施できるようにすることが望ましい」という開催時期についての質問に対しては、「そう思う」(46.7%) および「ややそう思う」(24.0%) で 70.7%が望ましいと感じている。予算執行のタイミングなどの課題はあるが、教員アンケートにあるように年度当初から年次計画が確定することもあり、年度をまたいだ、あるいは2年連続開催など、新たな仕組みの検討が期待されている。

図 65 本公演の実施時期 (SA)



分野別にみると、年間スケジュールが数年前から決まっている「歌舞伎」は100%難しいという回答であり、「合唱」「音楽劇」「ミュージカル」「能楽」「邦舞」「バレエ」および「現代舞踊」では意見が分かれている。

図 66 本公演の実施時期 (分野別・SA)

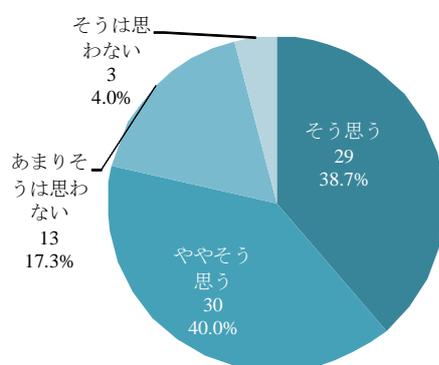


(4) 実施方法に関する意見

続いて、本事業の実施方法について、公演団体からの意見を調査した。

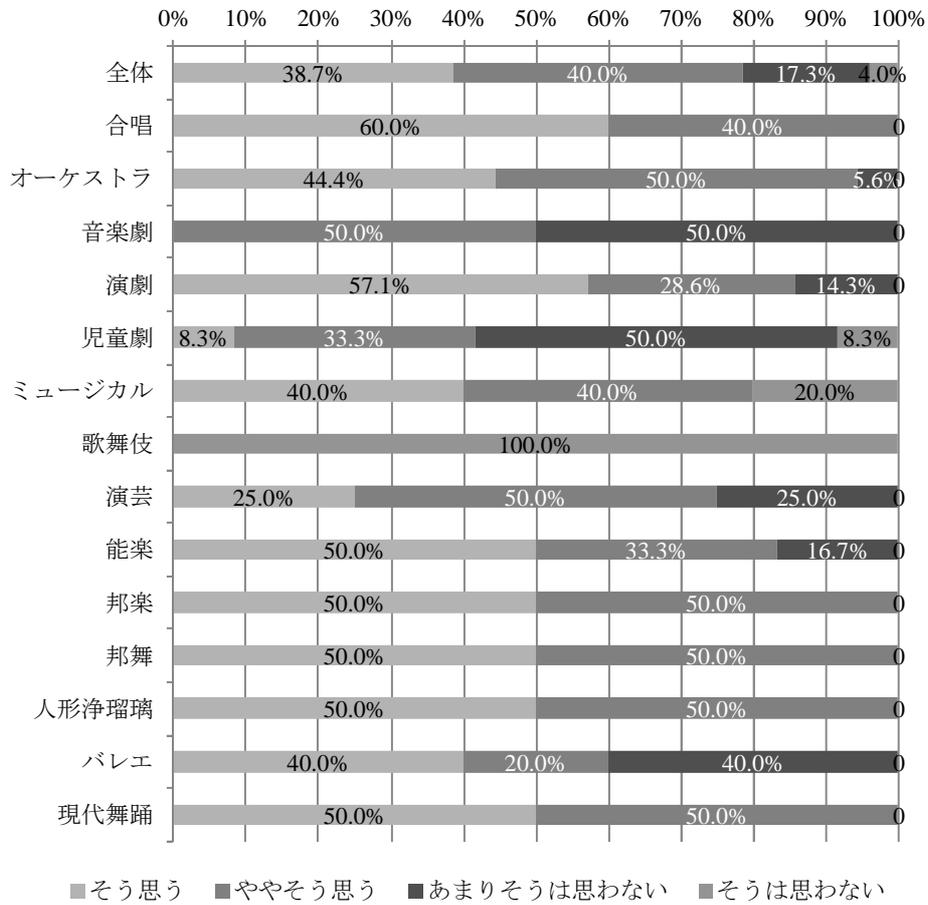
まず、「予算の範囲内であれば、地域特性や学校からの要望に基づいて、プログラム内容の一部変更などを、より柔軟に運用できるようにすることが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」(38.7%) および「ややそう思う」(40.0%) で 78.7%が望ましいと感じており、地域特性や学校からの要望等を受け入れ、対応する意識が団体側で高いことが示されている。

図 67 プログラムの柔軟な運用 (SA)



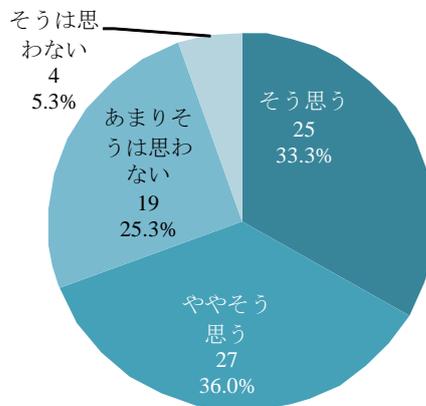
分野別にみると、年間スケジュールが数年前から決まっている「歌舞伎」は100%難しいという回答であり、「音楽劇」「児童劇」および「バレエ」では意見が分かれている。

図 68 プログラムの柔軟な運用（分野別・SA）



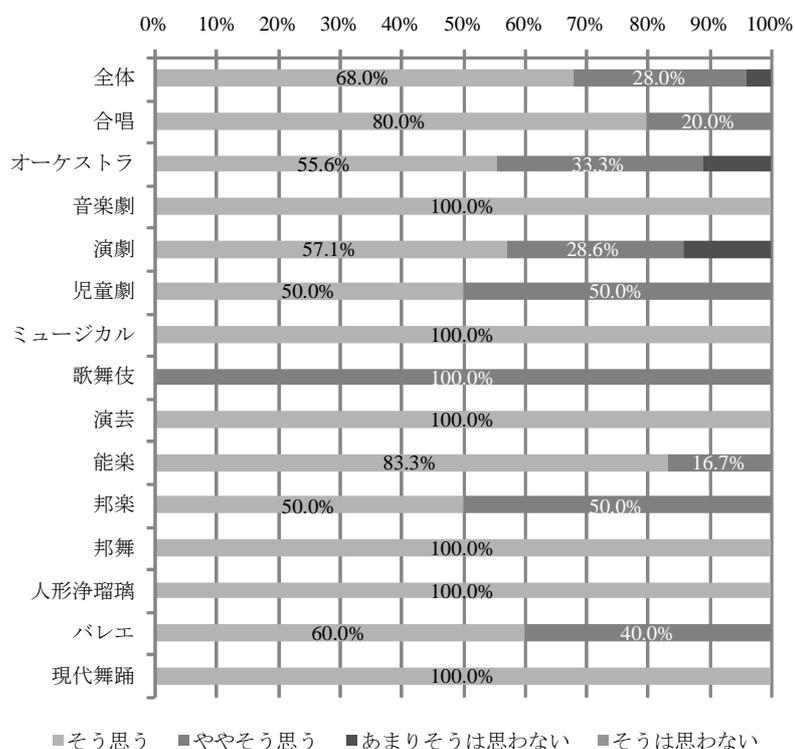
次に、「本事業の広報・宣伝をもっと行うことが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」（68.0%）および「ややそう思う」（28.0%）で96.0%のほとんど全ての団体が望ましいと感じており、より積極的な広報・宣伝が期待されていることがわかる。

図 69 本事業の広報・宣伝（SA）



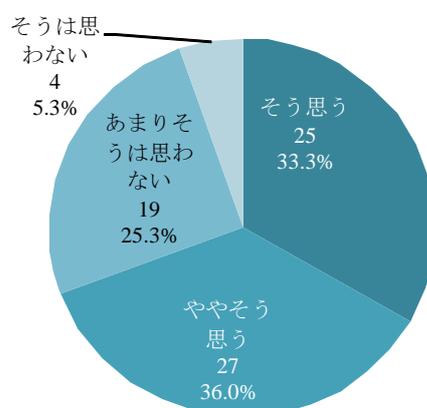
分野別にみると、「オーケストラ」および「演劇」で若干の否定的な意見がある他は、全ての分野で「必要である」という回答となっている。

図 70 本事業の広報・宣伝（分野別・SA）



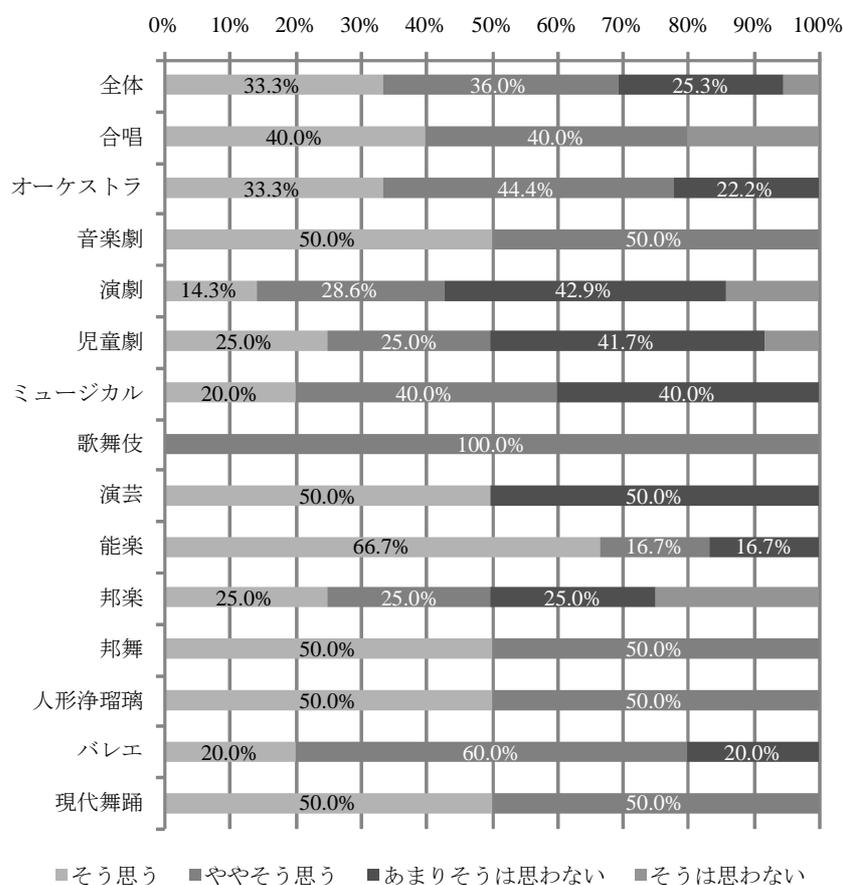
「本事業自体や採択団体のプログラム内容について、映像で紹介することが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」（33.3%）および「ややそう思う」（36.0%）で69.3%が望ましいと感じており、実演とは別に紹介、事前学習や事業PR用のメディアとして映像で紹介するツール開発が期待されている。

図 71 映像での紹介 (SA)



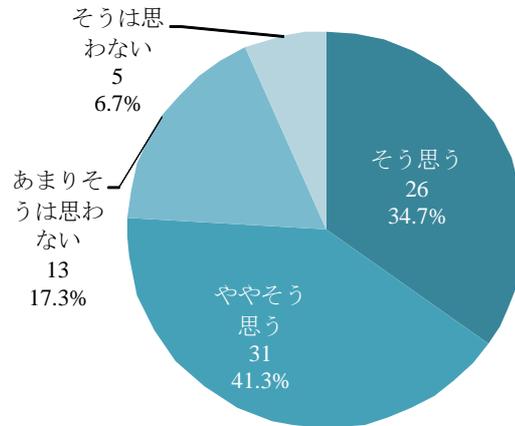
分野別にみると、公演事業における著作権や肖像権等の問題があると推測される「演劇」「児童劇」「ミュージカル」「演芸」および「邦楽」では、否定的な回答も多く、意見が分かれている。

図 72 映像での紹介（分野別・SA）



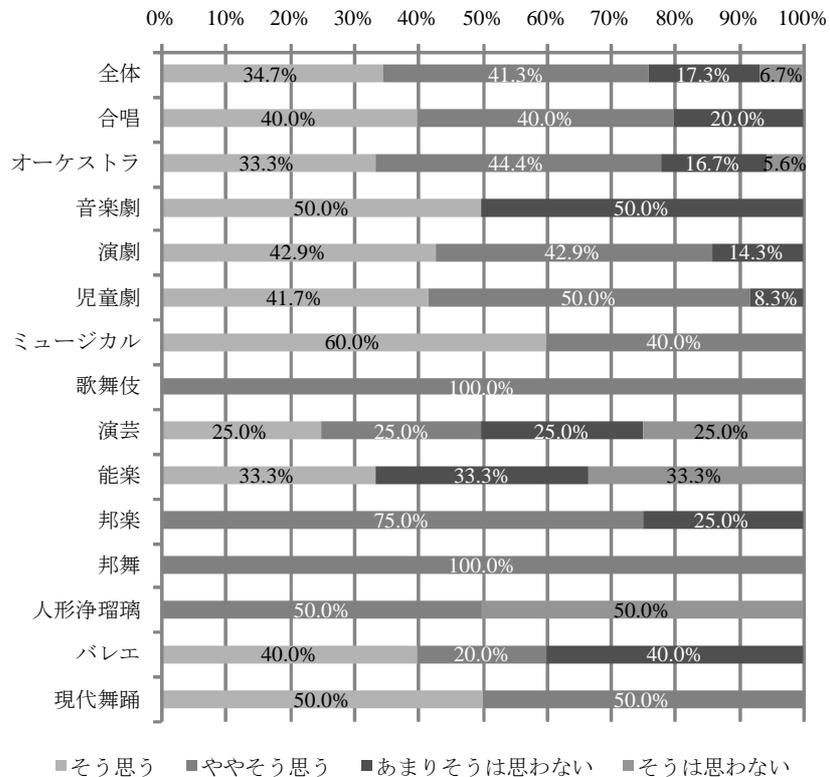
「採択された団体に対して、経理の手続きなどに関するガイダンスを開催することが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」(34.7%) および「ややそう思う」(41.3%) で 76.0%が望ましいと感じており、学校だけでなく、採択団体側にとっても事務手続きについての支援の必要性が挙げられている。

図 73 経理の手続きなどに関するガイダンスの開催 (SA)



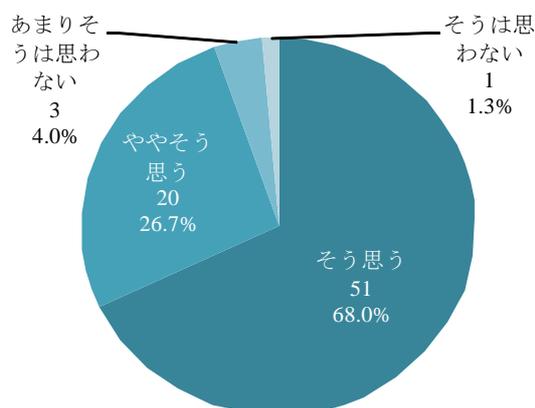
分野別にみると、「音楽劇」「演芸」「能楽」および「人形浄瑠璃」では必要ないとする意見も多い。これは、当該分野の団体組織において経理事務が確立されていることが要因であると考えられる。

図 74 経理の手続きなどに関するガイダンスの開催 (分野別・SA)



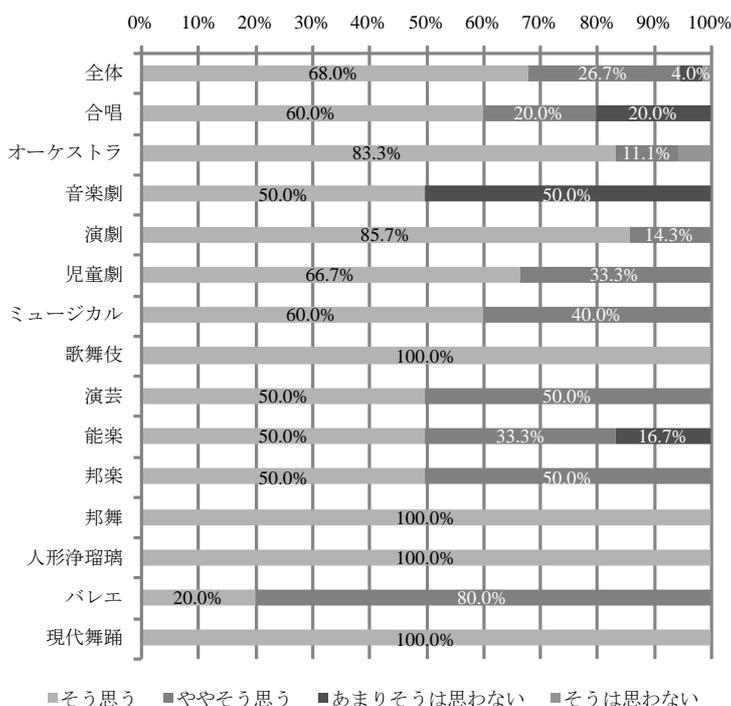
「本事業に申請した団体が不採択となった場合、当該団体に対して、その理由を説明することが望ましい」という質問に対しては、「そう思う」(68.0%) および「ややそう思う」(26.7%) であり、ほとんど(94.7%)の団体が望ましいと感じている。

図 75 不採択理由の説明 (SA)



分野別にみると、「音楽劇」で意見が分かれている以外は、おおむね採択理由については説明してほしいという要望がある。

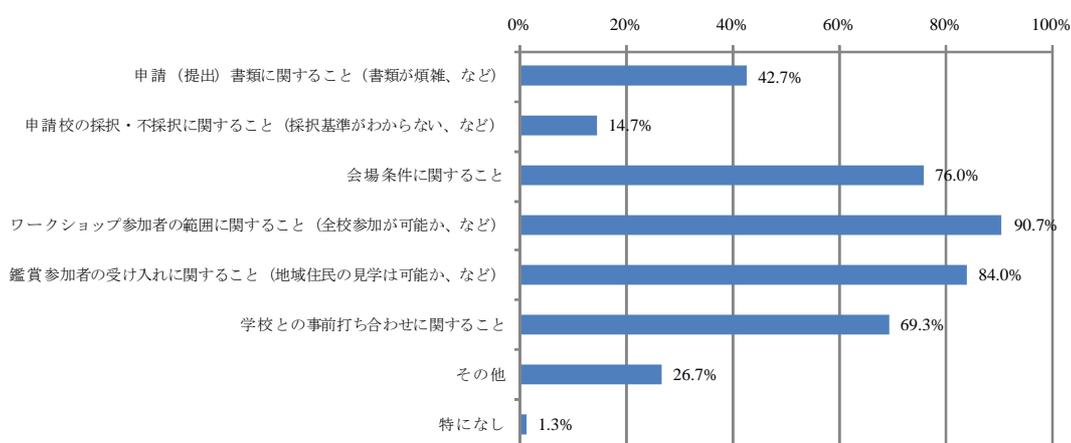
図 76 不採択理由の説明 (分野別・SA)



(5) 実施校から問い合わせ、意見

実施校から問い合わせ、意見については全校参加が可能かなど「ワークショップ参加者の範囲に関すること」(90.7%)が最も多く、次いで、地域住民の見学など「鑑賞参加者の受け入れに関すること」(84.0%)、「会場条件に関すること」(76.0%)、「学校との事前打ち合わせに関すること」(69.3%)の順となっており、本事業の実施にあたっての規模、範囲、施設・設備条件等の公演スペックに関する不安が多くなっていることがわかる。

図 77 実施校から問い合わせ、意見 (MA)



分野別にみると、「音楽劇」「歌舞伎」および「人形浄瑠璃」の舞台設備が大規模であり、また、特殊な分野でもあるため、会場条件、受け入れに関する問い合わせなどを多く受けている。「現代舞踊」については、分野として馴染みが無いが故の問い合わせ、意見であると考えられる。その一方、「合唱」および「オーケストラ」は問い合わせ、意見が少なく、学校としては比較的イメージしやすい分野であることがわかる。

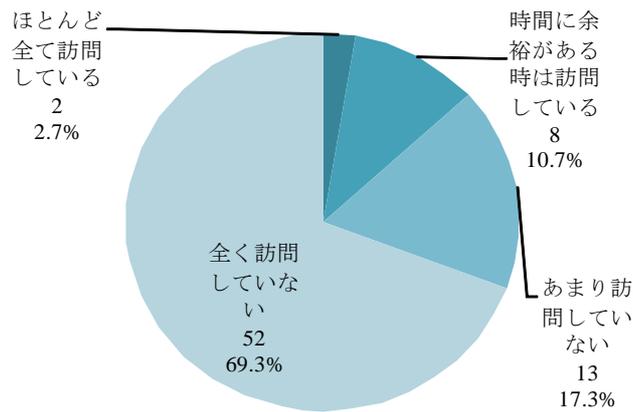
表 71 実施校から問い合わせ、意見（分野別・MA）

	申請（提出）書類に関する こと	申請校の採択・不採択に関する こと	会場条件に関する こと	ワークショップ参加者の 範囲に関する こと	鑑賞参加者の受け入れに関する こと	学校との事前打ち合わせに関する こと	その他	特になし
全体	42.7%	14.7%	76.0%	90.7%	84.0%	69.3%	26.7%	1.3%
合唱	60.0%	-	60.0%	80.0%	80.0%	40.0%	40.0%	-
オーケストラ	44.4%	11.1%	66.7%	66.7%	77.8%	72.2%	16.7%	5.6%
音楽劇	100.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
演劇	57.1%	14.3%	100.0%	100.0%	100.0%	85.7%	14.3%	-
児童劇	33.3%	16.7%	83.3%	100.0%	91.7%	58.3%	33.3%	-
ミュージカル	20.0%	-	60.0%	100.0%	80.0%	60.0%	20.0%	-
歌舞伎	-	-	100.0%	100.0%	100.0%	-	100.0%	-
演芸	50.0%	25.0%	75.0%	100.0%	50.0%	50.0%	25.0%	-
能楽	33.3%	33.3%	50.0%	100.0%	66.7%	50.0%	66.7%	-
邦楽	50.0%	25.0%	75.0%	100.0%	100.0%	75.0%	-	-
邦舞	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	-
人形浄瑠璃	50.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-
バレエ	40.0%	20.0%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	40.0%	-
現代舞踊	-	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-

(6) 教育委員会への訪問

本事業の実施方法にあたり、「当該自治体の教育委員会を訪問しているか」については、「ほとんど全て訪問している」が2団体のみであり、「時間に余裕がある時は訪問している」をあわせても10団体しかなく、約7割の団体が全く訪問をしていない。滞在日数等、予算の問題はあるものの、事業の普及啓発あるいは継続性の観点から当該自治体の教育委員会の理解促進は重要である。今後は、訪問だけでなく、ワークショップや本公演に招待するなど、教育委員会とのコミュニケーションの拡充が必要であると考えらる。

図 78 教育委員会への訪問（SA）



教育委員会への訪問と実施校から問い合わせ、意見のクロス集計については、訪問している団体であっても、実施校から「申請校の採択・不採択に関すること」以外は高い割合で問い合わせ、意見があることから、教育委員会と実施校との連携が不足していることが懸念される。

表 72 教育委員会への訪問×実施校から問い合わせ、意見（クロス集計）

	申請（提出）書類に関すること	申請校の採択・不採択に関すること	会場条件に関すること	ワークショップ参加者の範囲に関すること	鑑賞参加者の受け入れに関すること	学校との事前打ち合わせに関すること	その他
全体	42.7%	14.7%	76.0%	90.7%	84.0%	69.3%	26.7%
ほとんど全て訪問している	100.0%	-	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-
時間に余裕がある時は訪問している	37.5%	12.5%	100.0%	100.0%	100.0%	75.0%	25.0%
あまり訪問していない	46.2%	-	84.6%	92.3%	84.6%	76.9%	23.1%
全く訪問していない	40.4%	19.2%	71.2%	88.5%	80.8%	65.4%	28.8%

VI. 文化芸術に関する類似事例調査・分析結果

1. 調査概要・方針

(1) 調査対象

都道府県、政令指定都市、民間団体等が実施している、子どもたちを対象とした文化芸術鑑賞、体験に関する類似事例を調査した。なお、抽出条件は以下の通りとした。

■抽出条件

- ・ 対象学年：小学校・中学校が中心。
- ・ 対象分野：「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」が扱う以下の種目が中心。
「音楽」（合唱、オーケストラ、音楽劇）
「演劇」（演劇、児童劇、ミュージカル）
「伝統芸能」（歌舞伎、演芸、能楽、邦楽、邦舞、人形浄瑠璃）
「舞踊」（バレエ、現代舞踊）
- ・ その他：単年度事業でなく継続して行われているもの。

(2) 調査方法

以下の情報を元に整理を行った。

■情報源

- ・ 文化庁による都道府県および政令指定都市を対象としたアンケート調査結果（『各都道府県・政令指定都市における「学校での文化芸術体験・鑑賞事業」状況調べ』）。
- ・ Web 検索（キーワード検索：「子ども 文化芸術 地名（都道府県・政令指定都市）」 / 都道府県 Web:文化関連ページ）

2. 調査結果

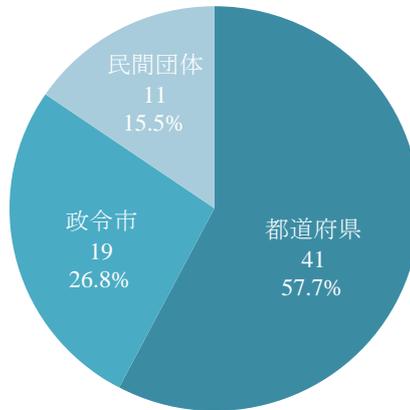
調査の結果、全国で合計 71 件の類似事例を確認することができた。以下、各調査項目について、調査結果概要を記す。

(1) 主催者について

都道府県および各都道府県が所管する文化財団等が主催する事業に関しては、29 の自治体で 41 件開催されている。政令指定都市および各政令指定都市が所管する文化財団等が主催する事業は、13 の政令指定都市で 19 件開催されている。民間の財団、社団法人、NPO 等、民間団体が主催する事業は 11 件であった。

民間団体が主催する事業のうち、全国を対象とした事業が 6 件、九州の離島を対象とした事業が 1 件、東京都内を対象とした事業は 1 団体による 4 件であった。

図 79 主催者の種別（件数、n=71）



なお、都道府県または政令指定都市において類似事例が行われていなかった自治体は以下の 15 県である。神奈川県、大阪府、広島県においては、府県では類似事例が確認できなかったが、政令指定都市で実施されていた。

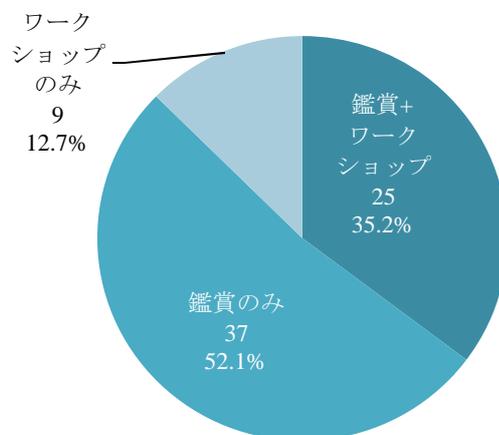
表 73 類似事例が行われていなかった自治体

岩手県、秋田県、福島県、富山県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、和歌山県、島根県、香川県、高知県、佐賀県、大分県

(2) 内容について

ワークショップを含む事業は 34 件であり、うち 9 件は芸術鑑賞プログラムを含まず、ワークショップのみの事業であった。また、芸術鑑賞のみの事業は 37 件であった。

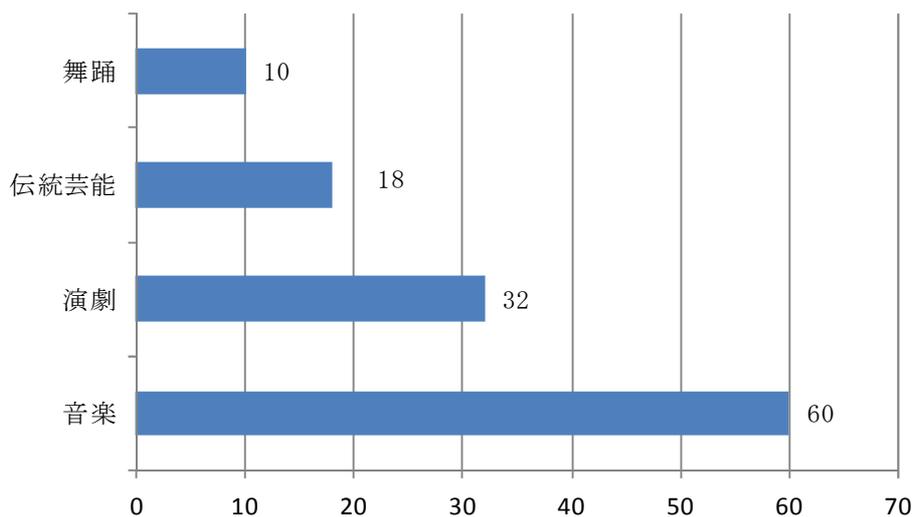
図 80 ワークショップの有無（件数、n=71）



(3) 種目について

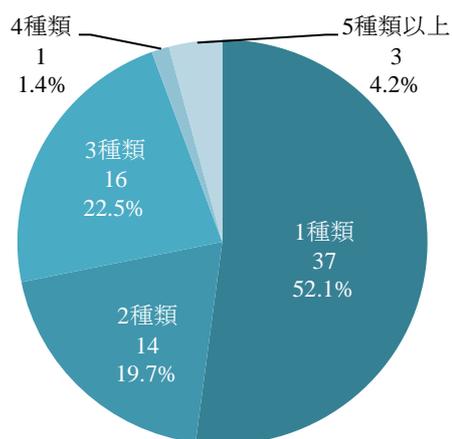
種目別に事業をみると、音楽 60 件、演劇 32 件、伝統芸能 18 件、舞踊 10 件であった。

図 81 実施種目（件数、n=120）



また、各事業において実施されているプログラムの種目の種類に関しては、1 種類が 37 件、2 種類が 14 件、3 種類が 16 件、4 種類が 1 件、5 種類以上が 3 件（5 種類、6 種類、13 種類）であった。なお、音楽、演劇、伝統芸能、舞踊以外の種目（美術、生活文化、文芸等）も 1 種類として数えている。

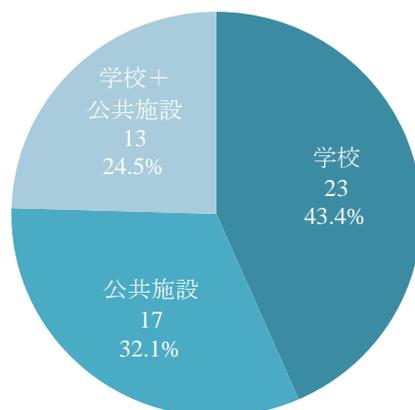
図 82 プログラムの種目数（件数、n=71）



(4) 実施場所について

実施場所を確認できた 53 件のうち、23 件が学校を主な会場とし、17 件が公共施設を主な会場としていた。また、13 件が学校と公共施設の両方を主に使用していた。

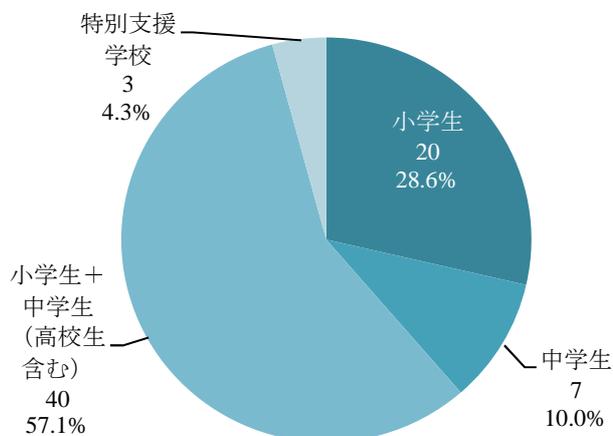
図 83 プログラムの実施場所（件数、n=53）



(5) 対象学年について

対象学年を確認できた 70 件のうち、主に小学生を対象とした事業は 20 件、主に中学生を対象とした事業は 7 件であり、これらのうち、対象学年を 1 つの学年に指定している事業は 11 件であった。小学生、中学生の双方を対象とした事業は 40 件であった（未就学児、高校生を対象に含むものもある）。また、特別支援学校児童生徒のみを対象とした事業が 3 件であった。

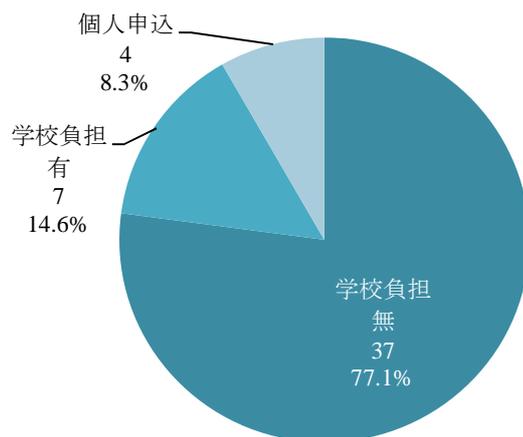
図 84 プログラムの対象学年（件数、n=70）



(6) 学校側の負担について

学校側の負担の有無が確認できた 48 件のうち、学校側の負担が無い事業は 37 件、学校側の負担が有る事業は 7 件であった。また、学校は関与せず、公共施設等で開催されるプログラムに個人が申し込みをするタイプの事業は 4 件であった。

図 85 学校負担の有無（件数、n=48）



3. 事業内容に関する分析

▶ 芸術鑑賞事業は全国エリアで実施、ワークショップに関しては大都市圏に集中

子どもたちを対象とした芸術鑑賞事業は、32 の都道府県で実施されている事が確認できた（府県では類似事業を確認できなかったが、政令指定都市で実施している神奈川県、大阪府、広島県を含む）。全国を対象とした事業（こころの劇場、青少年劇場等）を含めると、エリアとしては全ての都道府県において、芸術鑑賞の機会が提供されていると言える。しかし、東北地方や中部地方、四国地方等、自治体主催の事業があまり実施されていない地域も存在する。

一方で、全国の過疎地域を対象とした、社団法人日本児童演劇協会が主催する児童演劇地方巡回公演事業や、北海道、奈良県、沖縄県の自治体が主催する過疎地域を対象とした事業は、他の事業ではカバーしきれない地域を補完する役割を担っていると考えられる。他の自治体においても、教育委員会等による過疎地域の学校への積極的な呼びかけや、地域格差を考慮した事業を行う必要があると思われる。

ワークショップを含む事業に関しては、34 件のうち 16 件が首都圏、京阪神等の大都市圏に集中している。多くの地方の子どもたちは、ワークショップを通して直接アーティストと触れ合ったり、アーティストと共に芸術を体験、創造する機会は非常に少ないと言える。

▶ 音楽鑑賞が最も多いが、演劇や伝統芸能等、多様な種目が実施されている

調査を行った類似事業のうち、最も多かった種目は音楽で、60 件であった。特に、地元のオーケストラによるプログラムを含むものは 20 件あった。しかし、そのうち 14 件は鑑賞だけで終わってしまい、アーティストとの交流やワークショップのプログラムは含まれていない。地域で活躍するプロのアーティストと交流することは地元への誇りや愛着を生み、子どもたちが将来への展望を考えるきっかけにも繋がると考えられるため、時間や場所といった制約もあると思われるが、特に地元でオーケストラを擁する自治体においては、積極的にアーティストと子どもが直接交流できるプログラムを実施すべきであろう。

また、実施プログラムの種目が 1 種類のもものは 37 件であり、このうちオーケストラを招いた鑑賞・ワークショップは 22 件あった。ここからも、オーケストラが子ども達の芸術鑑賞の機会創出に対して大きな役割を担っていることが分かる。

音楽に次いで多かった種目は演劇であり、続いて伝統芸能、舞踊という結果であった。音楽以外の種目に関しては、劇団四季等の大きな団体の場合を除き、参加団体が複数の種目の団体で構成されている事業が多かった。このことは、子ども達に対して多様な文化芸術体験を提供することに貢献しており、また多くのアーティストにとって活躍の場を広げることに繋がっていると考えられる。

ワークショップを含む事業を種目別にみると、音楽 30 件、演劇 13 件、伝統芸能 11 件、舞踊 9 件であった。音楽、演劇、伝統芸能に比べ、舞踊はワークショップが含まれる事業の割合が高い。舞踊、特に現代舞踊は、演技や楽器の演奏と異なり、技能習得の為の学習を特に必要とせず、自分の体を使って自由に表現できるため、子ども向けのワークショップになじみやすいものと考えられる。

- ▶ **文化財団や NPO 等、専門性のある団体主催のものはワークショップを行う場合が多い**
自治体が所管する文化財団や NPO が主催する（自治体との共催も含む）23 件の事業のうち、ワークショップを含むものは 17 件であった。ワークショップの実施には企画力や経験が求められると考えられ、専門性の高い団体のノウハウがワークショップに活かされているものと思われる。

- ▶ **経費は自治体が負担し、学校側の負担経費は無し、というケースが多い**
多くの場合、自治体が経費全額を負担している。学校側の負担がある場合、家庭徴収を行い経費に充てる事例もある。例えば青森県の芸術鑑賞教室は児童・生徒一人当たり小学生 85 円、中学生 166 円、高校生 1,354 円、群馬県の移動音楽教室は小学生 400 円、中学生 450 円と、通常の劇場で舞台鑑賞を行う料金よりもかなり低い価格設定となっている。

- ▶ **本事業の意義は、レベルの高いアーティストと、地域を問わず全国の子ども達が直接触れ合い、芸術を通じて自己表現できること**
各自治体や財団等が開催する類似事例は鑑賞プログラムのみの場合が約半数であり、受動的な姿勢での鑑賞に留まってしまう可能性が高い。しかし本事業は、全てのプログラムにワークショップが含まれており、子どもたちの自己表現を喚起して能動的な参加を促す効果が期待できる。そのため、より子ども達にとって印象的な経験となるものと考えられる。

自治体主催の事業に関しては、全国的に活躍するアーティストとのコネクションや、そのようなアーティストに関する情報を得る手段がほとんど無い為か、近隣県の交響楽団を呼んで鑑賞会を行ったり、地域のアマチュアアーティストと共に、子ども達に芸術体験の機会を提供する事例がいくつか見られる。本事業はこうした情報を得ることが困難な地域の学校においても、全国的に活躍する様々なジャンルのアーティストを呼ぶことができ、より上質な芸術経験を子ども達に提供することができる。

また、自治体や学校が独自に体験事業を企画するとなると企画力、経費等の面において負担が大きく、経験も少ないため困難であると考えられるが、文化庁の事業は全国の学校が活用できる制度であるため、利用しやすいと思われる。

VII. まとめ：「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の検証結果

1. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の評価

(1) 子どもたちが文化芸術を初めて体験

児童・生徒に対する今回のアンケート調査においては、(学校以外で)文化芸術を間近で体験した経験については、約3分の2(64.3%)の児童・生徒が本事業によって行われた分野の公演を初めて鑑賞したという結果であった。

さらにそのうち6割弱の児童・生徒は、その他の分野も含めて、全く初めて文化芸術公演を体験したと回答しており、多くの児童・生徒にとって本事業が初めての文化芸術体験となっている。

初めて文化芸術を体験した児童・生徒の割合は、文化芸術公演に関する「不利地域」で高いだけでなく、「地方都市圏」や「大都市圏」でも高くなっており、鑑賞機会が比較的多い「首都圏」以外の地域において、本事業が文化芸術公演の鑑賞機会の提供において極めて重要な役割を果たしていることが確認できた。

また、今後の鑑賞意向がある児童・生徒(「とてもそう思う」と「そう思う」の合計)の割合は7割近くに達しており、本事業を契機として、児童・生徒が自主的な鑑賞意向を示している結果となった。

なお、平成22年度における本事業の公演には、小学生が38万人強、中学生が9万人強など、合計47万人強が参加・体験をしている。

仮に本事業で行われた分野の公演を初めて鑑賞した割合(64.3%)を全国平均とみなして計算してみると、平成22年度において全国で30万人強の児童・生徒が本事業で行われた分野の公演を初めて体験したこととなる。

- * 「県庁所在地まで片道3時間以上もかかる地域であることから、町内の小中学校にとって本事業が本物の文化芸術に触れることができる唯一のチャンス」(教委No.9)
- * 「都会の生徒の場合、文化に関心ある親であれば、子どもを生舞台に連れていくことができるがここでは文化に接触する機会が少ないので、とても貴重な体験である」(教委No.14)
- * 「近くにホールもなく、子どもたちに文化芸術鑑賞をさせる機会も少ないため、非常に有り難いとの声を聞いている」(教委No.15)
- * 「離島で“生の”文化芸術に触れる機会はほとんどない。本事業は、子どもたちの豊かな心を育てる非常によい機会だと考えている」(教委No.24)
- * 「本事業によって初めて舞台芸術にふれた、という児童・生徒も多く、子どもたちの一生の記憶に残っていくのではないか。特に本市のような「田舎」の土地では、子どもの

頃に舞台芸術を鑑賞する機会がほとんどないため、大人になっても舞台芸術を見に行こうとはしない。「文化では腹はふくれぬ」などと言う人もいるくらいである。こうした状況なので、「田舎」の土地ほど、本事業の効果は高いのではないか」（教委No.25）

- * 「本校は、交通の便が悪い僻地に立地しており、本物の芸術に触れる機会がなかなかないので、本公演は子どもたちにとって衝撃的な体験であったようである」（学校No.5・合唱）
- * 「以前、別のオーケストラにも来ていただいたが、当時初体験ではない児童は1,2人しかいないような状況であった。本物を聞くことが児童の感性を磨く上で大切だと考えている」（学校No.8・オーケストラ）
- * 「本事業以外で文化芸術に触れる機会がほとんどない地域であるため、多感な時期に、本事業を通じて生徒たちが本物に触れる機会を持てることは非常に貴重」（学校No.15・音楽劇）
- * 「中山間地域の子どもたちが本物の文化芸術に触れられる機会はほとんどない。年に一度、教委が主催する鑑賞事業はあるが、本事業のように芸術文化を直接的に体験できるような機会はなく、非常に貴重である」（学校No.16・邦楽）
- * 「この地域で暮らしていると、文化的なものに触れる機会がほとんどない」（学校No.19・音楽劇）
- * 「子どもたちが芸術に初めて触れる機会を増やすことができる」（学校No.20・児童劇）
- * 「全国的にみれば文化芸術は各自で行けばいい、家庭にまかせておけばいい、と考えられていると思うが、ここは地域的に、そのような経験をできないまま大人になっていく。生の芸術に触れないまま大人になってしまうので、体験の必要性を感じている」（学校No.22・人形浄瑠璃）
- * 「子どもたちの中には、本事業で本物の文化芸術を体験することが「最初で最後」という子どももいる」（学校No.27・人形浄瑠璃）
- * 「本校のような田舎では身近な場所で文化芸術に触れられる機会はほとんどない。本格的な文化芸術鑑賞は初めてという子どもたちも多いはずである」（学校No.31・児童劇）
- * 「子どもたちは、演劇を「初めて見た！」という感じだった」（学校No.33・児童劇）
- * 「子どもたちにとっては本物の文化芸術を体験するまさに初めての機会になっている」（学校No.35・演芸）
- * 「ほとんどの子どもたちが本事業によって、生の「音楽劇」を初めて見たと思う」（学校No.36・音楽劇）

(2) 他の事業では代替困難

今回の類似事例調査において確認できたとおり、「ワークショップおよび公演の鑑賞の双方を実施する」「多様な分野の団体を選択することができる」「全国的な水準のアーティストが派遣される」という本事業と同様の特徴を全て備えた事例は確認できなかった。

また、学校および教育委員会を対象としたヒアリング調査においては、以下のようなコメントが挙げられていた。

こうしたことから、もしも本事業が無かった場合、特に地方の小規模校が自主的に同様の機会を設定することは極めて困難であり、かつ本事業を代替・補完する事業が存在しないと考えられるため、本事業が児童・生徒の上質な文化芸術体験に対して、極めて大きな役割を果たしていることが確認できた。

- * 「小規模校は予算がなく、生徒から参加費を徴収して実施する芸術鑑賞会がなかなか実現できない、または実現できてもあまりレベルの高い団体を呼ぶことはできないため、特に小規模校にとって本事業は貴重な機会となっている」(教委No.29)
- * 「地方の小規模な学校は、採算が合わないため大きな劇団や財団の主催する全国巡回公演のエリアには入っていない。本事業のそのような地域を補完するという意義は、特に大きいと思っている」(団体No.9・児童劇)
- * 「超一流の文化芸術団体が本校のような田舎に無料で公演に来てくれるとは、考えてもみなかった」(学校No.3・オーケストラ)
- * 「学校が主催する芸術鑑賞会では、とてもじゃないがこのレベルの公演を実現できない。予算的にどうしても質を下げざるを得なくなるが、大人が見て淋しいなど感じるものは絶対に子どもにも伝わってしまうもので、躊躇される」(学校No.7・オーケストラ)
- * 「公演団体のジャンルが豊富なことも素晴らしい」(学校No.20・児童劇)
- * 「以前は芸術鑑賞会を実施していたが、子どもたちからお金を集めることが厳しくなり、ここ何年かは大々的な文化芸術的な行事を一切開催できていなかった」(学校No.21・合唱)
- * 「文化芸術に触れることで、表現活動を学ぶことは非常に大事なことで、子どもたちには本物の文化芸術に触れる機会を与えたいと考えてはいたが、学校独自の予算で行うことは難しく、保護者負担の理解を得ることも難しかったため、本事業は非常に有り難い」(学校No.25・ミュージカル)
- * 「こうした事業を学校単位で独自にできればよいが、学校には予算が無い。本事業は、情操教育としてぜひ必要であると考えているので、無くしてほしくない」(学校No.36・音楽劇)
- * 「昨今の不景気な状況もあり、保護者負担を求めることも難しくなっていた。生徒の情操教育、表現力を育てる機会が乏しくなっていた中で、本事業は当該地域のようなところでは大変有り難いと感じている」(学校No.39・演劇)
- * 「小規模校の場合、自主的に芸術鑑賞会を開催しようとする、各家庭にお願いする費用負担が膨らんでしまうことから、呼べる団体の質を落とさざるを得ない。子どもたちに、継続的に一流の文化芸術に触れさせるためにも、本事業は不可欠」(学校No.41・ミュージカル)

(3) 家族とのコミュニケーションの促進

今回のアンケート調査において、「帰宅後に家族と公演のことについて話をした」と回答した児童・生徒が全体の約3分の2(66.1%)に達している。

また、学校および教育委員会を対象としたヒアリング調査においても、以下のようなコメントがあげられている。さらに、有識者へのヒアリングにおいても、「二世代あるいは三世代をつなぐ話題となりえるのは、芸術の大きな力」というコメントがあげられており、本事業の実施により、本事業が家庭におけるコミュニケーションや保護者と児童・生徒との文化体験の促進に寄与していることが確認できた。

- * 「家庭の中で学校の話が出るということは、“学校の信頼”に繋がるので、このような質の高い事業は学校にとって、非常に有り難い」(教委No.16)
- * 「実際に鑑賞した保護者は子どもたちや教員と同様に感動し、帰宅してからも当面は家族の中で話題の中心となったとのことであった」(教委No.21)
- * 「本事業の経験は家庭内でも非常に話題となったと保護者から聞いている」(学校No.3・オーケストラ)
- * 「家庭での親子の会話の話題提供にもつながったという声を多数聞いている」(学校No.8・オーケストラ)
- * 「公演当日は、祖父母と一緒に参加される家庭もあった。家庭内で世代を超えた話題を共有する機会が提供できたことは大変有意義」(学校No.12・能楽)
- * 「本事業の後で、家庭で芝居の話をした、という家庭もあった」(学校No.14・演劇)
- * 「本事業の実施後、「子どもが見に行きたいと言うので、家族で舞台を鑑賞しに行った」というケースがあった。本公演を体験しなかったら、おそらく舞台芸術に興味を示さなかったものと思われる」(学校No.20・児童劇)
- * 「本校の公式ホームページで、本事業の実施後に公演の写真などをアップしたところ、アクセス数が急増した。このことは、本事業を体験した子どもたちが家で保護者との事業の話をして、保護者たちがホームページにアクセスしたためではないか、と推測している」(学校No.27・人形浄瑠璃)
- * 「本事業の後に、両親にお願いして演劇に連れて行ってもらった児童もいるようである」(学校No.34・児童劇)
- * 「保護者自身も、学校で起こっていること、自分の子どもが学校でどのような経験をしているのかに対する関心が非常に高いため、子どもが学校を楽しんでいることを保護者が確認できたことや、家庭内での話題の種づくりという意味でも本事業は効果的だった。公演直後は、当日の写真が欲しいという保護者からの要望を多く受けた」(学校No.43・ミュージカル)

(4) 教員に対する効果

本事業には児童・生徒だけではなく、多くの教職員も参加しており、平成22年度にはワークショップに17,797人、本公演に39,335人の教職員が参加している。

一方、教員を対象としたアンケート調査において、本事業の成果への期待について尋ねているが、半数弱(42.7%)の教員が「教員も表現方法や指導方法を学ぶよい機会になる」という項目を児童・生徒に対する効果に次いであげている。

また、学校および教育委員会を対象としたヒアリング調査において、以下のようなコメントがあげられていた。

これらの調査結果から、本事業が児童・生徒に対しての効果だけではなく、教員に対しても大きな効果を有していることが確認できた。

- * 「プロの人を引き込む話しぶりは、教員が生徒に指導を行う際の良い参考になると思う」(教委No.10)
- * 「こどもたちがアーティストと接している時の顔つきを見て、先生たちが「この子はこんな嬉しそうな表情をするのか」と再発見する機会ともなったようである」(教委No.19)
- * 「本事業を一度実施した学校は、続いて「また実施したい」と申請する傾向にある。このことは、教師たちに対しても、大きなインパクトがあったためと推測される」(教委No.25)
- * 「ワークショップでプロの指導を間近に見ることできるため、指導の勉強になったという報告はよく聞いている」(教委No.26)
- * 「教師からは、子どもたちをやる気にさせ、関心をもたせるプロの指導を見て、勉強になった・刺激になったという意見がよく聞かれる」(教委No.32)
- * 「本事業における文化芸術団体の本質的な役割は、生徒同士および生徒と教師が共有する時間をアシストすることなのではないかと考えている」(団体No.2・合唱)
- * 「普段の学校生活では、勉強や運動といった限られた枠の中だけで児童を評価しがちだが、このような文化芸術活動を通じて、いつもと違う児童の頑張りや魅力に気がつく機会となり、教員の児童を見る際の意識が変わったように感じている」(学校No.1・邦舞)
- * 「団員の方は、表情豊かであり、声掛けや褒めることで子どもたちにやる気を出させ、心を開かせるのがうまく、学ぶところがあると感じた。そして、子どもたちをうまく指導し、自然にステージに上げていたので、教師にもおおいに参考になった」(学校No.4・バレエ)
- * 「団員の指導によって子どもたちが力を抜いて笑顔で楽しみながら演奏している様子を目の当たりにして、上から押しえつけるような指導ではいけないことを痛感した。あんなにふんわりとした穏やかな笑顔は、なかなか普段接している教師には引き出せない」(学校No.7・オーケストラ)
- * 「教師は子どもの前で演じなければいけない職業である。本事業を通じて、教師たちは、

- 表情の作り方、オーバーな表現の仕方、声の出し方などを学んだ」(学校No.14・演劇)
- * 「講師の方の話術やちょっとした行動によって、子どもたちが注意をひきつけられている様子を客観的に見ることが出来たので、指導の際に参考になると思う」(学校No.17・演芸)
 - * 「本事業において、6年生担任の教師自身が、音楽劇の中で役を割り振られて参加したことにより、教師としての人間性を深めるとともに、普段の子どもたちとは異なる関係をつくることができたようだ」(学校No.19・音楽劇)
 - * 「劇団員の方は、上からおしつけるのではなく、「子どもが楽しんで物事に取り組む」力を引き出すのが上手い。先生方も、団員の指導のコツは勉強になったようだ。子どもへのアドバイスの方法、ほめ方など、指導方法の上手い所を授業などで取り入れている」(学校No.20・児童劇)
 - * 「先生方も「(おごなりの)言葉による説明だけではなく、準備をしっかりとすれば、聞いている生徒の理解も高まる」ということの感触を得たのではないか」(学校No.22・人形浄瑠璃)
 - * 「子どもたちを引きつけることが非常に上手で、子どもと接するときの表情、口調、仕草など、とても参考になった」(学校No.31・児童劇)
 - * 「本事業を通じて、教師たちは子どもたちの意外性を発見したようである。「あの子が人前であんなことができたのか!」という発見など、子どもたちの普段の学校生活の中では見られない部分が見られた」(学校No.33・児童劇)
 - * 「団体の様々な工夫している様子を教員も鑑賞することで、「授業でこんな工夫もできる」といったアイデアが膨らみ、発想が豊かになる」(学校No.34・児童劇)
 - * 「生徒たちが伸び伸びと自分を表現する姿は、教師にとっても新鮮で、この生徒がこんな表情をするのか、こんな一面もあったのか、と大きな衝撃を受けた。生徒のもつ潜在能力の引き出し方について、大いに考えさせられるきっかけとなった」(学校No.46・現代舞踊)
 - * 「ワークショップおよび本公演では、生徒と同じように最初は恥ずかしがっていた教師も、最後には開放的になって生徒と一緒に楽しんで踊っていた。教師が生徒と一体となって楽しむ、自己表現するような機会は滅多にないため、そうした姿を生徒たちにも見せることができて良かったのではないか」(学校No.46・現代舞踊)

(5) 地域コミュニティと学校との関係

本事業には、児童・生徒が参加するだけでなく、保護者や地域住民等が多数招待されており、平成22年度においては本公演に49,726人、ワークショップに1,977人が参加している。

学校および教育委員会を対象としたヒアリング調査においては、以下のようなコメントがあげられていた。

こうしたことから、学校教育の実態を地域社会に対して伝えていき、地域コミュニティと学校がより良い関係を構築していくためのチャンネルの一つとして、本事業が大きな役割を果たしていることが確認できた。

- * 「子どもと保護者が一緒に鑑賞することによって、家庭において文化に対する関心を高めることにもつながっている」(教委No.11)
- * 「保護者が本公演などに一緒に参加することによって、普段見ることができない子どもたちの学校での様子を見てもらうことができる」(教委No.12)
- * 「参加した保護者や地域の方も感動し、本物の舞台の重要性を認識してもらえた、学校の取り組みを知ってもらい良い機会となった、といった報告を受けている」(教委No.20)
- * 「学校が教育活動を進めて行くにあたり、地域の人に見えるかたちで学校が活動していると、地域の人たちは「学校ががんばっている」という見方をしてくれ、地域と学校との信頼関係が深まる。こうした点で、本事業は大いに役立っている」(教委No.22)
- * 「地域の方々は、体育祭以外ではなかなか来校してもらえないため、本事業を通じて生徒の活動を見てもらうことは、学校についての理解を得る貴重な機会である」(学校No.6・バレエ)
- * 「本事業で地域住民にも参加してもらえたことで、確実に地域住民とのつながりが増えた。これまではクレームが来ることもあったが、なかなかポジティブなコミュニケーションはなかったが、本公演後は、学校の様子や生徒の日常について気にかけて、積極的に声をかけてくれるようになった」(学校No.9・合唱)
- * 「公演の機会を活用して、保護者・地域住民に学校行事に参加してもらい体験を共有することで、学校に対する信頼度は確実に高まったと考えている」(学校No.13・能楽)
- * 「本事業の様子はホームページでも積極的に公開したが、アクセス数も高く、非常に関心が高かったと感じている」(学校No.23・オーケストラ)
- * 「保護者からは、自分の子どもが非常に貴重な経験をさせてもらったことに対する感謝の声が多く聞かれた」(学校No.30・歌舞伎)
- * 「学校には文化祭の時くらいしかお越し頂く機会がなかったので、学校にお越し頂き、子どもたちの様子も知って頂くよいきっかけになった」(学校No.35・演芸)

(6) 団体にも副次的な効果

本事業の制作団体に対するアンケート調査結果で、本事業を通じた団体側での成果として、「子どもたちの反応が素直で純粋であるので、技術力や人間力の研鑽の場にもなった」(80.0%)、「演(奏)者にとって、演技・演奏だけではなく、ワークショップなどの開催を通じて、『教えること』について学ぶ機会となった」(77.3%)、「自らの団体に関わる文化芸術分野にとって、観客層の裾野の拡大に貢献できた」(76.0%)、「本事業への参加を通じて、子どもたちだけに限らず、観客に飽きずに楽しんで鑑賞してもらえるように、公演などを

工夫するようになった」(69.3%)、などの項目があげられていた。

上記のとおり、本事業の実施により、児童・生徒だけではなく、制作団体側にも副次的にさまざまな効果があったことが確認できた。

- * 「ワークショップでは団員が生徒を指導する。もともと団員は指導のプロではないが、歌い方の指導もできなければならないという趣旨のもと、現場で学んでいる」(団体No.1・合唱)
- * 「子どものリクエストに応じていくために、合唱曲のレパートリーが増えている」(団体No.1・合唱)
- * 「良いものを作ってさえいれば、そのうち分かる人が見に来てくれると思っていたが、待っているだけではなく、こちらの方からかみ砕いて、社会に働きかけていかなければならないことに、本事業を通じて気付かされた」(団体No.6・バレエ)
- * 「本事業の経験を受けて、トップレベルの公演でも開演前に簡単に解説を加えるようになった。芸術家は言葉にしたり、文章にしたりすることを嫌がってきたが、今では両方できないといけないと考えるようになった」(団体No.6・バレエ)
- * 「小中学校の時にバレエを習っていない普通の子どもが鑑賞する機会が1回でもあれば、大人になってからもバレエを楽しむ機会を持つかもしれないし、海外を訪れた際に海外のバレエを見ようと思うかもしれない。本事業はバレエファンの裾野を広げるための素晴らしい取り組みである」(団体No.7・バレエ)
- * 「以前は、舞台から観客を見下ろす視点で作品づくりをしていた。子どもをはじめ、一般の方々と一緒に舞台を創り上げるという取り組みを通じて、枠に捉われない表現力から学ばせてもらうことは非常に多い。特に、子どもたちの発想力は作品づくりに生かしている」(団体No.8・現代舞踊)
- * 「本事業は、世間的にマイナーな能楽を、全国の子どもたちに体験をさせながら身近に感じてもらい、裾野を広げていける非常に有益なチャンスだと捉えている。本事業がないと、子どもたちに能楽を観てもらえる機会は極端に減ってしまうだろう」(団体No.15・能楽)
- * 「本事業は古典芸能を未来につなげる力にもなると思う。学校での公演を近所の人が見に来てくれたこともあり、「昔の芸能鑑賞はこうだったのだな」と感じる。今は鑑賞する際に大人と子どもが分離されてしまっているの、自分たちもこの機会に子どもがどういう反応をするのか知ることが出来て面白い」(団体No.17・人形浄瑠璃)

2. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の課題

(1) 低い認知度および伸びない申請数

全国の小・中学校の教員を対象としたアンケート調査において、本事業の経験・認識に関しては、「事業のことをまったく知らなかった」が過半数を超えていた(52.0%)。

このような本事業の認知度の低さを背景として、平成22年度の申請件数は2,887件にとどまっており、これは全国の学校のうちの約8.5%の水準である。

また、全国の小・中学校の教員を対象としたアンケート調査において、本事業の経験・認識に関して、「事業のことを知ってはいた」(37.2%)に対して、「申請を検討したことはある」(10.8%)となっており、事業を認知しているにも関わらず、申請の検討に至っていない教員の割合が高い(71.0%)という実態が明らかとなった。

この背景としては、平成15年度の採択率が16.0%であったことから、「本事業は採択されにくい」というイメージが定着してしまい、そのため採択率が50%以上となっている現在でも、申請数が伸びていないものと推測される。

こうしたことから、本事業の認知度の向上および申請数の増大が今後の大きな課題であることが浮き彫りとなった。

(2) 申請と採択に関するジレンマ

本事業の採択校数は平成22年度で1,582件（本公演の実施校数は2,237校）となっており、申請に対する採択率は54.8%、また、全国の学校のうち約6.6%が本事業を実施した結果となっている。

上述したとおり、今後は申請数を伸ばしていくことが期待される一方で、本事業自体の規模（予算額および採択校数）を拡大しないかぎり、採択率が低下してしまうという課題がある。

また、採択校数（実施校数）を増やす場合、予算面での制約とともに、一定以上の水準の文化団体を選定・提供する体制の構築が困難である、というジレンマを本事業は抱えている。

(3) 本事業実施後のフォローが必要

本事業の制作団体を対象としたアンケート調査において、本事業の効果・影響として、多くの団体が「子どもたちが文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まった」(70.7%)をあげている。

一方で、単純に比較することはできないデータではあるが、実際の児童・生徒の中で「文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組むようになった」と回答したのは約2割(20.6%)にしかならない。

この背景としては、本事業の結果、児童・生徒に鑑賞や自身での文化芸術活動への意欲

が生じたとしても、実際に文化芸術を鑑賞したり、文化芸術を習ったりすることができる場や機会が少ない地域においては、次の活動につながっていないためであると推測される。

(4) 本格的な評価・検証が必要

本事業に関しては、事業を実施した学校が事業完了後に簡便な「実施状況報告書」を提出しているものの、本格的な実態把握および効果の検証については今まで実施されていなかった。

今後は、本事業のステークホルダー（文化庁、教育委員会、学校、制作団体、仲介事業者、評価検証機関など）を対象としてPDCA（Plan：計画→Do：実施→Check：評価→Action：改善）サイクルを構築することが課題であると考えられる。

3. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」自体に関する提案

(1) アーティストとの共演や交流の拡充

本事業の大きな特徴として、公演の前に別途必ずワークショップを行い、公演当日には子どもたちと文化団体が共演するなど、単に鑑賞だけでなく、子どもたちとアーティストとのさまざまな交流の場面がある点があげられる。

実際、今回のアンケート調査において、印象に残っている点として「アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった」と回答した児童・生徒の割合は、全体の3割弱(29.2%)とあまり多くないものの、一方で、このように回答した児童・生徒に関しては、以下のようにその後の生活や行動に関して、ほとんど全ての項目で最も顕著な変化が生じている。

- * 「帰宅後に家族と公演のことについて話した」が最多(84.2%)
- * 「公演のことについて友だちや先生と話をした」が最多(66.2%)
- * 「音楽や国語などの勉強に取り組むようになった」が最多(52.4%)
- * 「文化芸術関係の行事や部活動に取り組むようになった」が最多(33.7%)
- * 「人に会ったときに進んで挨拶するようになった」が最多(59.5%)
- * 「夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった」が最多(53.9%)
- * 今後の鑑賞意向「あり」(「とてもそう思う」と「そう思う」の合計)が最多(83.5%)
- * 今後の自身での文化芸術活動の意向「あり」(「とてもそう思う」と「そう思う」の合計)が最多(62.5%)

このことから、「アーティストとの共演や交流」が、児童・生徒のその後の行動に対して最も影響力の強い要因であると考えられるため、今後の本事業においても「アーティストとの共演や交流」により重視を置いた展開が望まれる。

具体的には、本事業の制作団体の選考に際して、子どもたちとの共演や交流に関する付加的な提案やプレゼンテーションを求めるなどして、子どもたちとアーティストとの共演や交流が今後より拡充されるようにすることが望ましいと考えられる。

- * 「ミュージカルを行った学校ではあったが、評価委員が、児童に今年1年間で最も印象的な出来事はなんでしたか?と尋ねたところ、ミュージカルで団体と共演したと答えた児童が何人もいたと聞いている」(教委No.2)
- * 「本公演当日は地域の方が80名ほど鑑賞にいらっしやり、その前で演技をし、大きな拍手をもらったことで、自分なりに表現したことが観客に認めてもらえて嬉しかったとの感想も聞いている」(教委No.2)
- * 「本事業はたんなる鑑賞事業ではなく、体験型のワークショップがあるので、アーティ

- ストと子どもの距離が近くなり、子どもたちに対する効果・影響も大きいと考えている」(教委No.12)
- * 「本公演だけでなく、ワークショップを実施して子どもたちが自ら学んだ後に本公演を体験するという流れは、児童が「自分たちも本公演の一部に関与している」という感覚を持たせることにつながっている」(教委No.19)
 - * 「文化芸術を鑑賞する機会自体は全くないわけではないが、プロのアーティストと共演する機会は本事業でしかあり得ない。子どもたちにはすごく新鮮な体験で、大きな感動をもたらしていると聞いている」(教委No.24)
 - * 「プロと一緒に踊り、触れあう中で、表現の楽しさや面白さを存分に味わっていた」(学校No.1・邦舞)
 - * 「子どもたちは、単に観ているだけではなく、自分たちも一緒に参加して舞台を作り上げたので、充実感・達成感を得たようである」(学校No.4・バレエ)
 - * 「ワークショップや交歓給食の時間には、普段は大人しい生徒も積極的に団員に合唱のことについて質問をしていたことが、印象的だった」(学校No.9・合唱)
 - * 「劇団で働く人と直接触れ合えて、子どもたちも団員の方々に親近感を感じていたようである。また、直接声をかけてもらったりして感動があったようだ」(学校No.14・演劇)
 - * 「6年生にこの1年間で最も印象に残っている思い出を尋ねたところ、本事業の経験がトップであった」(学校No.24・邦舞)
 - * 「ワークショップがあることで、児童に参画意識が生まれ、親近感も湧くため、主体的な関わり方ができる。実際に、本事業に触発されて生徒の中に漫才コンビが誕生したが、これも受け身ではなく能動的に鑑賞できたからこそその結果だと考えている。自分の同級生が共演している様子を見ることで、他の生徒にとってもより親近感をもって鑑賞できたと同時に、刺激にもなったようだ」(学校No.28・演芸)
 - * 「本公演で舞台上上がった同級生たちに対し、一生懸命に声援を送っている生徒たちの様子も印象的だった」(学校No.30・歌舞伎)
 - * 「プロの方なので、子どもたちが接するには敷居が高いかなと心配していたが、非常にフレンドリーに子どもたちに接してくれていたのも、子どもたちも心を開いて指導を受け入れていたように感じている。特に、プロから褒めてもらえたという経験が自信になったのではないかと感じている」(学校No.31・児童劇)
 - * 「新学習指導要領が今年度より改善され、「体験的に学ぶ」という内容が含まれているが、この実践は小さい学校にはとても負担が大きく、実際の機会にはあまり恵まれていない。本事業のように、芸術文化のプロを無料でお呼びできる機会ができれば、それを活用し、体験を通して学ぶ機会をつくることのできる。小さい学校にとっては、この取組みの意義は大きい」(学校No.33・児童劇)
 - * 「本公演の前に、劇団の方とワークショップを実施して、劇団員が子どもたちと触れ合ってくれたので、子どもたちの心が解きほぐされて、子どもたちが演劇に親しみやすい

下地ができていた。そして、子どもたちはワークショップを記憶して、本公演を楽しみに待っていたため、ワークショップをやった意味は十分にあったと思う」(学校No.33・児童劇)

- * 「ふだんの学校生活では問題行動も多く、何事にもあまり興味が湧かない児童がいたが、本事業のワークショップを通じて、団員の方に積極的に声を掛けてもらい、頑張りを認められたことで、見違えるように態度が変わった。その態度の変化に期待し、放送委員を任せるところ(これまでの態度であれば決して任せることはなかった)、責任を持って対応をしてくれた」(学校No.34・児童劇)
- * 「ワークショップに参加した生徒たちは、大きな達成感を得たようであり、一生の思い出となっているようである」(学校No.36・音楽劇)
- * 「普段は自分をうまく表現できない生徒も、積極的に参加できた。そして、「自分でもできるんだ」と自信がつき、生活態度などが良い方向に変化した」(学校No.36・音楽劇)
- * 「本校には大人しくて自己表現を苦手する生徒が多いが、特に本公演でキャストとして共演した生徒たちは、プロの役者から表現の仕方の指導を受けたことで、自分を表現することに自信をつけることができたのではないかと感じている」(学校No.38・ミュージカル)
- * 「本事業の良さは、参加型である点。ワークショップを経験することで、生徒は本番当日を心から楽しみに毎日を過ごすようになる。また、全員が参加できなくても、自分の友達がプロと一緒に舞台に立つことで公演がより一層身近なものとなり、主体性をもって鑑賞することができる。お客様として鑑賞するだけのプログラムと比較して、より強い興味・関心の喚起につながる効果があると考えている」(学校No.41・ミュージカル)
- * 「鑑賞するだけのプログラムと、参加が伴うものとは、子どもたちの関わり方がまったく異なる。ただ観るだけのものはあえて学校で開催する必要はないだろう」(学校No.41・ミュージカル)
- * 「劇場に出向いてお客様として鑑賞するのではなく、普段使用している体育館で実施することで、日常空間がプロの手で激的に変化するという発見につながり、参加も伴うため、学校を実施場所とすることは大変良いことだと考えている」(学校No.41・ミュージカル)

(2) 本事業の意義のアピール

前述したとおり、本事業の最大の特徴は「児童・生徒とアーティストの共演や交流」にあると言える。

ただし、上述した全国の教員へのアンケート調査において、本事業への興味を尋ねているが、「児童・生徒が文化芸術団体と共演できる」(28.5%)、「舞台裏見学や質問コーナーなど文化芸術団体との交流がある」(18.7%)の2つの項目に関しては、「近隣校と合同開催ができる」(9.1%)に次いで興味が低い項目となっている。

こうした結果を勘案すると、本事業の認知度の向上にあたっては、本事業において「児童・生徒とアーティストの共演や交流」が可能であり、そのことが児童・生徒のその後の活動に対して大きなインパクトをもたらしていることを併せてアピールすることが肝要であると考えられる。

なお、本事業の意義・効果をアピールするにあたっては、「インフォグラフィック (infographics)」の手法を用いることがアイデアとして考えられる。この「インフォグラフィック」とは、「インフォメーション」と「グラフィック」をかけあわせた造語で、情報、データ、知識を、分かりやすいイラストやグラフなどで視覚的に表現する手法のことである。

そして、本事業の意義を教員に対してだけアピールするのではなく、広く社会に対して情報発信していくことが必要であると考えられる。そのためには、プレスリリースの雛形を文化庁においてあらかじめ作成し、教育委員会や開催校に配布することも一つのアイデアである。

また、文化庁および本事業のサイトにおいて、本事業を 5 分程度のショート・クリップで紹介することも効果的であると考えられる。こうした映像を制作するためには、あらかじめ肖像権やプライバシーなどの問題をクリアしておくことが必要である。

- * 「学校側がプレスリリースを出す場合もあるが、事業決定後に市でまとめてプレスリリースを出している。また、市役所の記者クラブが、文化芸術関連のネタを常に探しているため、適宜情報を提供して新聞等で取り上げてもらっている」(教委No.4)
- * 「報告書の内容を広く共有することはしていない。要項に子どもたちの感想文や報告書を公開する可能性がある旨が明記されていないと、情報開示は難しい」(教委No.29)
- * 「申請代表は教頭先生であることが多いため、応募判断は教頭先生の意識に左右されるところが大きい。教頭先生に本事業の良さを理解してもらうことが、本事業を広めていくうえでひとつの鍵になるのではないかと感じる」(教委No.20)
- * 「最近では、You Tube や Ustream 等の新たなメディアを利用して手軽にアピールできるので、本事業にも適用できないか。団体が行う演奏会は上記メディアで流したりもしている」(団体No.3・オーケストラ)
- * 「事業が実施されると、新聞の地方欄に掲載されることもあるが、よく読まない文化庁の事業だとわからないことが多い」(団体No.10・演劇)
- * 「団体として、プレスリリースは必ず出すようにしている。学校によっては、学校からも発信しているケースはある。そこに文化庁のメッセージ(長官)も掲載すると、メッセージのもつ重みが増してより効果的なプレスリリースができるのではないかと感じる。文化庁がプレスリリースの定型書式をつくって、団体と教育委員会に渡してはどうか」(団体No.11・ミュージカル)
- * 「まだまだ本事業のことを知らない学校がたくさんいるのではないかと感じる。これだ

けの良い事業なので、マスコミを利用して、事業の様子を取り上げてもらうなどの宣伝をもっとして頂きたい」(団体No.14・演芸)

- * 「本事業は説明するよりも、見て頂くのが一番分かりやすい。近隣の学校で開催している際に、他校の先生にも見学に来てもらうようにはできないだろうか」(団体No.14・演芸)
- * 「本事業の採択校はどのような基準で選ばれているのかがよく分からない。基準を明らかにすることで、申請しようと思う学校もあるのではないか」(団体No.14・演芸)
- * 「市の教育委員会が通知文書を送付してくるだけで、特に積極的な広報活動はされていないため、本事業について知らない学校は多い」(学校No.10・オーケストラ)
- * 「紙媒体やインターネット上の情報はあふれているため、副校長会等、複数校の責任者が集まる場で口コミ宣伝するのが最も効果的だと思う」(学校No.13・能楽)
- * 「校長に興味関心を持ってもらうには、校長会等でPRしてもらうとよいだろうか(現状、教委では対応していない)」(学校No.16・邦楽)
- * 「もともと美術の教員であり、本事業のような内容には非常に関心が高い方だと思っているが、当初は全く知らなかった」(学校No.32・バレエ)
- * 「本校に赴任する前(以前は中学校)は、本事業はなかなか採択されるものではないというイメージが強く、応募してこなかった。自分たちのペースで団体と交渉し、企画できる芸術鑑賞会で十分だと考えていたが、本事業を一度経験してみると、これだけ高いレベルの内容を学校の負担なしで実施できることに驚き、これまで活用してこなかったことが悔やまれる」(学校No.42・邦楽)

(3) 教員の意識の喚起

教員を対象としたアンケート調査において、本事業の改善・強化すべき点として、「提出書類の簡素化」が最も多くあげられていた(54.9%)。

ただし、平成23年度における提出書類は、申請時に1枚、事業完了後の報告時に1枚だけであり、既に十分に簡素化されているのが実態である。

一方で、下記の通り、「むやみに応募に対するハードルを下げずに、現在のクオリティを維持していった欲しい」というコメントもあげられている。

むしろ、提出書類をこれ以上いたずらに簡素化してしまうと、「タダだから」といった安易な気持ちでの申請を誘発する懸念もある。

こうしたことから、提出書類をこれ以上簡素化するのではなく、本事業の意義および成果を強調することで、教員が「本事業をぜひ実施してみたい」という意識を喚起することが重要であると考えます。

実際に、全国の小中学校の教員を対象としたアンケート調査において、本事業に「とても関心がある」と回答した教員は、本事業に申請を検討したことがある割合が15.8%(全体平均は10.8%)という結果となっているため、本事業に対する正しい関心を喚起することが

重要であると考えられる。

具体的には、都道府県教育委員会などが主催して本事業に関する説明会を開催し、こうした場面に、文化庁から職員を派遣して、本事業の効果や申請書類が簡便であることなどについて丁寧な説明を行ったり、本事業を体験した教師による報告を行ったりすることも一つのアイデアである。

- * 「個人的には、既に決まっている行事の日程を変更してでも本事業を実施する価値はあると思う」（教委No.11）
- * 「一度採択された学校は続けて申請しているので、学校サイドでも大きな効果があると考えているのだと思う」（教委No.12）
- * 「学校の費用負担無く、このように素晴らしい事業を実施できるのであるから、現状程度の書類を作成することは当然のことと考えている。この程度の書類作成を苦にするような教師ではダメ」（教委No.19）
- * 「特に伝統芸能等のイメージがしづらい種目については、採択された近隣の学校の教員も積極的に鑑賞に行くことを促すとよいかも。書面だけでは、なかなかその魅力は伝わらないので、実際に教員も鑑賞をし、良いと感じれば、次年度に自分の学校でも申請を行うだろう。本事業は、一度経験した教員が異動先で申請するといったいわゆるリピーターの割合も高いはずである。間接的にでも経験した教員を増やすことで、申請数は増加するのではないか」（教委No.27）
- * 「申請に対する意欲は、担当となる先生の力量・意識の高さに拠るところが大きいのは事実」（教委No.30）
- * 「申請書類等のボリュームも妥当であり、公的な資金で実施したことに対してしっかりと効果を示していくためにも、きちんと文章にすることが重要だと考えている。むやみに応募に対するハードルを下げずに、現在のクオリティを維持して欲しい」（教委No.30）
- * 「Web に掲載されている現状のパンフレットでは、本事業の醍醐味は伝わらない。舞台設営の様子とか、本事業ならではの醍醐味が伝わるカットがあるはずなので、写真を吟味して掲載して欲しい」（団体No.14・演芸）
- * 「本事業については「手続きが大変」と思い込んでいた。手続きが大変なことを大抵の教頭は嫌っているので、最初から申請しない教頭も多いと思う。ただし、実際は一度申請してしまうと、たいした手間ではないと理解できる」（学校No.5・合唱）
- * 「申請書については、初年度に舞台図を作成するのに苦戦したが、それ以降は使い回しができているので特に問題はない」（学校No.28・演芸）
- * 「管理職が集まる場で、本事業を経験したものが実体験を交えて宣伝することが、普及させるうえでもっとも効果があると感じている」（学校No.32・バレエ）

(4) 地域格差への対応

児童・生徒へのアンケート調査によると、「文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった」という回答は「不利地域」で最も高かった（38.8%）。

また、「不利地域」は、児童・生徒が「文化部に入っている」割合（11.3%）、文化芸術に関する塾や習い事に「通っている」割合（15.4%）、などが他の地域と比べて最も低い結果となっている。

なお、こうした背景のもと、本事業の実施により、公演終了後から現在までの生活態度の変化については、「人に会ったときにすすんで挨拶するようになった」以外の全ての項目に関して、「不利地域」にて最も変化したという回答が多かった。

上述したような、文化芸術の鑑賞や体験にかかる「不利地域」の課題を解消するために、本事業への申請を行う学校の地理的条件を記載したり、児童・生徒に事前にアンケート調査を行ってもらい、申請分野に関する鑑賞体験の有無のデータを記載してもらったりすることも、対応策として考えられる。

その他、「不利地域」においては、児童・生徒に対する文化芸術体験のインパクトを継続的に把握・検証することを目的として、同一校において複数年連続で開催する「モデル校」を各ブロックに数校程度設定するなどして、児童・生徒に対して単年度開催よりも大きな効果・影響が生じるかどうかを把握することも、今後の事業展開あたっての一つのアイデアである。

- * 「田舎の学校で、子どもたちが文化・芸術的な公演を見たり参加したりする機会が少ないので、学校行事として公演が行えることは、子どもたちに豊かな心を育てるためにとってもいいことである」（学校No.31・児童劇）
- * 「離島であるこの島で子どもたちが文化芸術に触れられる機会は、地域で開催される文化祭レベルのものがある程度であり、本物の文化芸術に触れられる機会はほとんどない」（学校No.32・バレエ）
- * 「保護者・地域の方も島内はおろか、県内でもバレエを鑑賞できる機会はほとんどないため、非常に多くの方が参加してくれ、非常に喜ばれていた」（学校No.32・バレエ）
- * 「小規模校では、保護者負担を集めたとしても金額が足りないし、地域的にも保護者の関心が低い傾向にあり、わざわざホールに連れて行ってもらえる機会は子供たちにはない。そのような地域では学校が本物の文化芸術に触れる機会を作らなければならないと考えている」（学校No.34・児童劇）
- * 「離島の子どもたちが本物の文化芸術に触れられる機会は本事業以外ではほとんどあり得ない」（学校No.35・演芸）
- * 「離島でこのような貴重な経験ができる機会はない」（学校No.35・演芸）
- * 「地方の郊外にあるような地域なので、文化芸術に触れる機会が極めて少ない」（学校No.39・演劇）

(5) サブタイトルの検討

本事業の名称「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」は、その名称だけでは事業内容や対象者がわかりにくい、名称が覚えにくい、などの指摘もされているため、事業の効果や特徴を表現するサブタイトル（愛称）を付与することも一つのアイデアである。

(6) 参加団体の拡充

本事業の効果をより高めていくためには、本事業の趣旨を深く理解し、熱意を持って取り組む文化芸術団体について、質・量ともに拡充していくことが必要である。

そのため、本事業に応募する団体が増大するように、文化団体の関連組織（たとえば、演劇分野であれば、中堅の劇団が多く所属している「社団法人日本劇団協議会」など）や関連するサイト（たとえば、演劇分野であれば [fringe<http://fringe.jp/>](http://fringe.jp/)、音楽分野であれば ONKAN ウェブネット<<http://onkan-web.net/index.php>>など）に対して、より積極的に宣伝などを行っていくことが望ましい。

また、採択後の団体と文化庁とのコミュニケーションの場を設定することにより、本事業の意義を再確認するとともに、公的サービスの提供者としての文化団体の意識をより喚起していくことが望まれる。

4. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」の評価に関する提案

(1) 児童・生徒による評価の継続的な実施

本調査においては前年度(平成 22 年度)の事業を対象として、平成 23 年度にアンケート調査を実施したが、もしも本公演が平成 22 年の秋に開催されていた場合、アンケート調査までに一年半もの時間が経過してしまうこととなる。

この間に、児童・生徒(特に小学校の低学年)にとっては記憶が曖昧になってしまう、担当する教員にとっては異動が起こることもあるなど、アンケート調査実施にあたってのさまざまな課題が浮かび上がってきた。

たとえば、「学校以外で文化芸術を間近で鑑賞した経験」という設問に対して、小学校 2 年生(本事業の実施時点では 1 年生)は 4 分の 1 強(25.1%)が「よく覚えていない」と回答している。

そこで今後の調査においては、公演終了後に、長い時間をおかずにアンケート調査を実施することが望ましいと考えられる。

なお、本調査で実施したアンケート調査項目に関しては、低学年の児童には回答が難しかったとのコメントが教員からあげられていたため、今後の本格実施に当たっては、今回の調査との継続性に考慮しつつ、回答しやすくするための工夫が必要であると考えられる。

具体的には、「ワークショップ」参加の有無を確認するとともに、ワークショップに対する感想の設問を追加したり、コメントであげられているような選択肢を追加したりすることが考えられる。

また、本事業は、課題を抱えた児童・生徒に対しての効果も期待されるため、こうしたソーシャル・インクルージョンの面での効果を把握するための手法についても、今後検討が必要である。

- * 「鑑賞後の意識や行動変化を把握する設問で、「テレビ等で取り上げられていると興味を持って目を向けるようになった」くらいの、もっと低いレベルの意識や行動の変化の選択肢を増やして、ほぼ全員が丸をつけて、文化芸術に対する意識が芽生えたと評価できるとよいのではないか。また、表現が少し難しく感じたので、小学校の低学年では回答が難しかっただろう」(教委No.27)
- * 「アンケート調査の実施にあたっては、子どもたちは一昨年のことなのであまり覚えていないが多かった。また、本校で今年度はミュージカルの公演を実施しているので、ミュージカルの方に頭が行ってしまったようである。アンケート調査は本公演の実施から、もっと早い時期にやっていただきたい」(学校No.5・合唱)
- * 「問 3. の選択肢において、文化活動の定義が生徒にとっては難しすぎた。教師の間でもどう説明すれば良いのか、混乱があったようだ」(学校No.41・ミュージカル)

(2) 教員による評価を新たに実施

本調査においては、児童・生徒と制作団体の間に、公演の受け止め方に関しての意識の差があることが確認できたが、同様の意識の差は、児童・生徒と教員の間にも存在するものと推測される。

そこで今後は、ワークショップと本公演の両方に参加した教員を対象としたアンケート調査を新たに実施することが望ましい。このように教員を対象とした調査を実施することにより、児童・生徒と教員の受け止め方の違いが確認できるとともに、その事実を確認することは、その後の教育現場において活用できるものと期待される。

* 「これからは、今回のようなアンケート等が課されることになるのかもしれないが、これだけの手厚い対応をして頂いているので、当然だと思う」(教委No.2)

(3) 制作団体への評価情報のフィードバック

今年度調査においては、制作団体の本事業に対する意識を把握することを主たる目的としてアンケート調査を実施したが、今回の調査によって概ねその目的を達したと考えられるため、次年度以降においては特に必要はないと考える。

ただし、後述するとおり、児童・生徒を対象としたアンケート調査の結果(学校単位、年度合計)を制作団体にフィードバックすることにより、よりよい事業展開につなげていく循環を構築することが望ましいと考えられる。

(4) 「B区分団体」に関する検証

本事業に関しては、平成23年度から3年間継続して同じ地域ブロックにおいて事業を担当する団体を「B区分団体」と位置づける仕組みを導入している。

次年度以降の検証においては、この「B区分団体」という仕組みの妥当性に関しても検証を行っていくことが必要である。

具体的には、選抜された団体(内容、数)の妥当性、分割された地域ブロックの妥当性、制度自体の妥当性などを検証することが必要である。

また、こうしたブロック区分が妥当であると判断される場合、ブロック別のパンフレットの必要性や広報のあり方についても検討が必要である。

* 「各地に根ざした団体があるにも関わらず、わざわざ遠い場所に振り分ける必要があるのか。それぞれのブロックに拠点を置く団体が、そのブロックを担当する仕組みにできないものか」(団体No.2・合唱)

* 「B区分に認定されているため、3年間同じ地域で公演することができる。そのため、本事業を経験した先生が他校に異動をした際に、異動した学校ですぐに応募してくれた。先生の口コミによる効果は非常に大きいので、同じ地域で公演できる効果は大きい

と感じている」(団体No.3・オーケストラ)

- * 「地域との関係性をつくりながら、3年間じっくり取り組めることが大きなメリット。特に、演劇は他のジャンルと比べて子どもたちが抱える問題に対して与える影響力が最も大きいと言えるため、子どもの変化、反応を継続して見守れることは非常に有り難いことで、やり甲斐も責任も大きい」(団体No.11・ミュージカル)
- * 「本事業の趣旨を十分に理解して、本気になって取り組める団体が B 団体に採用してもらえれば仕組みになるとより良い事業が展開していけると思うのだが。B 団体の審査基準を明確にする等、審査方式をもう少し工夫した方が良いのではないか」(団体No.11・ミュージカル)
- * 「10 ブロック制よりは、以前の 6 ブロック制(北海道・東北、関東・甲信越、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄)の方がマスコミの協力が得られやすく(総局レベルで取り扱ってもらえる)、事業の浸透度が高いのではないかと考えている」(団体No.11・ミュージカル)
- * 「特別支援学校でのワークショップおよび公演には、特別なノウハウが必要となるため、全国を 3 ブロック程度に分割して、ノウハウをもっている団体が担当する仕組みにした方が良いのではないか。特別支援学校に対する文化芸術事業のあり方については、世界的にもまだまだ未発達な領域であるため、本事業で取り組めばモデルを示していくことができる」(団体No.11・ミュージカル)

(5) 本事業に関する包括的な PDCA サイクルの構築

本事業に関して、下図のとおり、教育委員会からの申請を受け付ける時点からの系統的なデータの収集・分析、アンケート調査の実施から分析、フィードバックまでも含めた、包括的な PDCA サイクルを構築することが必要である。

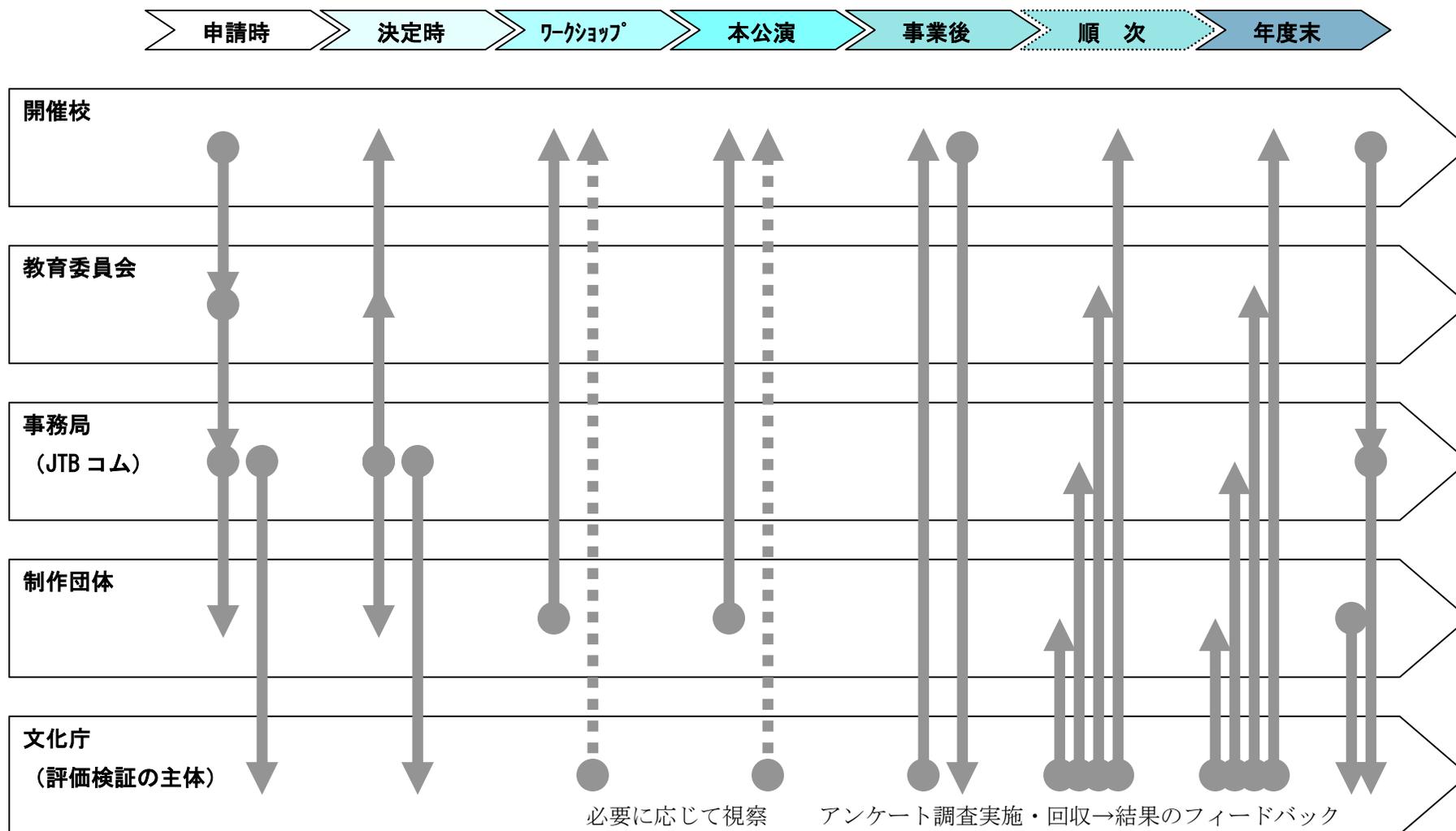
児童・生徒および教員を対象としたアンケート調査に関しては、各学校での公演が完了するごとに間を空けずに実施し、各学校単位に集計のうえ、結果を当該学校と所轄の教育委員会(都道府県、市区町村)、および公演を担当した団体にフィードバックすることが望ましい。

また、追加公演を含めて年度の事業が終了した時点で、今年度と同様に全体での集計を行うとともに、その結果を教育委員会(都道府県)および制作団体にフィードバックするというイメージである。

そして、これらのアンケート調査結果を踏まえ、それに対するコメントも含めた「最終報告」を、制作団体から文化庁に提出することが望ましいと考えられる。

このような評価の実施に関しては、「文化芸術の効果・影響は短期的には把握することが出来ない」との指摘がなされることもあるが、公共的な政策として本事業を実施している以上、事業の意義・効果を検証し、それを事業の改善につなげていくことは不可欠であると考えられる。

図 86 本事業の評価・検証に関する情報の流れ（イメージ図）



【参考資料】

1. 児童・生徒へのアンケート調査票
2. 教員へのアンケート調査票
3. 団体へのアンケート調査票

1. 児童・生徒へのアンケート調査票

次代を担う子どもの文化芸術体験事業アンケート（児童・生徒用）

年 組 番

先生のお話を聞いて公演当日及び終了後のことを思い出して、以下の質問について、該当する番号に○もしくは該当する内容を記入して下さい。

先生のお話を聞いて、1年前の学年のときに鑑賞した公演の種類を書いて下さい。

問1. 公演のどんな点が今でも特に印象に残っていますか。（○は当てはまるものすべて）

1. アーティストの熱演を間近で鑑賞して感動した
2. 分かりやすく解説をしてもらえたのでとても興味を持つことができた
3. 公演の成功は美術、照明、音響などのスタッフの方の力も重要だと感じた
4. アーティストとの共演や交流は忘れられない経験となった
5. 学校の体育館が舞台装置によってその日だけ特別な空間に感じた
6. 公演の準備や片付けの様子を見て感動の裏側にある苦労や努力を感じた
7. 日本文化の素晴らしさを感じた
8. 特にない
9. その他（)

問2. 公演終了後、あなたはどのような行動をとりましたか。（○は当てはまるものすべて）

1. 公演のことについて友だちや先生と話をした
2. 帰宅後に家族と公演のことについて話をした
3. 図書室やインターネットなどで文化芸術（今回の種目）について調べた
4. 特にない
5. その他（)

問3. 公演終了後から現在までで、あなたの生活で変化したことはありますか。

(○は当てはまるものすべて)

1. 文化芸術関係の行事（合唱コンクール等）や部活動に今までよりもやる気を出して取り組むようになった
2. 音楽や国語などの関係する教科の勉強に今までよりもやる気を出して取り組むようになった
3. 家族などと休日に文化芸術を鑑賞する機会が増えた
4. 文化芸術関係の習い事に通い始めるようになった
5. 文化部活動に参加するようになった
6. 特にない
7. その他（)

問4. 公演終了後から現在までで、あなたの生活態度で変化したことはありますか。

(○は当てはまるものすべて)

1. 人に会ったときにすすんであいさつするようになった
2. 自分の考えや意見をクラスの友だちなどにすすんで話すようになった
3. 発表したり、人に話したりするときに、うまく伝わるように工夫するようになった
4. 難しいことに対しても、失敗を恐れずに挑戦するようになった
5. 将来の夢や目標に向かって今まで以上に努力するようになった
6. 学校が今まで以上に好きになった
7. 特にない
8. その他（)

あなたの文化芸術の体験状況等の以下の質問について、該当する番号に○もしくは該当する内容を記入して下さい。

問5. あなたは公演当日まで、学校の行事以外で家の人に劇場やホールに連れて行ってもらうて、文化芸術（◆）を間近で鑑賞したことはありましたか。（○は1つ）

1. 文化芸術を間近で鑑賞したのは今回が初めてだった
2. 他の種目を鑑賞したことはあったが今回の種目の鑑賞は初めてだった
3. 今回の種目も鑑賞したことがあった
4. よく覚えていない

◆対象とする文化芸術の種目は以下の通り。CDやDVDによる鑑賞は除く。

- ・「音楽」（合唱、オーケストラ、音楽劇）※ポピュラー音楽のコンサートは除く
- ・「演劇」（演劇、児童劇、ミュージカル）
- ・「伝統芸能」（歌舞伎、演芸、能楽、邦楽、邦舞、人形浄瑠璃）
- ・「舞踊」（バレエ、現代舞踊）

問6. あなたは、文化芸術に関する塾や習い事などに通っていますか。（○は1つ）

1. 通っている（習っている内容を教えてください：)
2. 通っていない

問7. あなたは、学校で部活動などをしていきますか。（○は1つ）

1. 文化部に入っている（部の名前を教えてください：)
2. 運動部に入っている
3. 部活動をしていない

問8. これからも積極的せっきよくてきに文化芸術ぶんかげいじゆつを鑑賞かんしょうしたいですか。(○は1つ)まる

1. とてもおもそう思う
2. そうおも思う
3. そうおも思わない
4. まったくおもそう思わない

問9. 鑑賞かんしょうだけでなく、自分で文化芸術活動ぶんかげいじゆつかつどうをしてみたいですか (※すでに活動かつどうしている方はかた

継続けいぞくしたいか)。 (○は1つ)まる

1. とてもおもそう思う
2. そうおも思う
3. そうおも思わない
4. まったくおもそう思わない

しつもん いじょう きょうりよく
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2. 教員へのアンケート調査票

1. スクリーニング設問

F 1. あなたの所属する学校、役職、専門教科についてお答え下さい。(○はそれぞれ1つ)

区分	種別	役職	専門教科
1. 国立	1. 小学校	1. 教諭	1. 国語 2. 社会 3. 算数・
2. 公立	2. 中学校	2. 主幹教諭・指導教諭など	数学 4. 理科 5. 生活
3. 私立	3. 特別支援学校 (小学部・中学部)	3. 副校長・教頭	6. 音楽 7. 図画工作・美術
	4. その他 ()	4. 校長	8. 技術・家庭 9. 体育・保
		5. その他 ()	健体育 10. 外国語
			11. その他 ()

文化庁が主催する「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」（以下、「巡回公演事業」）についてお尋ねします。まず、以下の概要及びWebサイトをご覧ください。

「次代を担う子どもの文化芸術体験事業（巡回公演事業）」とは・・・

文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館などでオーケストラや演劇等の巡回公演を行います。本公演前に文化芸術団体が学校へ赴き、鑑賞指導や実技指導をおこなうワークショップでは、公演の鑑賞や児童・生徒との共演をより効果的なものとすることができます。普段授業などで使っている体育館が、素晴らしい劇場へと変わり優れた舞台芸術を体感することができます。

<http://www.kodomogei-jutsu.com/junkai/index.html> 【公式Webサイト】

<http://www.kodomogei-jutsu.com/index/dl/kodomogei-jyutsu.pdf> 【紹介パンフレット】

<http://www.kodomogei-jutsu.com/junkai/school.html> 【実施の手引き（学校用）】

問1. 巡回公演事業について、あなたの経験・認識（前任校含む）をお答え下さい。(○は1つ)

1. 実施した経験がある
2. 申請をしたことはあるが採択されなかった
3. 申請を検討したことはある（申請には至っていない）
4. 事業のことを知ってはいた（申請には至っていない）
5. 事業のことをまったく知らなかった

問2. あなたは学校の授業や行事などで、文化芸術鑑賞や体験を行うことにどれくらい関心がありますか。(○は1つ)

1. とても関心がある
2. 関心がある
3. あまり関心はない
4. ほとんど関心はない

2. 本事業に対する興味について

問3. 本事業のどのようなところに興味を感じますか。(○は当てはまるものすべて)

1. 非常にレベルの高い文化芸術団体の公演が鑑賞できる
2. 文化芸術団体が直接学校まで来てくれる
3. ワークショップがあるため児童・生徒の理解や興味関心が高まる
4. 児童・生徒が文化芸術団体と共演できる
5. 学校の体育館が舞台装置や演出によって特別な空間になる
6. 舞台裏見学や質問コーナーなどの文化芸術団体との交流がある
7. 日本の伝統文化が体験できる種目が含まれている
8. 近隣校と合同開催ができる
9. 保護者や地域住民も参加できる
10. 学校側の費用負担がほとんどない
11. その他(具体的に: _____)

問4. 本事業で体験できる種目の中で、申請してみたいと感じる種目を選んで下さい。(○は当てはまるものすべて)

【音楽】

1. 合唱
2. オーケストラ
3. 音楽劇

【演劇】

4. 演劇
5. 児童劇
6. ミュージカル

【伝統芸能】

7. 歌舞伎
8. 演芸
9. 能楽
10. 邦楽
11. 邦舞
12. 人形浄瑠璃

【舞踊】

13. バレエ
14. 現代舞踊

15. 特にない

問5. 本事業で体験できる種目を選択するとした場合、どのような点を重視しますか。(○は当てはまるものすべて)

1. 子どもたちが鑑賞する機会があまりないもの
2. 子どもたちが喜びそうなもの
3. 学校のすべての学年で鑑賞しやすいもの
4. 学校での学習と関連性が見出せそうなもの
5. 文化芸術関係の行事や部活動等と関連性が見出せそうなもの
6. 事前準備などの負担感が少なそうなもの
7. 採択の可能性が高そうなもの
8. その他(具体的に: _____)
9. 特にない

問6. 本事業を実施した場合、どのような成果が期待できると思いますか。(○は当てはまるものすべて)

1. 多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができる
2. 文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになる
3. 音楽や国語などの関係する教科の学習意欲が高まる
4. 文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まる
5. 日常生活の態度や姿勢に好影響を与える
6. 文化芸術関係の進路を考えるきっかけになる
7. 教員も表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になる
8. 合同開催することで地域内の交流が深まる
9. 保護者や地域住民にも参加してもらうことで学校教育への理解が深まる
10. その他(具体的に: _____)
11. 特にない

3. 本事業の課題について

問7. 本事業に申請を行うとした場合、どのようなところに課題や不安を感じますか。(○は当てはまるものすべて)

1. 採択倍率がとても高そう
2. 採択後から実施当日までのイメージが湧きにくい
3. 事業を実施した学校の様子や成果があまり伝わらない
4. 文化芸術団体が提供してくれるプログラムのイメージが湧きにくい
5. 各ブロックに割り当てられた文化芸術団体の数が少ない
6. 申請書などの手続きが煩雑に感じる
7. ワークショップと本公演で2回に渡るため、時間の確保が難しい
8. 文化芸術団体との打ち合わせがうまくできるか不安
9. 募集開始から申請までのスケジュールが短い
10. 採択決定の連絡時期が遅い
11. 開催日の学校側の希望の柔軟性があまりなさそう
12. その他(具体的に: _____)
13. 特にない

問8. 本事業のどのようなところが改善・強化されると良いと思われませんか。(○は当てはまるものすべて)

1. Web サイトの内容の充実
2. 学校への配付資料(紙媒体)の内容の充実
3. 教育委員会によるサポートの充実
4. 開催校から近隣校への開催概要および見学などの招待に関する情報の提供
5. 提出書類の簡素化
6. 未実施校の優先採択
7. その他(具体的に: _____)
8. 特にない

問9. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」に類似する他の事例（下記参照）に関する情報をご存知でしたら、事業名称、主催者、情報源（Web の URL など）について情報をご提供ください。

小・中学生を対象として、学校または劇場・音楽堂を舞台として、ライブ・パフォーマンスを体験させたり、ワークショップを行ったりする事業



問10. 本事業の魅力や課題、より良くしていくためのご提案などを学校での実施を検討する教員の立場からご自由にご記入下さい。



以上

3. 団体へのアンケート調査票

【フェイスシート】

F 1. 貴団体が「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」（以下、本事業）において参加されている分野をお答えください。（○は直近の年度の分野を1つだけ）

【音楽】

1. 合唱 2. オーケストラ 3. 音楽劇

【演劇】

4. 演劇 5. 児童劇 6. ミュージカル

【伝統芸能】

7. 歌舞伎 8. 演芸 9. 能楽 10. 邦楽 11. 邦舞 12. 人形浄瑠璃

【舞踊】

13. バレエ 14. 現代舞踊

F 2. 貴団体の名称をご記入ください。

--

【設問】

問 1. 貴団体が本事業を実施した結果、どのような効果・影響があったと考えていますか。
（○は当てはまるものすべて）

1. 多くの子どもたちが初めて文化芸術を目の前で鑑賞する経験ができた
2. 子どもたちが文化芸術をより身近に感じ、興味関心が高まるきっかけになった
3. 子どもたちが音楽や国語など関係する教科を学習する意欲が高まった
4. 子どもたちが文化芸術関係の行事や部活動等へ取り組む意欲が高まった
5. 子どもたちの日常生活の態度や姿勢に好影響を与えた
6. 子どもたちが文化芸術関係の進路を考えるきっかけになった
7. 教員が表現方法や指導方法等を学ぶよい機会になった
8. 近隣校と合同開催したことで地域内の交流が深まった
9. 保護者や地域住民にも参加してもらったことで学校教育への理解が深まった
10. その他（具体的に： _____)
11. 特になし

問2. 問1でお答えいただいた効果・影響の中で、特に象徴的なエピソードがありましたら、下記の欄にご記入ください。(自由回答)

--

問3. 本事業を通じた、貴団体側での成果に関するご意見についてお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

	そう思う	やや思う	あまりそうは思わない	そうは思わない
本事業への参加を通じて、子どもたちだけに限らず、観客に飽きずに楽しんで鑑賞してもらえるように、公演などを工夫するようになった	1	2	3	4
子どもたちの反応が素直で純粹であるので、技術力や人間力の研鑽の場にもなった	1	2	3	4
演(奏)者にとって、演奏だけではなく、ワークショップなどの開催を通じて、「教えること」について学ぶ機会となった	1	2	3	4
本事業への参加を通じて、演目を拡大することができた	1	2	3	4
自らの団体が関わる文化芸術分野にとって、観客層の裾野の拡大に貢献できた	1	2	3	4

問4. その他、本事業を通じた、貴団体としての成果がございましたら、下記の欄にご記入ください。(自由回答)

--

問5. 本事業は、「本公演」とその事前の「ワークショップ」の組み合わせが特徴となっていますが、この事業内容についてのご意見についてお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

	そう思う	ややそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない
必要に応じて(学校側からワークショップの追加の要望があった場合など)、一定の条件のもとでワークショップを追加できる仕組みが望ましい	1	2	3	4
ワークショップの実施時間については、より効果的に実施するために、現行の「80～100分」よりも短くした方が望ましい	1	2	3	4
大規模校での開催の場合などにおいて、同一の学校で2回連続(同日または翌日)、ワークショップや本公演を行うことができるようにすることが望ましい	1	2	3	4
本公演の実施時期については、現行の「9月以降」ではなく、夏休み前にも実施できるようにすることが望ましい	1	2	3	4

問6. その他、本事業の事業内容に関するご意見がございましたら、下記の欄にご記入ください。(自由回答)

問7. 本事業の実施方法についてのご意見についてお答えください。(○印はそれぞれ1つ)

	そう思う	思う ややそう	あまりそう は思わない	ない そうは思わ
予算の範囲内であれば、地域特性や学校からの要望に基づいて、プログラム内容の一部変更などを、より柔軟に運用できるようにすることが望ましい	1	2	3	4
本事業の広報・宣伝をもっと行うことが望ましい	1	2	3	4
本事業自体や採択団体のプログラム内容について、映像で紹介することが望ましい	1	2	3	4
採択された団体に対して、経理の手続きなどに関するガイダンスを開催することが望ましい	1	2	3	4
本事業に申請した団体が不採択となった場合、当該団体に対して、その理由を説明することが望ましい	1	2	3	4

問8. 貴団体が本事業を実施した際に、実施校から問い合わせや意見があった事項についてお答えください。(○は当てはまるものすべて)

1. 申請（提出）書類に関すること（書類が煩雑、など）
2. 申請校の採択・不採択に関すること（採択基準がわからない、など）
3. 会場条件に関すること
4. ワークショップ参加者の範囲に関すること（全校参加が可能か、など）
5. 鑑賞参加者の受け入れに関すること（地域住民の見学は可能か、など）
6. 学校との事前打ち合わせに関すること
7. その他（具体的に： _____)
8. 特になし

問9. 貴団体が本事業を実施した際に、実施校からの要望によって事業内容などを変更したことがありましたら、以下にその概要をお答えください。(自由回答)

問10. 本事業の実施方法にあたり、貴団体は当該自治体の教育委員会を訪問していますか。(○印は1つ)

1. ほとんど全て訪問している
2. 時間に余裕がある時は訪問している
3. あまり訪問していない
4. 全く訪問していない

問11. その他、本事業をより良い事業とするためのアイデアやご意見がございましたら、下記の欄にご記入ください(自由回答)

問12. 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」に類似する他の事例(下記参照)に関する情報をご存知でしたら、事業名称、主催者、情報源(WebのURLなど)について情報をご提供ください。

小・中学生を対象として、学校または劇場・音楽堂を舞台として、ライブ・パフォーマンスを体験させたり、ワークショップを行ったりする事業

以上でアンケートは終わりです。
ご協力どうもありがとうございました。